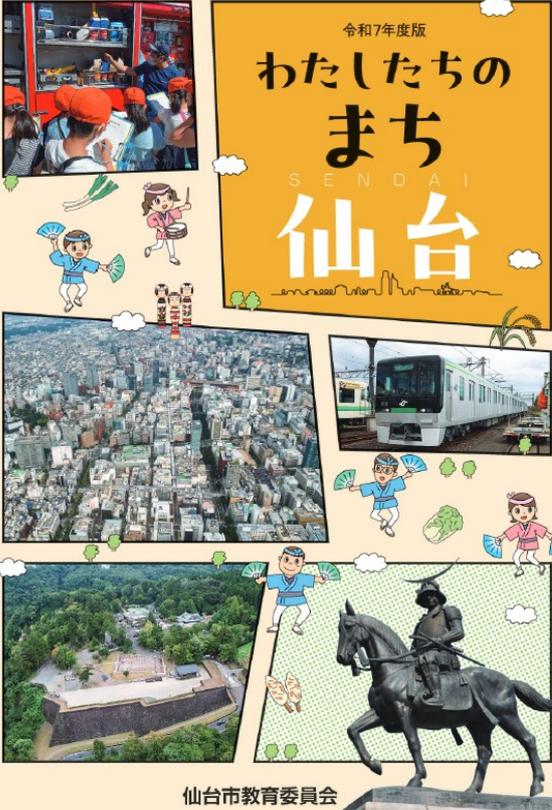


指導の手引き



学校名			3年組
	小学校		4年組
名前			5年組
			6年組



仙台市教育委員会

「わたしたちのまち仙台」活用にあたって

- 学習指導要領に準拠して作成してあります。
- 仙台市の社会的事象や歴史的事象等を学習する上で、基本的な事項を網羅しています。
- 問題解決的な学習が展開できるように単元を構成しました。
- 調べ活動の資料としても活用できるようにしました。
- 選択單元には、A・Bなどのアルファベットが付いています。学校の実態に応じて選択し、学習を進めてください。
- 東日本大震災に関連した内容も取り上げています。
(「仙台市防災教育副読本」も活用願います。)

「指導の手引き」活用にあたって (R7改訂)

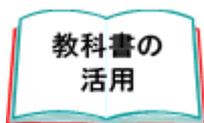
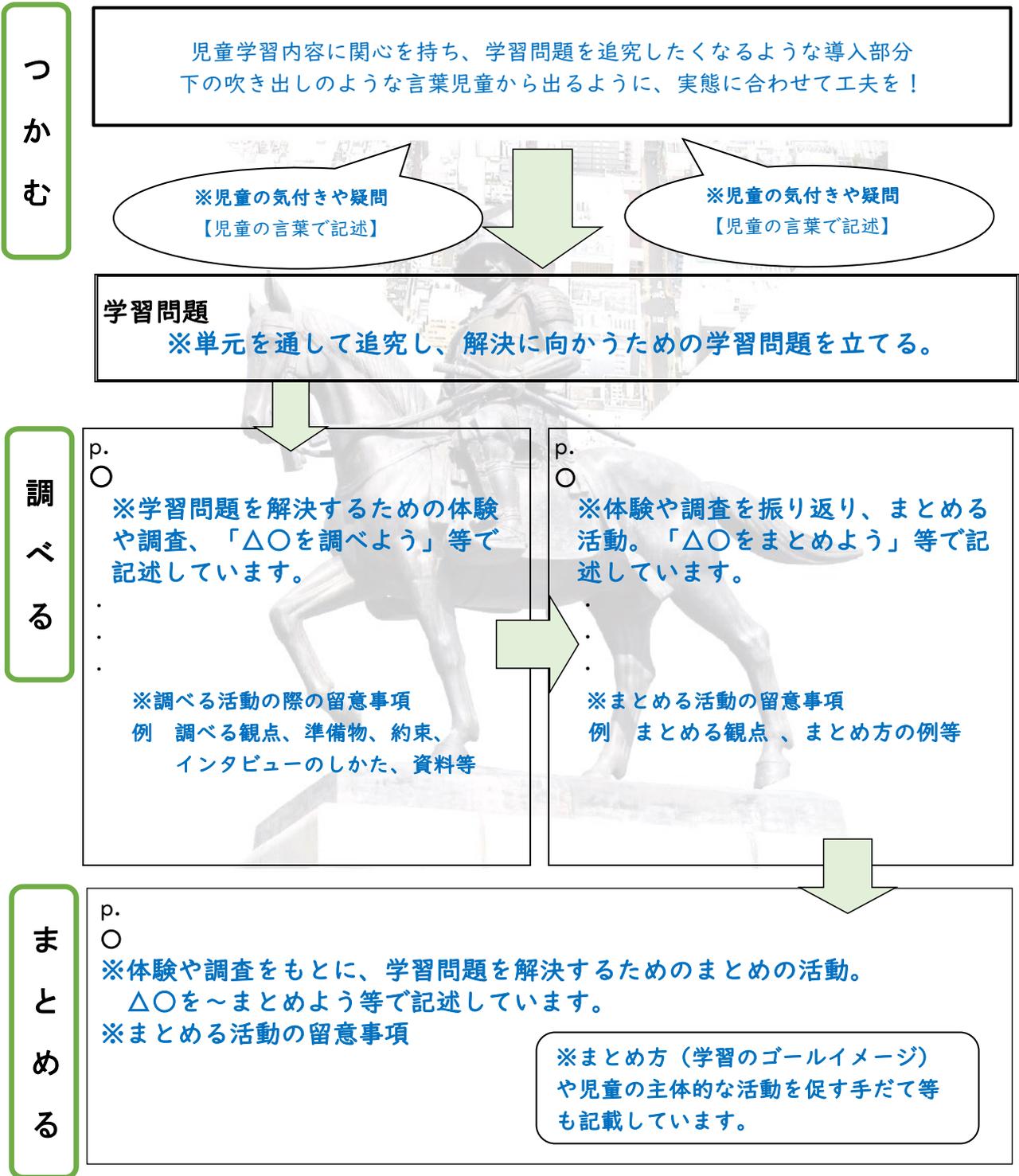
- 本手引きでは、資料編以外の本書見開き毎に、①学習の流れ(例)②本時のねらい③教科書とあわせた活用のポイント④資料の活用の仕方⑤指導と評価について解説しています。
- 指導にあたって配慮する点、写真の説明、取材先の情報など、活用する際の参考になるよう編集しています。
- 各單元のはじめに、「つかむ」→「調べる」→「まとめる」の学習の流れを示した、単元デザインの手引きを作成しました。授業構想を立てる際にご活用ください。
- 学校の実態を考慮して、児童の主体的な学習が展開できるように創意・工夫して御使用ください。
- 「わたしたちのまち仙台」掲載の二次元バーコードを読み取ると、画像・動画等を見ることがができます。

目次

1	わたしたちのまち みんなのまち	
①	学校のまわり	1
②	仙台市の様子	9
③	地図帳を開こう	21
④	〈わたしたちの仙台市には、どんな「作る仕事」があるのだろう〉	24
2	はたらく人とわたしたちの暮らし	
①	選択A わたしたちの暮らしと農家の仕事	27
	選択B わたしたちの暮らしと工場の仕事	33
②	店ではたらく人	41
3	暮らしを守る	
①	暮らしを守る	53
②	事故や事件から暮らしを守る	59
4	市のうつりかわり	
①	市の様子と人々の暮らしのうつりかわり	65
5	すみよい暮らしをつくる	
①	選択A 暮らしをささえる水	79
	選択B 暮らしをささえる都市ガス	88
	選択C 暮らしをささえる電気	89
②	選択A ごみとすみよい暮らし	93
	選択B 使われた水のゆくえ	100
6	自然災害から暮らしを守る	
①	市内で今までに起きた自然災害	105
②	地震から暮らしを守る	108
資料編		
①	仙台市内にあるいろいろな施設	114
②	わたしたちの生活と工業生産	114
③	仙台から情報発信	115
④	情報を生かす産業～運輸業～	115
⑤	わたしたちの生活と政治	116
⑥	地域に残る遺跡や文化財	116
⑦	仙台市名誉市民	118
⑧	国際姉妹・友好都市	120

単元デザイン例の見方

小単元名 p. ~	※小単元名が記載されています。	小単元の目標	※小単元の学習内容を踏まえ、まとめの学習後に児童が到達している目標が示されています。
--------------	-----------------	--------	--



※教科書と副読本を併用する際のポイントを記述しています。

<p>小単元名 p. 2~7</p>	<p>①学校のまわり</p>	<p>小単元の 目標</p>	<p>学校のまわりの様子について、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目させる。観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで学校のまわりの様子を捉える。場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域の様子を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。</p>
------------------------	----------------	--------------------	---

つ
か
む

p. 2

◎学校の東西南北の様子

・2年生のまちたんけんのときに撮影した学校のまわりの写真を提示し、どんな様子の場所だったかを想起させる。

もっと詳しく知りたいな。
わたしも行ってみたいな！

他にもないかな？
みんなでさがしたいな

学習問題

学校のまわりの様子は、どのようになっているのでしょうか。

調
べ
る

p. 2~3

◎学校のまわりの絵地図

- ・絵地図を見て、学校のまわりの様子について話し合う。
- ・方位磁針の使い方と地図の方位について理解する。

p. 3~5

◎くわしい地図を見てみると

◎交通の様子に注目

- ・学校の近くの様子を表した地図を提示し、児童にとって身近な施設などに着目させる。

〈着目させる施設の例〉

- ・幼稚園や郵便局など訪れた場所
- ・道路の様子（幅、交通量など）
- ・家の多いところ、店が多いところなど

ま
と
め
る

p. p. 5~7

◎公共しせつやたて物の様子に注目

- ・道路やバス停に着目させ、交通量やバスの行き先に関心を持たせることで、交通の様子について着目させる。（学区によっては駅も含める。）
- ・公共施設については、初めて学習することになる。先生の吹き出しや教科書の「ことば」を活用して丁寧に指導する。

◎学校のまわりを空から見ると

- ・高いところからみた様子と絵地図の様子とを比べて、方位ごとの様子について発表させる。
- ・さらに遠いところの様子を考えさせることにより、次小単元「仙台市のようす」の学習につなげるようにする。

教科書の
活用

- 教科書、副読本の両方の事例地を取り上げることで自分たちのまちとの類似点、相違点を見付けることができる。他地域の地図に触れることで、地図の見方、方位や地図記号などの理解を深めることができる。

学習の流れ (例)

(1) 本時のめあてについて話し合う。 **5分**

T これまでの学習では、高いところから学校のまわりの様子を観察したり、探検したりしましたね。今日はお気に入りの場所を説明できるように、白地図を用意しました。

C これだと説明しやすいです！

C 方位磁針を使って調べたからどの方向に何があるかはメモしてあるよ。

C 白地図に書き込んでいきたいです！

学校のまわりの様子について、気づいたことを白地図に書き込んで話し合しましょう。

(2) 探検等で調べたことを白地図に書き込む。 **25分**

T 「土地の様子」「交通」「公共施設」に注目して、白地図に書き込んでいきましょう。

C 「交通」の視点で見たら、大通りにはバス停がありました。

C 「公共施設」の視点で見たら、学校の東側にはコミュニティセンターがありました。

C 「土地の様子」の視点で見たら、たくさんの木が生えているところがありました。

(3) 気づいたことを話し合う。 **10分**

T 地図にまとめてみて気づいたことについて話し合しましょう。

C お寺が集まって広がっているよ。江戸時代から続く古いお寺だからかな。

C コミュニティセンターのお祭りに参加したことがあるよ

(4) まとめ・振り返り **5分**

本時のねらい

屋上からの観察や、探検して調べたことを「土地の様子」「交通」「公共施設」に着目して、白地図や文にまとめ、身近な地域の様子について理解する。

教科書と合わせた活用のポイント

教科書 P.8-13 の学習内容を終えてから、本ページ内容に入ることを想定している。「屋上から観察」「学校のまわり探検」については、各学校の実態に応じて実施内容を検討する。社会科としての最初の見学となるため、①予想②予想をもとに何を見てくるか(視点)③記憶だけでなく記録に残す(方法)が大切であることを抑えたうえで、丁寧に学習を積み重ねていく。「社会的事象等について調べまとめる技能 (P.152-153)」を身に付けることも意識する。

1 わたしたちのまち みんなのまち

1 学校のまわり

まちたんけんときに、どんなところがあったか思い出しましょう。

2年生の時の学習の様子が分かる写真等があれば提示

このほかには、どんなものを見つけたか。

方位磁針と地図の方位色がついているはし
のさす方向が北です。
地図はふつう、北を上にして表します。
北を向いてりょう手
右は東、左は西、
は南に
な

四方位について確認する。イラストのように実際に体を使って体感させるとよい。



◎学校の東西南北の様子

だいちゃんたちは、学校の屋上から学校のまわりの様子をかんさつしました。

「生活科のまちたんけんで行った大崎八幡宮のまわりは、林になっていたよ。」

「大きな通りには、バス停があったよ。」

「大きな通りを渡ると、高校が二つあったよ。」



ゆう名な神社があったよ。



学校の西がわには、大きなお店といっしょにゆうびん局があったよ。



牛越橋付近の河原は、芋煮会の場所として人気だよ。



たくさんの木が生えているところがありました。

学校のまわりの様子は、どのようになっているのでしょうか？

資料の活用の仕方

・「だいちさんが書き込んだ絵地図」

児童が白地図に気づいたことを記入する際の参考にする。「土地の様子」「交通」「公共施設」の視点を意識する。

・写真「まちたんけんで見つけた場所」

2年生の時の学習の様子が分かる写真等があれば提示する。また、児童に紹介したい場所を聞き取っておき、教師が事前に写真を撮影しておくことも考えられる。毎年使う教材であることから、各校で教材のデータを整理しておくとうい。写真を基に「ここはどこだろう?」と、クイズ形式で提示することも考えられる。

めあて

学校のまわりの様子について、気づいたことを白地図に書きこんで話し合おう。

〈土地の様子〉

・木がたくさん生えている

〈交通〉

・大通りにバスが通っている

〈公共施設〉

・はちまんコミュニティセンター

探検した地域の白地図

まとめ

学校から見て南がわには・・・「公共施設」は・・・
「交通」でみると・・・「土地の様子」から・・・

1 わたしたちのまち みんなのまち

◎学校のまわりの絵地図

だいちさんたちは、かんさつしてわかったことをもとにして、学校のまわりの様子を絵地図にかきました。



この絵地図からどんなことがわかるか、話し合ってみよう。

「土地の様子」「交通」「公共施設」に着目して白地図に書き込んでいくように声がけする。

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

発言内容や白地図の記述内容から、「地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査して、必要な情報を集め、身近な地域の様子を理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

方位に注目して、土地の様子について読み取れるように、道路と建物の関係に着目できるようにする。白地図に記録する際に、三つの視点のどれについて記録しているのか色や印でわかるようにすることで評価しやすくなる。

実際のまちの様子に忠実な白地図をつくらうとすると時間がかかるため、時間を区切って調べたことを記述する。



交通では、警察の人たちがいつもわたしたちの安全を守ってくれているよ。



学習の流れ（例）

（1）本時のめあてについて話し合う。5分

T 前の時間では、オリジナルの地図ができてきました。先生も一つ地図を用意しましたが、比べて気づいたことはありますか。

C 地図記号で示すと、文章で説明しなくてもまちの様子が分かります。

C すっきりしているけど、僕たちがつくった地図よりくわしいし、わかりやすいですね。

T 今日は〈交通〉の様子に着目して詳しく見ていきましょう。

学校のまわりの様子について、くわしい地図と合わせて見ながら、考えたことを話し合しましょう。

（2）〈交通〉の様子について、探検したコースから分かったことを表にまとめる。20分

【南まわりコース】

C 大通りにはお店が多い

C 大きな川を渡るための橋は二つあって、たくさんの車が通っている

【北まわりコース】

C 住宅地は道路の幅がせまい

C 東北大学病院など、大きな道路の周りには大きな建物が多い

（3）気づいたことを話し合う。10分

T 表にまとめて気づいたことについて話し合しましょう。

C 北と南で比べても、場所によって様子が違う。

C 人通りが多いところは道路もとても広がっている。

（4）まとめ・振り返り 5分

本時のねらい

白地図に示したことを、教師が提示した「くわしい地図」と比べることで、「交通」の様子に着目して、地域の特色について考え、表現する。

教科書と合わせた活用のポイント

教科書 P.15 と P.16 の学習内容の一部を合わせた内容となっている。前時でたっぴりと白地図に書き込む時間を取った上で、本時では「くわしい地図」に触れることで、地図記号の便利さや有用さに気付かせたい。また、ここで探検コースごとに3つの視点から特色について整理していくが、一度に行くと情報量が多いため、まずは〈交通〉のみに注目する。その際教科書も活用し、表にまとめるという学習イメージを持たせたい。

◎くわしい地図を見てみると

先生が学校のまわりの地図を見せてくださいました。

決まった地図記号を使うと、わかりやすくかんたんに表すことができます。絵地図の中で地図記号で表せるところを見つけましょう。



地図記号	
大 学校	田 病院
卍 神社	卍 寺院
〒 郵便局	Y 消防署
⊗ 警察署	× 交番
— 駅	— 橋
◎ 市役所	老人ホーム
田 図書館	博物館
工場	発電所
温泉	煙
荒地	果樹園(果物畑)
城跡	

地図記号を用いることで、より詳細な情報を、簡潔に分かりやすく表すことができるところをおさえる。



ぼくたちがいた絵地図よりくわしいし、わかりやすいね。



縮尺

じっさいのきよりををはかるためのものさしです。使い方を地図帳でも確認しながら、きよりをたしかめてみましょう！

資料の活用の仕方

・「地図記号」「縮尺」

ここでは、地図記号の利便性をつかませたい。地域の実態によっては、学区の地図に使用しない地図記号もあるが、成り立ちなどを示すことで、いろいろな地図記号に対しても関心を持たせたい。

縮尺はこれを基に計算すると、実際の距離が求められることをおさえる。

・地図「くわしい地図を見てみると」

地図の凡例をもとに、じっくりと読み取る時間を確保したい。また、一度使うだけではなかなか定着しないため、他单元でも活用の機会を捉えて積極的に触れていくようにする。

・写真「交通の様子に注目」

実際の風景と地図を関連付けることで理解を深めるようにする。

本時の評価と指導

思考・判断・表現

ノートや共同編集アプリ等の記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子の場所による違いを考え、適切に表現しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

交通とは、道路や車の往来はもちろんのこと、人や物が物理的に行き交うこと全体を示す言葉であることをしっかりと捉えたい。したがって、人通りが多い、少ないという児童の気づきも大切に上げたい。

めあて

学校のまわりの様子〈交通〉について、くわしい地図と合わせて見ながら、考えたことを話し合おう。

子供たちが作成した
絵地図

教師が用意した
詳しい地図
(地図記号入)

	北まわり コース	南まわり コース
土地の様子		
交通		
公共施設		

まとめ

北も南も人通りが多いところは…
道路の幅と建物は…

1 わたしたちのまち みんなのまち

◎交通の様子に注目

道路のはばや道路のまわりの様子。橋などはどうなっているでしょうか。

手で拡大する等して細かく見たり、地図に書き込んだりする等の活用が考えられる。



比較することで特色が見えるため、場所によつてのちがいが明確になるようなコースをつくって児童が考えられるようにしたい。



はばの広い道路



橋

調べてわかったこと

- はばの広い道路と、せまい道路がある。
- 小学校の南がわの道路がいちばん広い。
- いちばん広い道路には、バス停があった。
- 住宅地は、道路のはばがせまい。
- 広い道路の南がわには、大きなたて物が多い。
- 二つある橋は、たくさんの人や車が通行していた。



バス停



はばのせまい道路

学習の流れ（例）

(1) 本時のめあてについて話し合う。**3分**

T 今日「公共施設」「土地の様子」に着目して詳しく見ていきましょう。

学校のまわりの様子について、考えたことを話し合しましょう。

(2) 「公共施設」「土地の様子」の様子について、探検したコースから分かったことを表にまとめる。**20分**

【南まわりコース】

C 川が通っているあたりは土地が低くなっている

C 高校が3つもある。学校の近くには公共施設が多い

【北まわりコース】

C 神社やお寺の近くは木が多く、少し土地が高くなっている。

C 学校の近くには公共施設が多い。

C 広い道路両側に大きな建物が多い

(3) 気づいたことを話し合う。**10分**

T 表にまとめて気づいたことについて話し合しましょう。

C 北と南で土地の様子をくらべると、高さや広さ、使われ方が違うことがわかりました。

C 私たちの学校の周りには公共施設がたくさんあることがわかりました。

(4) まとめ・振り返りと合わせて、「わたしたちのまち」についてこれからどのような学習をしたいか話し合う。**12分**

T 「わたしたちのまち」についてもっと調べてみたいことはありますか。

C もっと広い所を調べてみたいです・

C バスはどこから来るのか、地下鉄はどこまでつながっているか調べたいです。

本時のねらい

白地図に示したことを、教師が提示した「くわしい地図」と比べることで、「公共施設」「土地の様子」に着目して、地域の特色について考え、表現する。

教科書と合わせた活用のポイント

教科書 P.16 と P.17 の学習内容を合わせた内容となっている。前時で「交通」のみに注目したため、本時では、「公共施設」「土地の様子」にも視点を広げる。その際ここでも教科書も活用し、表にまとめることで、「比較する」という思考スキルを働かせて学習するイメージを持たせたい。

また、教科書 P.17 の航空写真と、本書 P.7 「◎学校のまわりを空から見ると」を関連付けて児童に提示し、「もっと遠くはどうなっているのか」という次時につながる問いを引き出したい。

◎公共しせつやたて物の様子に注目



学校やじどう館、消防しよ、公園など、みんなのためにつくられたたて物や場所を「公共しせつ」といいます。公共しせつは、みんなが使う場所なので、大切にしようしましょう。

学校のまわりに多いことに気づかせることで、改めて公共施設の役割について理解を深められるようにする。

- 調べてわかったこと
- 学校のまわりには、市民センターや公園、交番などの公共しせつがたくさんある。
 - 学校のまわりには、神社やお寺など古くからあるたて物もたくさんある。
 - 学校の北がわには、お寺がたくさん集まっているところがある。



資料の活用の仕方

・地図・写真「◎公共しせつやたて物の様子に着目」

実際の風景と地図を関連付けることで理解を深めるようにする。学区内にある身近な施設に着目させる。児童センターや公園など、生活と関わりのあるものを取り上げる。

・写真「◎学校のまわりを空方見ると」

方位を確かめながら、さらに向こうはどうなっているのか興味を持たせ、次小単元の「仙台市の様子」につなげていくようにする

めあて

学校のまわりの様子<公共施設><土地>について、くわしい地図と合わせて見ながら、考えたことを話し合ひましょう。

子供たちが作成した
絵地図

教師が用意した詳しい地図
(地図記号入)

	北まわり コース	南まわり コース
土地の様子		
交通		
公共し せつ		

まとめ

北は建物が多く、南の川が流れているところは土地が低くなっていて…

1 わたしたちのまち みんなのまち

◎学校のまわりを空から見ると

だいちさんたちは、先生に空から学校のまわりをとった写真を見せていただき、これまでの学習と合わせて話し合ひました。



神社のまわりは林になっているんだね。



「学校のまわりには、さまざまな場所があることがわかったね。」



「東の遠くの方には高いビルもたくさん見えたね。」



「わたしたちの住む仙台市全体は、どのような様子なのかな。」

学校のまわりには住人がたくさんあるよ。公共しせつも多
この写真は八幡小学校屋上からドローンを上空に飛ばして撮影した画像である。「学校のまわり」からさらに遠くの様子に関心を広げることで、次時以降の学びへの新たな問いを引き出したい。

はばの広い道路は、どこまでつづいているのかな。



本時の評価と指導

思考・判断・表現

ノートや共同編集アプリ等の記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子の場所による違いを考え、適切に表現しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

交通とは、道路や車の往来はもちろんのこと、人や物が物理的に行き交うこと全体を示す言葉であることをしっかりと捉えたい。したがって、人通りが多い、少ないという児童の気づきも大切にしたい。

<p>小単元名 p. 8～17</p>	<p>②仙台市の様子</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>仙台市の様子について、都道府県における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所などの主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べ、まとめたりすることで市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。</p>
-------------------------	----------------	--------------------	---

つかむ

p. 8～9
◎仙台のまちを空から見てみよう

- ・仙台駅を中心に東の方を撮影している写真なので、地図の方位とは異なっていることを押さえる。
- ・航空写真を見て、行ったことのある場所や知っている場所について話し合う。また、気付いたことを交流させながら、仙台市の様子を大まかに捉えさせる。

仙台の中心には高いビルや大きい道路があるね。

写真に写っていない所はどんな様子なのかな？

学習問題
わたしたちが住んでいる仙台市はどのような様子なのでしょう。

調べる

p. 10～11
◎市の様子を写真や地図で見よう

- ・市の東西南北の空から撮影した写真
- ・主な川、鉄道、道路
- ・八方位での表し方
- ・インターネットを使って調べる方法

グループに分かれて、土地の様子や使われ方について調べる。その際、巻末資料の地図を活用するとよい。

p. 12～15
◎市の土地のつくしよくについて考えよう
◎市の公共しせつや古くからのこるたて物をさがそう

- ・各グループの発表から、なぜ土地の使われ方が場所によって違うのか考える。
- ※「仙台市の地形」「交通の広がり」「公共施設の場所と広がり」「古くから残る建造物」に着目して考えさせ、仙台市の様子をおおまかに理解できるようにする。

まとめる

p. 16～17
◎仙台市のガイドマップを作ろう

- ・調べたこと、友達の発表から分かったことを整理して紹介したい内容を選ぶ。
- ・仙台市の白地図を色分けさせ、仙台市の特色を捉える。
- ・これまでの学習をもとに、紹介することを文章で表現する。
- ・写真やイラストを入れるなど各自の工夫を取り入れる。
- ・仙台市の特色を一言で表すキャッチコピーをつける。
- ・友達と作品の交流を通して、『仙台市のことをもっと詳しく調べたい。』という意欲を持たせ、次の単元につなげる。

学級の実態に合わせて、個人、グループで作成させる。



○ 教科書には「学習の進め方」が載っている。この単元だけでなく、今後の学習の進め方に生かしたい。各ページには、調べる観点が載っているので、参考にするとよい。

↓ 学習の流れ (例)

(1) 市の様子を示した航空写真を見て、本時のめあてについて話し合う。

5分

T これまでは学校のまわりの様子を見てきました。この写真は高さ450mから撮影した写真です。遠くまで見渡せますね。何が見えますか？そこから気づいたことはありますか？

C 仙台駅の周りには高いビルが集まっています。人もたくさんいそう。

C 遠くに海が見えます。どこまでが仙台市なんだろう。

空から市の様子をとった写真や地図帳を見て、市の位置や気づいたことについて話し合しましょう。

(2) 航空写真や地図を見て、気づいたことを話し合う。35分

T 航空写真を見て、気づいたことを話し合しましょう。

C ビルがたくさんある所、森が広がっている所もあり、海も見えます。

T 地図帳を使って、宮城県のどのあたりに仙台があるか場所を探しましょう。また仙台市はどのように広がっているか調べましょう。

C 仙台は宮城県の中央より少しだけ南側だと思います。

C 仙台市は東西に広がっています。

(3) 前の単元と比べて、市の様子で気づいたことやこれから学習していきたいことについて話し合う。5分

C 学校の周りでも調べた〈公共施設〉や〈交通〉の様子について調べてみたいです。

C 私たちの学校は青葉区だけど、野外活動で行った泉区の土地の様子についても調べてみたいです。

本時のねらい

仙台駅中心部の航空写真、地図帳を見て気づいたことや、市の施設や様々な場所について知っていることを話し合う活動を通して、市の位置や範囲を理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.20-21 の資料にリンクした内容となっている。教科書には「学び方コーナー」として索引の読み取り方についての説明もあるため活用したい。また、キャラクターが社会的事象の見方・考え方として「位置や広がり」に着目するように促している。「学校のまわり」から「市の様子」へと空間的に広がるのが本時であることから、仙台市は宮城県のどこに位置しており、どのように広がっているのかを捉えさせたい。

2

仙台市の様子

仙台駅を中心に、東に向かってさつえいした写真です。どのような土地やたて物が見えますか。



真ん中に仙台駅が見えました。周りには高いビルが集まっています。



遠くに海が見えます。まわりはどんな所なんだろう。



◎仙台のまちを空から見てみよう



行ったことのある場所や知っている場所について話し合う。また、気づいたことや不思議に思ったことなどについて話し合うことを通して、仙台市の学習に対する興味・関心を高めたい。実態に応じて地図アプリを併用するなどして、学校のまわりから仙台市へと視野を広げて考えられるようにする。

前単元の学習とのつながりを意識し、土地・交通・公共施設が学校のまわりよりもっと広い仙台市の範囲でどうなっているのか、児童の問いをたくさん引き出したい。仙台市には、どんなみつがあるのかな？

学習問題

わたしたちが住んでいる仙台市は、どのような様子なのか。

めあて

空から市の様子をとった写真や地図帳を見て、市の位置や気づいたことについて話し合しましょう。

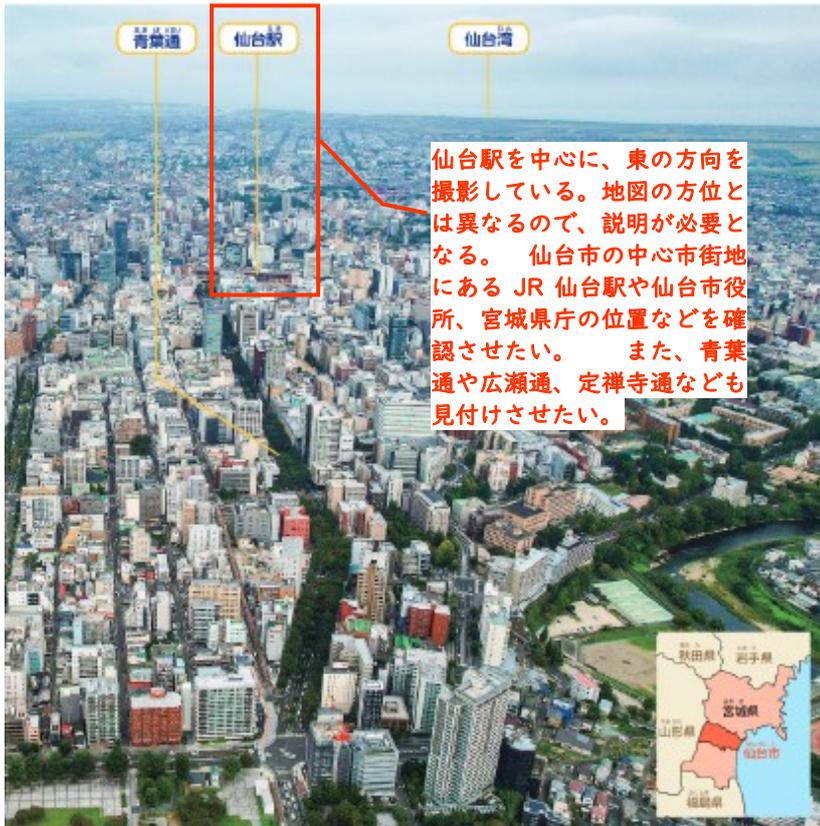
〈航空写真から〉

〈地図帳から〉

〈これから学習していきたいこと〉



1 わたしたちのまち みんなのまち



仙台駅を中心に、東の方向を撮影している。地図の方位とは異なるので、説明が必要となる。仙台市の中心市街地にある JR 仙台駅や仙台市役所、宮城県庁の位置などを確認させたい。また、青葉通や広瀬通、定禅寺通なども見付けさせたい。



資料の活用の仕方

・写真「◎仙台のまちを空から見てみよう」

広瀬川上空 450mから撮影した写真である。学校のまわりの際に見た高さ（屋上 60m）からさらに高い所であることから、遠くまで見渡せるため、「その先はどうなっているのだろう」という児童の問いを引き出しながら土地の広がりについて意識させたい。

・書き込みできる地図資料

区の名前を記入し、自分が住んでいる区に色を塗る。自分たちの学校の大まかな位置も記入し、仙台市の中のどこに位置するのかを確認したい。

本時の評価と指導

② 知識・技能 ②

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市の位置や範囲を理解しているか」を評価する。

② 指導のポイント・留意点 ②

市の様子を空間的な広がりからの視点から概観できるようにしながら、市の位置について調べ、航空写真を見て気づいたこと等、児童からたくさんの問いを引き出すようにする。

↓ 学習の流れ (例)

(1) 市内の有名な場所について話し合い、本時のめあてを設定する。 **5分**

T 仙台市の中で知っている場所にはどんなところがありますか。

C 青葉城址にいったことがあります。

C 仙台駅には、バスも地下鉄も新幹線も、タクシーも…いろいろな乗り物があります！

C 泉ヶ岳ってどこにあるのかな。

T 今日は社会科の学習でとっても大事な学習問題をつくる時間です。

わたしたちの市の様子について、話し合い、学習問題をつくりましょう。

(2) 市内の様子を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 **30分 (ペア・グループ)**

T これらの写真(事前に児童が調べたものも含めて)で示している場所について、知っていることを説明し合ひましょう。

C 大倉ダムの近くに仙台市水道記念館があります。

C 大きい川の周りには田んぼや畑がたくさんあります。

(3) 学習問題をつくり、学習の見通しを立てる。 **10分**

T みなさんの疑問や気づきから、「**私たちが住んでいる仙台市には、どのような場所があり、それぞれどんな様子なのでしょう**か」という学習問題ができましたね！これを解決するためにどんなことを調べていきたいですか。

C 仙台市にはどのような場所があるか調べたいです。

T 単元最後には、仙台市のガイドマップにまとめられたら素敵ですね。

本時のねらい

市内の写真や地図を見て、行ったことのある場所を紹介し合ったり、市の様子について疑問に思ったことを話し合ったりして、学習問題をつくる。

✳️教科書と合わせた活用のポイント✳️

教科書 P.22-23 にリンクした内容となっている。教科書 P.23-24 には、「社会科の学習の進め方」が分かりやすく示されており、こちらも合わせて丁寧に取り上げたい。社会科学習が始まって初めての学習問題づくりの場面である。教科書 P.24 で児童らが気づいたことや疑問に思ったことを述べている例を参考に、このページを使って児童の発言を引き出したい。地形や土地利用、交通の広がり、公共施設の場所と働きなどについて、教科書 P.22 のように紹介し合う姿を参考に気づきを交流させていく。

◎市の様子を写真や地図で見てみよう

仙台市の上空からさつえいした写真や地図を見て、仙台市の様子について話し合ひましょう。そして、学習問題について調べる計画を立てましょう。

学び方コーナー

事前に児童に調べさせておき、写真も準備させておくとよい。Google スライドに貼り付けて他者参照できるようにすることも考えられる。



(2021年9月撮影)



西の方には、山が多いだね。木がたくさんしげっているよ。大きなダムがあるんだね。

交通の様子

仙台市には、たくさんの道路や鉄道が通っています。仙台市に住む人々はバス、地下鉄、電車や自家用車などを利用して生活しています。




仙台市地下鉄青葉北線3000系車両 仙台駅のバスターミナル

南の方は、川にそって田んぼが広がっています。



めあて

空から市の様子をとった写真や地図帳を見て、市の位置や気づいたことについて話し合しましょう。

学習問題

わたしたちが住んでいる仙台市は、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょう。

わたしたちのまち みんなのまち

わたしたちが住んでいる仙台市には、どのような場所があり、それぞれどんな様子なのでしょう。

仙台市の土地がどのように使われているか調べましょう。

- 店やビルが集まっているところ
 - 工場の多いところ
 - 田や畑が多いところ
 - 山の多いところ
 - 家が集まっているところ
- 東西南北や区ごとに分たんして調べてもいいですね。



学び方コーナー

- じっさいに、たんけんする。
- 地図帳で仙台市の位置を調べる。
- インターネットや地図アプリで仙台市の写真をさがす。

学習問題とは何かを、教科書 P.23 の説明と合わせて確認する。

仙台市の北の方には家が集まっているところがたくさんあるね。大きなショッピングセンターも見えます。

東の方には、港が見えました。工場がたくさん集まっています。

(2021年9月撮影)

(2009年7月撮影)

資料の活用の仕方

写真「◎市の様子を写真や地図で見てみよう」

仙台市の東西南北の地域上空から撮影した写真であることを説明する。白地図で位置を確認しながら写真と見比べ、仙台市の土地の様子について調べる課題を持たせたい。資料編の地図「仙台市の様子」や「仙台市の土地と交通の様子」などと見比べさせ、課題意識を高めたい。

学び方コーナー「八方位」

八方位を用い地図上の特定の地点を説明させることを通して、八方位の必要性や便利さに気付かせたい。

本時の評価と指導

思考・判断・表現

ノートの記述内容や発言内容から、「市の位置、地形や土地利用、交通の広がり等に着目して、問いを見いだしているか。」を評価する。

指導のポイント・留意点

本時は第3学年の社会科学習において、初めて学習問題づくりを行う時間である。自分が知っている場所をもっと増やしたい、自分が知らない場所について知りたいという関心を高め、自分たちが、調べたいことをもとに学習問題の設定ができるようにするために、写真の提示や市の白地図に写真の場所を示す活動を設定する。

↓ 学習の流れ (例)

(1) 学習問題と追究の視点を確認し、資料をもとに本時のめあてを設定する。 **10分**

T 今日は学習問題を解決するために調べる時間ですね。何を解決していったらよいでしょうか。

C 土地の高さや広がりについて調べていくとよいと思います。

C 土地の使い方についても調べたいです。

T それでは、一つずつ解決していきましょう。

仙台市の土地の高さや広がりはどうなっているのでしょうか。

(2) 写真や地図などの資料をもとに、仙台市の土地の高さや広がりについて調べる。 **25分**

T 仙台市にある山や川について探してみましよう。

C 野外活動で泉ヶ岳に行きます。広瀬川も聞いたことがあります。

T 写真と地図を合わせて見てみましょう。地図は色で分けられています。どうしてでしょうか。

C 市の西側は高くなっていて、東側は低いということを表しています。

T 他にも土地の高いところや広がりについて調べてみましょう。

C 川の流れ方と土地の高さには関係がありそうです。

T 他に土地の高さや広がりについて調べてみましょう。

(3) 土地の高さや広がりについて、わかったことをまとめる。 **10分**

C 高い土地は山のある市の西側、低い土地は海沿いの東側に広がっています。

C 低くて平らな土地は家や建物が多いことがわかります。

ねらい (3時間を想定)

市の様子がわかる写真や地図を活用して調べてわかったことをもとに、話し合う活動を通して、①土地の高さや広がり ②土地の使い方③交通の広がり場所によって違いがあることを理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.26-31 にリンクした内容となっている。ここでは、社会的事象の見方・考え方(広がり)に着目させる。教科書では、P.27で土地高さについて、P.29で土地の使い方について、P.31で交通の広がりについてそれぞれ地図で示しているが、このページではそれらを重ねた状態で示している。まずは、凡例から、仙台市の土地の高さの特徴を捉えさせたい。十分に地形についての理解を深めた上で、土地の使い方・交通の広がりについて学習を広げていく。教科書が事例地としている福岡市の地図も、仙台市の特徴をつかむために、一つずつ比較することも考えられる。

仙台市の土地の高さや広がりはどうなっているのでしょうか。また、どのように使われているのでしょうか。



◎市の土地のとくしよくについて考えよう

①山や森林が多いところ



泉ヶ岳(泉区)

②住宅が多いところ



泉パークタウン(泉区)

仙台市の土地の高さと土地利用の様子を関連づけて考えさせる。地図記号や川、鉄道、道路の様子にも注目させたい。

北や西の方は土地が高くなっているね。だから森林が多いんだね。



土地の高さや広がり様子と、地図記号から土地の使い方を知り、その関連について考えるようにする。

③山にかこまれたところ



秋保温泉(太白区)

おもな地図記号

▲	森林		田
∇	畑	✳	工場
	家や建物が多いところ		



(2021年9月撮影)

めあて

- ① 仙台市の土地の高さや広がり、どのようになっているのか。
- ② 仙台市の土地は、どのように使われているのか。(次時)
- ③ 仙台市の交通は、どのように広がっているのか。(次時)

<仙台市の土地の高さ>

気づいたこと

- ・西の方は…
- ・東の方は…
- ・東西に広がっていて…

まとめ

仙台市の土地は、海に面した東側が… 西側の土地は…
東西に広がっていて… 新かん線、バス、地下鉄が…



資料の活用の仕方

・写真・白地図・動画「◎市の土地のとくしよくについて考えよう」

写真：著作権について事前に指導した上で、児童が撮影したり、インターネットで集めたりした画像を活用するのもよい。

白地図：白地図に土地利用の様子を色分けしたり、調べたことを文で表現したりするなどして学習したことをまとめる。

動画：仙台駅上空を360度ビューで見ることができる。必要に応じて、停止しながらじっくり観察することで、たくさんの交通手段が集まっていることを知り、仙台駅が交通の要となっていることを理解する。このように、動画資料と地図を関連付ける等して、土地の使われ方を具体的に捉えられるように工夫する。

評価と指導

⑩ 知識・技能 ⑩

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の地形や土地利用、交通の広がりについて理解しているか。」

⑩ 指導のポイント・留意点 ⑩

土地の高さや広がり、土地の使われ方が分かる写真だけでなく、動画や地図アプリを用いることで、それぞれの場所の空間認識の支援を図る。その際、写真・動画・地図を個々で捉えるのではなく、土地の高さや、土地の使われ方の特色と結び付けて理解できるようにする。さらには、交通機関（バス・地下鉄・新幹線等）の共通点や相違点を発見させ、特色やよさについて考えさせる。

1 わたしたちのまち みんなのまち

④ 交通の中心



仙台駅(青葉区)

仙台駅には、いつも多くの人が集まっています。駅の近くには大きなたて物や店がたくさんあります。

⑤ 店やビルの多いところ



仙台駅の近く(青葉区)
(2019年10月撮影)

⑥ 工場の多いところ



仙台港(宮城野区)
(2021年9月撮影)

工場の近くには海があったり、高速道路が通っていたりすることが多いね。

⑦ 田や畑の多いところ



沖野(若林区)
(2018年8月撮影)

田や畑は東のひくい土地のところに集まっているよ。



凡例を確認し、色分けの意味を理解する。

仙台駅上空からドローンで撮影した映像が流れる。バスターミナルや複数の線路に着目することで交通の中心であることをおさえる。

↓ 学習の流れ (例)

(1) 学習問題と追究の視点を確認し、資料をもとに本時のめあてを設定する。 **15分**

T P.14の写真を見て、行ったことがある場所や知っていることについて話し合います。

C カメイアリーナ仙台でバレーボールの大会に出たことがあります。

C 仙台国際センターでは様々なイベントが行われています。

C 仙台文学館の「おはなし会」に行ったことがあります。

仙台市の公共施設はどこにあり、どのようなはたらきをしているのでしょうか。

(2) 写真や地図などの資料をもとに、仙台市の公共施設の場所や働きについて調べる **20分**

T 仙台市の公共施設と交通がどのようにつながっているのか調べましょう。また、公共施設の働きについて調べましょう。

C 公共施設は、地下鉄沿線のそばに広がっていることが多いです。

C 市役所の場所は分かるけど、どんなことをしているか詳しく分からないので話を聞いてみたいです。

(3) 市の公共施設について、わかったことをまとめる。 **5分**

T 学習を振り返り、自分の言葉でまとめましょう。

C 仙台市の公共施設は交通機関に沿って広がっています。また、市役所では、市民の暮らしに関わる様々な仕事をしていることが分かりました。

ねらい (2時間を想定)

市の様子がわかる写真や地図を活用して調べてわかったことをもとに、話し合う活動を通して、①市の公共施設の場所や働き ②市に古くから残る建造物の分布を理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.32-35 にリンクした内容となっている。ここでは、社会的事象の見方・考え方(広がり、時間)に着目させる。教科書では、P.33で主な公共施設について、P.35で古くから残る建物についてそれぞれ地図で示しているが、このページではそれらを重ねた状態で示している。前時で学んだ交通の広がりに関連付けながら、市の公共施設が交通機関に沿って広がっていることをおさえる。その上で、市のどこに古い建物があるかについて調べることで、古くからまちづくりが行われていることに気づかせたい。

それぞれの公共施設は、どんなはたらきをしているのかな。



市役所は、市民のくらしにかかわる仕事をしています。どのような仕事をしているのか調べてみましょう。



◎市の公共施設や古くからのこるたて物のさがそう

仙台市には、さまざまな公共施設や、古くからのこるたて物があります。どこに、どのようなものがあるか調べて、わかったことを地図や文章にまとめましょう。

公共施設とはどのような役割を持つのか、仙台市にある主な公共施設の種類や働きについて調べる。その際、多くの公共施設は市役所によって運営していることに触れる。仙台市役所のトップページには「よく利用される情報」としてアイコンで大きく表示されているため、児童に調べさせてもよい。

リンク：仙台市 HP



仙台市役所 A



カメイアリーナ仙台 (仙台市体育館) B



日立システムズホール仙台 (仙台市青年文化センター) C



仙台市立病院 D



仙台国際センター E

- F 仙台市天文台
- G スリーエム仙台市科学館
- H オーエンス泉岳自然ふれあい館
- I 八木山動物公園 フジサキの杜



めあて

- ① 仙台市の公共しせつはどこにあり、どのようなはたらきをしているのか。
- ② 仙台にのこる古いたて物は、どこにどのようなものがあるのか。
(次時)

<公共しせつの場所と働き>



まとめ

仙台市の交通の中心地の近くに仙台市役所があって…
公共しせつはたくさんあり、市民のために…

資料の活用の仕方

・資料編 P.92-93 の活用

家族で出かけたり、校外学習で利用したりしたことがある児童も多いと思われる。それらの経験から、公共施設の大切さについて考えさせたい。

・仙台市 HP リンク「[公共施設案内](#)」

仙台市 HP には各公共施設の Web サイトにアクセスできるよう一覧にまとめてある。仙台市にはたくさんの公共施設があることを知り、誰もが利用しやすいようにつくられていることで、市民の暮らしを支えていることに気付かせたい。

1 わたしたちのまち みんなのまち



(2021年9月撮影)

- | | | |
|------------------|----------------------------------|----------------------|
| ① 大崎八幡宮(青葉区) | ② 碎奥田分寺義経堂(若林区)※ | ③ 落合観音堂(太白区) |
| ④ 東照宮唐門・透塙(青葉区)※ | ⑤ 菅茂神社本殿(泉区) | ⑥ 養心院山門(旧養賢堂の門)(若林区) |
| ⑦ 仙台城跡(青葉区)※ | ⑧ 旧陸軍歩兵第四連隊兵舎<仙台市歴史民俗資料館>(宮城野区)※ | |
| ⑨ 定義如来西方寺(青葉区) | | |
- ※写真がありません。

自分の住む地域にどのような古い建造物(神社、寺院、伝統的な家屋など)や伝統的なまち並みがあるか調べる。可能ならば、地域の方々に直接話を聞き、建造物のいわれなどを調べられるとよい。

仙台城跡は、伊達政宗が造ったお城があった場所だそうです。今は資料展示館や伊達政宗公騎馬像がありました。



お正月に大崎八幡宮に行きました。たくさんの方がおまいりに来ていました。



何年前にたてられたのかな。くわしい人に話を聞いてみたいな。



資料編(p.92-93)には、学習に活用できる公共施設を紹介している。

ほかにも、資料編(p.92-93)では仙台市内にあるいろいろな公共しせつをしょうかいしています。

評価と指導

🎧 知識・技能 🎧

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、①市の主な公共施設の場所と働き ②古くから残る建造物の分布について理解しているか」を評価する。

🎧 指導のポイント・留意点 🎧

公共施設や古い建物の様子がわかる写真だけでなく、インタビューができるようにしたり、[リンク「仙台市文化財課の Web ページ」](#)を使って具体的に理解できるようにする。

仙台市の様子 P.16~17

↓ 学習の流れ

(1) ガイドマップを作るために、これまで調べたことを整理する。地図にまとめるための観点について話し合う。 **20分**

T これまで調べてきた仙台市の特色の中から、ガイドマップに入れたい内容について話し合しましょう。

C 仙台市の地形の特徴は入れたいね。
C 仙台市の交通の中心地には人が集まるし、イベントもたくさんあるね。
C 歴史が古く、大切に残されてきた建物も紹介したいな。

グループでガイドマップを作ろう！

(2) 観点に基づいて、仙台市の様子を白地図にまとめる。※デジタル上で共同編集で作業を行うことも考えられる **20分**

T これまで学習した「ことば」をいかして仙台市の魅力が伝わるガイドマップを作しましょう。

C 仙台市の北や西の方には、高い山が多くて、景色がきれいな場所がたくさんあります。

C 仙台は青葉城址が有名ですが、伊達政宗にまつわる建物は他にもあり、今でも大切に残されています。

C 東側は土地が低くなっていて平らな土地が広がっています。田んぼや畑が広がっているところもあれば、海の近くは工場がたくさん集まっているところもあります。

(3) 単元全体を振り返る。 **5分**

C 私たちが住んでいる仙台市には素敵な場所がたくさんあることが分かりました。工場や畑・田んぼも多いことから、仙台市にはどんな「作る仕事」があるのか調べていきたいです。

本時のねらい

これまで調べた場所の、それぞれの様子を地図上にまとめ、仙台市の様々な場所の特色やよさを理解する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.36-37 にリンクした内容となっている。P.36 で子どもたちが話し合っているような対話を教室でも展開したい。5 人の子どもたちはそれぞれ「地形・古くから残る建物・土地の使われ方・交通の広がり・公共施設の働き」という視点で話し合いをしている。P.36 左下「まとめの活動にことばを生かそう」を取り上げ、これまでの学びを総合して仙台市の様子を考えさせたい。そのためにも、単元のまとめで「仙台のガイドマップづくり」をすることは学習問題づくりの場面で確認しておく。



◎仙台市のガイドマップを作ろう

調べたことを整理して、仙台市のじまんをしようかいるガイドマップを作りましょう。

仙台市のガイドマップ

じまん1

自然がたくさん

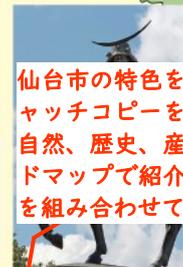
北や西の方には、高い山が多くて、けしきがきれいなところがたくさんあります。秋のばんじ岩は、とてもきれいです。冬にはスキーがでできる場所もあります。山にかこまれた秋保は温泉が有名です。



じまん3

古くからのこるたて物

市には古くからのこるたて物がたくさんあります。仙台城跡には、城をたてた伊達政宗の家があります。



仙台市の特色を一言で表すキャッチコピーを作る。交通、自然、歴史、産業など、ガイドマップで紹介している内容を組み合わせて考える。

自然がたくさん、交通きかんもたくさん
古くから続くすてきなまち仙台市

めあて

調べたことをもとに、仙台市のガイドマップを作ろう。

「ことば」を
いかそう

- ・土地の高さ
使われ方
- ・交通
- ・市役所
- ・いわれ



自然がたくさん、交通きかちもたくさん
古くから続くきなまち仙台市

資料の活用の仕方

・学び方コーナー

「仙台市ではないところに住んでいる人たちに伝えよう。」という働き掛けから、意欲づけを図りたい。自分が調べた地域だけでなく、友達が調べた地域も取り入れながら、仙台市全体を紹介させたい。

・ガイドマップ(写真)

児童が撮影した写真を取り入れてもよい。そのほか、インターネットやパンフレットなどの写真を活用することも考えられる。

・ガイドマップ(イラスト)

写真を取り入れることが難しい場合など、簡単なイラストで表現してもよい。児童一人一人が、分かりやすく楽しいマップにすることができるよう、個に応じた工夫を引き出したい。

1 わたしたちのまち みんなのまち

できあがったガイドマップをしょうかいしながら、仙台市の様子について、話し合しましょう。



これまで学習した交通・地形・土地の使い方・公共施設・歴史的建物から選択して紹介させる。これまでの学習もとに、自慢したいことを文章に表現する。

じまん2

市の中心・仙台駅

仙台駅には新かん線、鉄道、バスなどたくさん交通きかちが集まっています。まわりにはたくさんビルやお店があります。夏には東北三大祭りとして有名な「仙台七夕まつり」が行われています。



じまん4

海に近く、平らな土地

東の方は土地が低く、平らな土地になっていて、田んぼが広がっています。海には、仙台港があり、工場が集まっています。工場の近くには、高速道路が通っています。

学び方コーナー

- 他の町の人に知らせたいところ、じまんしたい場所をしょうかいしましょう。
- 仙台市の白地図を「住たくが多いところ」「緑の多いところ」「田畑の多いところ」で色分けしましょう。
- 写真や絵を入れると分かりやすく、楽しいマップになります。

※凸は城跡を表す地図記号です。

仙台には、いいところがたくさんあるよ。おうちの人にも聞いてみよう。



本時の評価と指導

⑥知識・技能⑥

ノート等の記述内容や白地図の内容から、「学習したことをもとに白地図にまとめ、仙台市全体の様子や場所による違いを理解している」を評価する。

⑥指導のポイント・留意点⑥

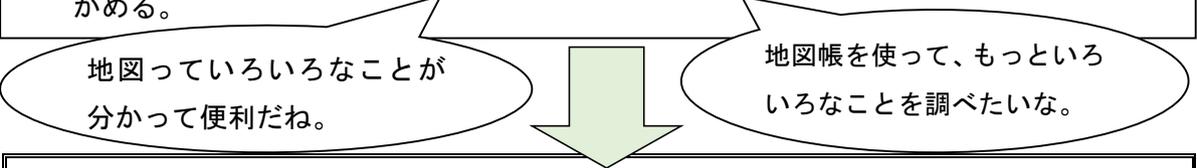
市全体の特色やよさについて、写真資料や映像(動画)資料などを通じて、地図上のまとめと合わせながら、具体的な理解を促す。

小単元名 p. 18~21	地図帳を開こう	小単元 の目標	地図の基本的な見方・使い方について知り、地図帳を使って調べたり、地図記号や等高線の意味を理解したりすることができるようにする。
------------------	---------	------------	---

つかむ

p.18
◎ 1 地図から分かること 2 正しい方向を知るには

- ・作業的な活動を通して、基本的な地図の見方・使い方についての理解を深め、地図の有用性に気付く。
- ・左右と違い、東西南北の方位を使うと正しく方向を表せることを知り、教室の方位を確かめる。



地図帳の見方・使い方を知り、使ってみよう。

調べる

p. 19

- 3 地図の中で方位を表す主な記号
 - ・方位磁針のイラストや、北のみを表すタイプがあることを知り、実際の地図でも確認する。
- 4 地図記号をおぼえよう
 - ・誰が見ても分かるように地図記号があることや、土地利用のされかたによって色分けされていることを知る。

p. 20

- 5 地図記号クロスワードパズル
 - ・ヒントを頼りにたてのマスに入る言葉と横のマスに入る言葉を考え、地図記号の理解を深める。
- 6 地図記号ビンゴで遊ぼう
 - ・地図記号をビンゴの口に書いたり、地図記号を読んだりする活動を通して、地図記号の意味を理解する。

まとめる

p. 21

- 等高線について学ぼう。
 - ・等高線、断面図の色分けを行い、土地の高さや斜面の様子を表していることを理解する。

※ 地図帳に慣れ親しむ活動を継続的に行い、地図帳の使い方を理解する。

例) ・地名探し
 ・都道府県を紹介するスピーチ
 ・旅行などで行った場所を白地図に示す

※宮城県の位置について、周囲の県名や所属する地方名で具体的に表現できるようにする。また、場所については、白地図も活用する。

・「宮城県は、東北地方にあり、北は岩手県、秋田県、西は山形県、南は福島県に接しています。東は

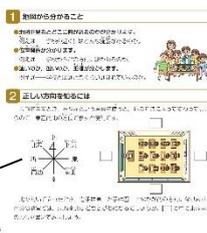


○ 地図帳の使い方に慣れる活動を継続しながら、各小単元において、教科書や副読本に示されている地図に関する内容を取り上げて確認する。教科書には、地図記号の成り立ちが写真入りで掲載されているので、活用したい。

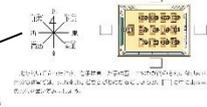
p. 18、 19	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	1 地図から分かること 2 正しい方向を知るには 3 地図の中で方位を表す主な記号 4 地図記号をおぼえよう
--------------	------	---------	------	--

【小単元の指導に当たって】
本小単元では、基本的な地図の見方・使い方を学ぶ。地図を見て分かること、方位や地図記号について取り上げ、様々な学習場面で役立てることができるようにすることがねらいである。指導に当たっては、自分の教室や学校の周りなど身近な場所を想起させながら、地図の見方についての理解を深めたい。

1 地図から分かること
どこに何があるのか探せたとしても、位置関係や距離までは意識できていないこともある。地図から分かることは多いことに気づき、便利な物だということを実感させたい。



2 正しい方向を知るには
方位の有効性を知り、自分の教室の東西南北を確認する。



3 地図の中で方位を表す主な記号
方位を示す際に様々な表し方があることや、ほとんどの地図は北を上にして描かれていることを知る。

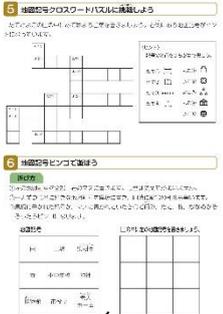


4 地図記号をおぼえよう
地図記号については、そのものの形や意味を考えさせながら楽しく学ばせたい。また、絵地図では伝わりにくいことも、地図記号を使うことで分かりやすくなることに気付かせたい。

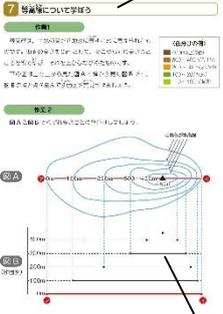


p. 20、 21	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	5 地図記号クロスワードパズルに挑戦しよう 6 地図記号ビンゴで遊ぼう 7 等高線について学ぼう
--------------	------	---------	------	--

5 地図記号クロスワードパズルに挑戦しよう
ヒントの記号を見て、マスの中に記号が表しているものを書く。マスを広げし分かりやすく表示して楽しく行いたい。



7 等高線について学ぼう (作業1)
最初に、図Bに高さごとに色分けする。次に図Aを色分けすることで、地図を立体的にイメージできるようにする。



6 地図記号ビンゴで遊ぼう
ビンゴでは基本的な地図記号を扱っている。慣れてきたら、この表を複製し、他の地図記号にするなどして、何度か取り組ませてもよい。



7 等高線について学ぼう (作業2)
図Bを基に傾斜が急な方はどちらかを確認する。そこから等高線との間隔が広いほど傾斜が緩やかで、狭いほど傾斜が急であることを理解する。

↓ 学習の流れ（例）

(1) 身のまわりにある仕事について話し合う。10分

T わたしたちの身のまわりにはどのような仕事があるでしょうか。

C 学校の近くの交番では、警察官が働いているね。

C スーパーマーケットでは、商品を売る人やレジで会計する人などがいます。

C 仙台の伝統野菜をつくっている畑が学校の近くにあります。

わたしたちのくらすまちは、どのような仕事をしている人たちがいるのでしょうか。

(2) 身のまわりにある仕事について整理する。30分

T まちの人の仕事カードをつくりましょう。

C わたしは笹かまぼこ工場カードを作ります。

C わたしは商店街のお店カードを作ります。商店街と言っても作る仕事の種類はいくつあるかな。

C わたしは農家の仕事カードをつくります。お米や野菜で仕事の仕方は違うのかな。

C スーパーマーケットで働く人も様々な種類のお仕事がありそうですね。

(3) 単元のめあてをつくり、本時のまとめと次時への見通しをもつ。5分

C 仙台市ではいろいろな野菜や果物が作られていることがわかりました。仙台で有名な仙台曲がりねぎがどうやって作られるのかを知りたいです。

C 私は笹かまぼこ工場で作りを調べたいです。笹かまぼこの原料はどこで獲っているのでしょうか。

本時のねらい

自分たちの身の回りの仕事について、前単元で作成したガイドマップも参考しながら知っていることを出し合い、単元のめあてをつくる。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.40-41 にリンクした内容となっている。前単元で作成した地図と関連づけて、どのような仕事があるのかについて考えさせたい。その際、教科書の子どもたちが話し合いの様子を参考にしたい。4人の子どもたちはそれぞれ「農家の仕事に関して」「工場の仕事に関して」「販売の仕事に関して」という視点で話し合いをしている。農家と工場については選択して学習することになるが、この時点では大きな単元のオリエンテーションであることを踏まえ、P.41 の二次元バーコード先の動画「学習のはじめに見てみよう（2分37秒）」も活用しながら学習の見通しを具体的にもたせたい。

わたしたちの仙台市には

仙台市には、伝統的な技法やハイテク技術を使ってさまざまなものを作り出している工場があります。

わあ、すごい！ たくさんの工場があるね。ここには何を作る工場があるのだろうか。

工場や畑では、どのように仕事をしているのだろうか。くわしく調べてみたいな。

前単元で学習した、「土地の使われ方」と関連付けながら考えるようにする。

どんなところにどんな工場があるのでしょうか。

めあて

わたしたちのくらすまちは、どのような仕事をしている人たちがいるのでしょうか。

<身のまわりにある仕事>

- ・ 笹かまをつくる
- ・ 野菜をつくる
- ・ お米をつくる
- ・ こけしをつくる
- ・

単元のめあて

わたしたちのまちではたらく人の仕事の様子や、仕事とわたしたちの生活とのつながりについて考えよう。



資料の活用の仕方

・写真「泉パークタウン工業・流通団地」

絵と関連させながら、泉区近辺には、本や新聞、かまぼこなどを作る工場があることに着目させる。

・写真「岩切地区の仙台曲がりねぎ畑」

地図記号や絵と関連させて、宮城野区の港近辺には、かまぼこやビールなどの工場が多いことに着目させる。港や道路との関連にも気づかせたい。「曲がりねぎ」は、仙台白菜や仙台雪菜などと並び、伝統野菜の一つである。

・仙台市東部・南部と西部の地図記号・絵

地図記号や農作物の絵と関連させて、仙台市東部・南部は農業が盛んで、仙台市西部では、稲作や野菜作りが盛んであることに着目させる。新川には、ウィスキー工場がある。

どんな「作る仕事」があるのだろう

仙台市は、米作りや野菜作りがたいへんさかんです。そこでは、よい作物にするため、たくさんの方の工夫をしています。

まずは作る仕事（生産）に着目させながら、次第に売る仕事（販売）にも関心を高めていきたい。



田や畑の多いところでは、どんな作物を育てているのでしょうか。

作る仕事は、みんなのくらしに関係していますね。これから作る仕事について調べてみましょう。

本時の評価と指導

①知識・技能①

ノート等の記述内容や発言内容から、「まちで働く人の様子に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。

②指導のポイント・留意点②

イラストをヒントに、地域の特色にあった仕事について調べること、児童の関心を高めるようにする。例年、各校で訪れている際の校外学習の様子写真を提示することも考えられる。

<p>小単元名 p. 24～27</p>	<p>① 選択A わたしたちのくらしと 農家の仕事</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>地域にみられる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。</p>
--------------------------	---------------------------------------	--------------------	--

つ
か
む

p. 24

◎ わたしたちくらしと農家の仕事

- ・学校給食等を活用して、地区で栽培されている農作物への関心を高める。
- ・「仙台曲がりねぎ」「仙台白菜」「仙台雪菜」「仙台なす」などの伝統野菜を紹介する。
※仙台あおば餃子（仙台雪菜を皮に練り込んだもの）などの料理も紹介するとより良い。
※令和5年度は11月を仙台地産地消月間とし、市内の農産物の消費の拡大をはかっていた。

他にどのような野菜が
作られているのかな？

おいしい野菜をつくるために、
どんな工夫をしているのかな？

学習問題
農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか。

調
べ
る

p. 25

◎ 農家を見学して調べてみよう

学校から近い農家を見学したり、農家の方を学校の畑に招いたりして、インタビューをする。

★農家の方にインタビューしたい内容など観点を作って事前に考えさせる

(例) ①作り方の工夫について
②土づくりの工夫について
③収穫について
④農家の方の思いについて

p. 26、27

◎ 野菜作りの工夫を調べよう

- ・地区の生産物について調べる。
- ・曲がりねぎづくりカレンダーから、農家の方が一年を通して野菜作りに携わっていることや計画的に生産・出荷をしていることに気付かせ、時期毎の取組の工夫について捉えさせる。

農家の方へのインタビューを通して、さらに調べたくなったことを挙げるなどして追究を深めていく。

ま
と
め
る

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・発表資料の作成にあたっては、農家の見学や調べ学習で分かったことを生かしたり、写真を使ったりするよう指導する。
- ・お世話になった農家の方にも見ていただくなど、相手意識を持たせ、作成に取り組ませたい。
- ・地元の野菜を使った新しい特産物を考えるなど、児童の工夫を生かして活動をさせても良い。



○ 教科書で取り上げている題材は異なるが、見学の視点や農家の工夫や努力についてなど、調べる視点、まとめ方については参考にするとよい。



学習の流れ (例)

※2時間扱いとした場合

(1) 仙台の伝統野菜について知る。

10分

T 仙台では「仙台曲がりねぎ」「仙台雪菜」「仙台白菜」が有名です。

C 給食にも使われている野菜ですね。スーパーマーケットで見かけたこともあります。

C まっすぐのねぎよりも甘いと聞いたことがあります。どうしてかな。

仙台曲がりねぎについて、気づいたことやぎもんと思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

(2) 仙台曲がりねぎづくりの疑問について話し合う。**65分**

T 仙台曲がりねぎづくりについて知りたいことや疑問に思っていることを話し合しましょう。

C どうやってねぎを曲げているのかな。どんな意味があるのでしょうか。

C どのような機械が必要なのか知りたいです。いつ、収穫しているのか知りたいです。

C 作っている農家の方に野菜作りの工夫を直接聞いてみたいです。

(3) 学習問題をつくり、学習計画を立てる。**15分**

T みなさんの疑問や気づきから、「農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか」という学習問題ができましたね！これを解決するためにどんなことを調べていきたいですか。

C 1年間どのように仕事をしているか詳しく調べたいです。

C 単元最後には、見学したことも踏まえて新聞にまとめてみたいです。

ねらい (2時間扱い)

仙台市でつくられている作物を調べ、仙台伝統野菜「曲がりねぎ」について、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、計画を立てる。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.42-45 にリンクした内容となっている。教科書では、①市でつくられている生産額・生産量を把握→いちごが多い②どうやったらたくさんつくれるのか、どのようにつくっているのかという「いちごづくりについての問い」を見いだして学習問題を設定する、という流れで構成されている。したがって、昔から大切に栽培されてきた全国に誇る伝統野菜に焦点を当て、まずは、地元でつくられる野菜への関心を高めたい。そこから、長い間親しまれ大切にされてきた野菜がどのような工夫をもって生産されているのかについてさらに関心を広げていきたい。

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

1 選択A
わたしたちの
くらしと
農家の仕事



今日の給食に出た野菜

仙台の気候や風土に適した野菜として古くから栽培されてきたもの。他にも、仙台芭蕉菜、からとり芋などがあり、児童の関心を高めるために取り上げたい。取り上げる際には、伝統野菜を生かした郷土料理なども同時に取り上げると、より身近に伝統野菜を感じさせることができる。

「仙台曲がりねぎ」はとてもあまくておいしかったよ。



「給食にはいろいろな野菜が使われているよ。」
「仙台市は野菜づくりに力を入れているよ。」
仙台では、「仙台曲がりねぎ」「仙台雪菜」「仙台白菜」が有名だと先生が話してくれました。



「地産地消」を知っていますか。できるだけ地元でとれたものを食べようということですよ。給食の野菜がどこからきたのか調べてみましょう。



「おいしい野菜をつくるには、何かひみつがあるのかな。」
「きっと、いい土を使っているんじゃないかな。」
「どのくらい時間をかけてつくっているのだろう。」
まさきさんたちは、野菜づくりについてくわしく調べることにしました。

学習問題 農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか。

めあて

仙台の伝統野菜（曲がりねぎ）について、気づいたことやぎもん
に思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

<曲がりねぎって？>

- ・どうやってつくるのか
- ・どこでつくるのか
- ・なにが他とちがうのか
- ・何か工夫があるのか
- ・.....



学習問題

「農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっている
のでしょうか」

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

◎農家を見学して調べてみよう

仙台市のいろいろな場所では、家と家の間に
学習計画を立てる上で、**とても大事な学習**
活動である。**見通し**を
持たせ、問題の解決の
ために何を調べるかの近くの曲がりねぎ畑
を**明確にしたい**。ような質問を考えました。

学校に農家の方をお
まねきしてお話を聞く
のもいいですね。畑も
見学させていただきま
しょう。



どのようにして、おいしい野菜をつくっているのだろう。

- **つくり方について**
 - ・どのような工夫をしているのだろう。
- **土づくりについて**
 - ・どんな土を使っているのだろう。
- **きかいについて**
 - ・どんなきかいを使っているのだろう。
- **農家の方の思いについて**
 - ・気をつけていることは何だろう。
- **しゅうかくについて**
 - ・いつ、しゅうかくするのだろう。

◎つくり方について

農家の方に話を聞き、野菜づくりの工夫を教
えてもらいました。

「ねぎが曲がっているのは、どうしてですか。」

「一度ねぎをぬいた後、また畑にねかせて根
元に土をかけるからだよ。これを『やとい』と
言うんだ。曲がった白いところは、あま味がふ

岩切地区は、地下水位が高く、ねぎ
の栽培には不向きであった。しかし、
このデメリットを逆手にとって
生まれたのが「曲がりねぎ」である。
先人の知恵と努力や、地域の農
家の工夫を取り上げたい。(7月)



ななめに植えなおす「やとい」の様子(8月)



曲がりねぎの収穫(11月)

◎「仙台曲がりねぎ」は、仙台市宮城野区岩切において、明治～大正時代からさかんに生産されるようになった。

資料の活用の仕方

・写真「給食で使われる伝統野菜」

仙台産の野菜が使われている給
食のメニューを話題にすることで
児童の関心を高めたい。

・イラスト教師のふきだし「地産地消」

仙台市経済局農業振興課で作成
している「とれたて仙台」のWeb
ページを参考にするとよい。

・イラスト教師のふきだし「農家見学について」

教科書 P.45 右下の二次元バー
コードから「学習計画ワークシ
ート」「農家の仕事見学カード」に
アクセスできる。事前に何を見てく
るのかを明確にして見学に臨むよ
うにする。

本時の評価と指導

◎主体的に学習に取り組む態度◎

ノート等の記述内容や発言内容
から、「仙台曲がりねぎづくりにつ
いて、予想や学習計画を立て、学習
問題を解決する見通しをもって
いるか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

学習のゴールが十分にイメージ
できるように、単元最後にどのよ
うなアウトプット(見学新聞、作物
を宣伝するキャッチコピー等)を
するかを明らかにし、段階的に進
めるようにする。

学習の流れ① (例)

※2時間扱いとした場合

(1) 前時につくった学習問題を確認する。 **20分**

C 学習問題は「農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか」でした。

C 曲がりねぎ農家さんに実際にインタビューしてみたいです。

C 曲がりねぎはどうつくるのでしょうか。曲げ方にコツがあるのかな。

T 農家の人が年間を通してどのような仕事をしているか知る必要がありそうですね。学習のめあてを確認しましょう。

農家では、1年間どのように仕事をしているのでしょうか。

(2) 教科書の学び方コーナー「見学のしかた」をもとに、見学の仕方を確認し、農家の方へインタビューをする。 **75分**

T 見学の時に大切なことについて話し合しましょう。

C 畑の様子や、農家の方の仕事の様子を細かく観察します。

C 許可をもらえたら、作物や土にふれて確かめたいと思います。

C 観察したことや質問したことを写真やメモに残します。

C 農家の方にインタビューをすることをあらかじめ決めておきます。苦労やねぎづくりへの思いも聞いてみたいです。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 農家では、季節の変化に合わせた工夫をしていることがわかりました。

C 計画的にねぎをつくっており、食べてくれる人のことを思って一生懸命つくっていることがわかりました。

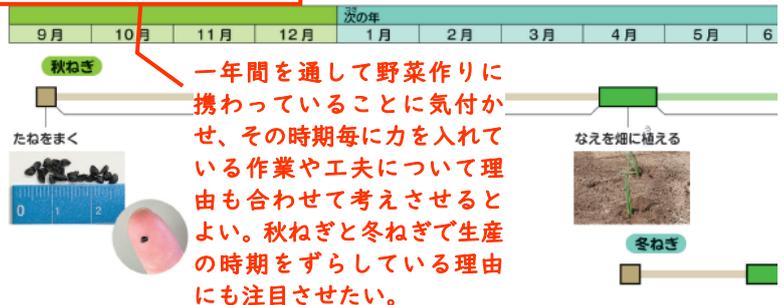
ねらい (5時間扱い)

①②農家の見学を通して、曲がりねぎづくりの1年間を通じた仕事について理解する。③上手につくるための様々な工夫や努力について理解する。④収穫・出荷を通じた他地域との関わりについて理解する。⑤調べたことを新聞にまとめて発表する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.46-53 にリンクした内容となっている。教科書では、①「年間を通じた農家の仕事」②「上手に育てるための工夫や努力」③「収穫、出荷の様子と工夫、他地域等との関わり」について理解したうえで④「あまおうを宣伝するキャッチコピーを考える」という流れになっている。本書 P.26-27 はそれらを2ページにまとめているため、これら①~④の視点を丁寧に扱うことが大切である。作業工程、設備、収穫・出荷の工夫について、仙台北曲がりねぎの特徴的なポイントを資料から読み取れるようにする。

仙台北曲がりねぎづくりカレンダー



◎調べた曲がりねぎづくりの工夫



やとい作業専用のきかい

土づくりの工夫について

1年に1回、土にたいひ(ひりょう)をまぜることで、えいようがたくさんある土になります。住宅地の中にある畑では、いなわらを使っておいが近くの家へいかないようにしていますよ。また、土をもりあげた「うね」をつくることで畑の水はけがよくなります。

曲がりねぎを上手に育てる工夫や、食べる人のことをかんがえた工夫があったね。



さきょうを速くする工夫について

たねをまくきかい、土をまぜるきかいなどがあります。このようなきかいをこうりつよく使うことで、たくさんの曲がりねぎをつくることができます。もちろん、手作業で細かい作業をすることもあります。畑の大きさや状況に応じて使いわけています。

たくさんの工夫をして、手をかけることでおいしい野菜をつくっているんだね。



しゅうかくの工夫について

たねをまく時期をずらすことで、秋と冬に曲がりねぎをとり入れられるようにしています。寒い時期でも元気に育つようにビニールハウスなども使います。

また、しゅうかくのときは、ねぎがぎずつかないようにていねいに作業をしています。出荷の時期も考え、一度に全部のねぎをとらないようにもしています。

資料の活用の仕方

・本文「調べた曲がりねぎ作りの工夫について」

曲がりねぎ作りには様々な工夫があることに気付かせたり、教科書の野菜づくりを参照し共通点や相違点に気付かせたりして、野菜づくりの工夫について多面的に捉えられるようにしたい。

・教科書 P.57 まなび方コーナー「見学の計画を立てる」

問いの解決のために、何を見ているのか、何を聞いてくるのかを見学前に明らかにしておく。じっくり時間をかけて、学び方を体得させていきたい。

評価と指導

⑥⑥ 知識・技能 ⑥⑥

見学カード等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、①②自然条件を生かした農家の仕事の行程や作業の様子について③たくさんつくるための工夫や努力について④収穫・出荷の工夫、他地域との関わりについて理解しているか」を評価する。

⑥⑥ 思考・判断・表現 ⑥⑥

児童それぞれにアウトプットした学習のまとめから⑤「農家の仕事の様子と人々の生活との関わりについて考え、表現しているか」を評価する。

⑥⑥ 指導のポイント・留意点 ⑥⑥

見学の際には、得たい情報を予め明確にしたうえでインタビューできるようにする。事前に農家の方へ児童の疑問をリストにまとめて共有することも考えられる。

めあて

農家では、1年間どのように仕事をしているのでしょうか。



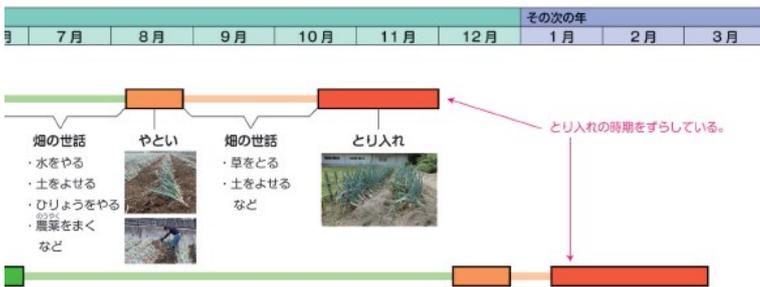
<農家のお仕事(予想)> <見学の際にインタビューしたいこと>

- ・水やり…
- ・しゅうかく…
- ・上手にそだてるための工夫…
- ・苦労すること…

まとめ

農家では、1年間を通して計画的に…
きせつのへんかに合わせて…

2 はたらく人とわたしたちのくらし



農家の方の話

◎農家の方の思いについて

農家の方に、気をつけていることを聞きました。
「**ここでは販売の工夫や生産の苦労について話している。消費者のことを考えている。消費者のことを考えている。消費者のことを考えている。**新鮮で野菜の生産を工夫しても食べているんだね」

◎調べたことをまとめて発表しよう

野菜づくりの工夫について、調べて分かったことをまとめて発表しましょう。

学習のまとめ例が載っている。1人1台端末を活用し、発表用スライドにまとめさせたり、曲がりねぎカレンダーにまとめさせたりするなど、様々な学習のまとめが考えられる。



正直、ぶつうのねぎよりも曲がりねぎをつくるのは大変です。畑の世話をしたり、やといをしたりする時期が夏なので、暑さが大変です。
また、食べる人が安心してできるように、農薬を使わず石灰ちっ素[※]をまいています。除草の効果があり、肥料にもなります。農薬は自然のえいぎょうをうけるので毎年いろいろな苦労があるのです。年々、仙台でも曲がりねぎをつくる農家は減っています。それでも、おいしい、ほしいと思ってくれる人のために、一生けん命ついています。

※石灰ちっ素は、農薬から守り、畑を安全に育てます。

<p>小単元名 p. 28～33</p>	<p>①選択B わたしたちのくらしと 工場の仕事</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>地域にみられる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。</p>
--------------------------	--------------------------------------	--------------------	--

つ
か
む

p. 28

◎ ささかまぼこについて調べてみよう

- ・仙台の特産物であるささかまぼこの種類やお店などについて取り上げ、関心を高める。
- ・グラフを活用して、宮城県・仙台市はささかまぼこの生産や消費が多いことを知る。

ささかまぼこは何から
作られているのだろう！

ささかまぼこを作っている
様子を見てみたいな！

学習問題

工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。

調
べ
る

p. 30～31

◎ 原料について

◎ 工場ではたらく人の様子

◎ ささかまぼこができるまで ——かまぼこ工場

◎ ささかまぼこのゆくえ

ワークシートなどを準備し、観点別に記入させてから見学するとよい。

* 観点の例

<原料の工夫について知りたいこと>

<歴史について知りたいこと>

<つくり方の工夫について知りたいこと>

<販売、輸送について知りたいこと>

<働く人の工夫について知りたいこと>

など

* 工場見学ができない場合は、蒲鉾店のwebページを活用することも考えられる。

ま
と
め
る

p. 32～33

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

ささかまぼこについて、調べて分かったことをグループごとにまとめ、発表を聞き合っ
て意見を交流する。

<グループでテーマを決めて、調べたことをまとめよう>

- ・ささかまぼこについて調べるテーマをグループで一つ決める。
- ・児童一人一人がテーマに沿って調べ、絵や写真を交えながらカード等にまとめる。
- ・レイアウトなどを工夫しながら、グループごとにカードを模造紙等にまとめる。
- ・グループごとに発表し、意見を交流する。
※スライドなどを活用してまとめさせても良い。

◎ 自分の考えをまとめよう

これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する
自分の考えをまとめる。

<学習問題について分かったや考えたことを、ノートに書いてみよう>

- ・原料やつくり方など、ノートにまとめてあることや、各グループの内容などを手掛かり
にして書かせる。

※「1年間に作られるかまぼこの量」は、平成23年の統計調査では宮城県は全国で1位の生産量だったが、
震災の影響で平成24年の統計調査では7位に落ち込んだ。その後、原料となる魚の漁獲量の回復や、生産
ラインの復旧などにより、令和元年は全国5位・令和2年は4位・令和4年は全国6位の生産量となっ
ている。

学習の流れ (例)

※2時間扱いとした場合

(1) 本時のめあてについて話し合う。**10分**

T 単元のめあてをつくる時にささかまぼこ工場について調べることになりましたが、どんなことを調べたらよいでしょうか。

C 作り方について調べたいです。

C 笹かまぼこ工場が仙台市のどこにあるのか知りたいです。

ささかまぼこ工場について、気づいたことやぎもんと思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

(2) 笹かまぼこづくりについて、工場の分布や仕事の工程に関する問いを見いだす **35分**

T 「どこで」「だれが」「何を」「どのくらい」を踏まえて、疑問に思ったことや気づいたことについて話し合います。

C 毎日どのくらいのささかまぼこをつくっているのかな。

C 工場には何人働いているのでしょうか。どんな役割があるのでしょうか。

C 全て機械でつくっているのでしょうか。手作業も必要なのかな。

(3) 学習問題について予想し、見学したいことについて話し合い、見学の計画を立てる。 **45分**

T みなさんの疑問や気づきから、「工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。」という学習問題ができましたね！これを解決するためにどんなことを見学したいですか。

C インタビューをして、作り方の詳しい方法を聞いて、どのような設備があるのか自分の目で見てみたいです。

本時のねらい

工場の仕事について気づいたことや疑問に思ったことを話し合う活動を通して、学習問題をつくり、見学の計画を立てる。

✪教科書と合わせた活用のポイント✪

教科書 P.54-57 にリンクした内容となっている。教科書では、①地域の工場の種類や分布の概要を知る→食べ物や飲み物をつくる工場が多い→特産の明太子工場を調べてみよう②どのくらいつくっているのか、工場には何人働いているのか、どのような設備があって、どのようにつくっているのか等「明太子づくりについての問い」を見いだして学習問題を設定する、という流れで構成されている。したがって、宮城の特産品であるかまぼこの県内消費量等に注目し、たくさん生産するための工場が地域にあることに気づかせたい。教科書の事例を必要に応じて取り上げながら、工場の分布や仕事の行程に着目させたい。

1 選択B
わたしたちの
くらしと
工場の仕事



ささかまぼこのほかに、どんなかまぼこがつくられているのかな？(答えはp.32)



◎ささかまぼこについて調べてみよう



「このお店、お客さんがいっぱい入っているね。」
「ささかまぼこのお店だよ。」
「仙台駅には、ささかまぼこのお店があるよね。」
「遠くから来た人がおみやげに買っていくのかなあ。」
「家でもよく食べるし、給食にも出ます。」
「ささかまぼこは、どこでどんなふうにつくられているのだろう。」
みんなで話し合ったり、資料の活用やグラフを見せてくれました。

「資料の活用の仕方」参照



めあて

ささかまぼこ工場について、気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



<知りたいこと>

- ・ 1日にどのくらい…
- ・ 何人働いて…
- ・ 機械や設備はどんな…
- ・ どのような作り方で…

学習問題

工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくられているのでしょうか。

※参考

㈱阿部蒲鉾店 泉工場

022-378-4801

鐘崎笹かま館

022-238-7170 (とむたしたちのくらし)

「宮城県ではたくさんのかまぼこが作られているんだね。」

「かまぼこに使うお金は、仙台市が全国で1位だよ。」

「そういえば、仙台ではささかまぼこが特に有名だってお母さんが言ってたよ。」

学習問題 工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくられているのでしょうか。

そうたさんたちは、ささかまぼこについて、もっとくわしく知りたいことをみんなで話し合いました。



ささかまぼこは、何からつくられているのかな。



はたらく人が一番気を付けていることは何だろう。

◎工場を見学して調べてみよう

図「ささかまぼこについて調べたこと」観点を明確にして、調べることを具体的に考えさせるとよい。

どのようにして、おいしいささかまぼこをつくられているのだろう。

●原料について

・何からつくられているのだろう。

●はたらく人について

・気を付けていることはなんだろう。

●つくり方について

・どうやってつくるのだろう。

●ささかまぼこのゆくえんについて

・できたかまぼこはどこに行くのだろう。



仙台市が全国1位なのは、何か理由があるのかな。



かまぼこ工場

！学び方コーナー

工場に行く前に、調べてくることをはっきりさせよう

●工場の中で見てくることは？

●はたらいっている人に聞いてくることは？

※しっかり考えて計画を立てよう！

資料の活用の仕方

・グラフ「1年間に作られるかまぼこの量」

生産量の多さを実感するためのグラフである。仙台市の贈答品では、ささかまぼこが主力商品になっている。各家庭での消費より、おみやげなど贈答品としての利用が多いことを補足説明する。

東日本大震災により多くの蒲鉾工場が被災したため、2011年までは生産量第1位であった宮城県が、2019年は全国5位・2020年は4位・2022年は全国6位に下がっていることを補足する。その際、下のグラフを活用するとよい。



本時の評価と指導

◎知識・技能◎

ノート等の記述内容や発言内容から、「市でささかまぼこをつくる工場の仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

学習問題や見学の計画を話し合う場面で、「かまぼこづくりの工夫は…のようにしているのではないか」「工場には…がありそうだ。だから…を調べていきたい。」のように、予想したことを、見学をして解決しようとする発言や記述を評価する。

学習の流れ (例)

※2時間扱いとした場合

(1) 本時の学習のめあてについて話し合う。 **10分**

T 見学に行って、どのようなことが分かりましたか。

C 作り方がわかりました。できたてはとてもおいしかったです。

C 働く人が様々なことを考え、工夫していることが分かりました。

かまぼこ工場ではたらく人たちは、どのようなことに気を付けているのでしょうか。

(2) 工場で働く人たちが気を付けていることをカードにまとめ、話し合う

70分

T 働く人が気を付けていると感じたことと、それをどこから感じたのか、見学カードを見ながら整理していきましょう。見学カードの書き方は教科書P.60-61を見てみるとよいですね。
C 汚れやばい菌が入らないように手洗いにとても時間をかけていたのは、おいしく、安心して食べてもらうための工夫だと思います。

C 温度や湿度の管理等、厳しくチェックすることも安心して食べてもらうための努力や工夫だと思います。

C たくさんの人が工場にいて、分担しながら流れ作業でスムーズに仕事を進めることで、たくさん作ることができるのだと思います。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 食べ物を扱うからこそ、安心して食べてもらうために、様々な工夫をしていることが分かりました。

C たくさんの仕事と役割があり、思いをもって仕事をしていることが分かりました。

ねらい

工場見学でわかったことについて話し合う活動を通して、工場でのようにささかまぼこが作られているか、働く人たちがどのような工夫をしているのかについて理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書P.58-61にリンクした内容となっている。教科書では、①工場見学を通して、工場の流れ作業の様子と原料を通した他地域や外国との関わりについて理解する②工場見学後に集めた情報を整理・分析し、働く人の工夫について理解する、という流れで構成されている。教科書P.59「福田さんの話」を参考に、機械で行うことと人が行うことをそれぞれどのように分担しているのかインタビューできるように質問を予め整理しておきたい。また、教科書P.61の児童の対話例のように、働く人がなぜその工夫や努力をしているのかについて、見学を通して分かったことを基にじっくりと話し合えるよう対話の時間を充実させたい。



※「すりみ」とは、魚の肉をすりつぶしたものを。

◎原料について

原料について調べてみました。

「魚は、遠くの海でもとっているんだね。」

「外国から魚のすりみ*が送られてくると聞いたよ。」

「いろいろな種類の魚が原料に使われているんだね。」

原料はどのようにして工場まで運ばれるのかな。



◎ささかまぼこができるまで——かまぼこ工場



できあがるまで、どのくらい時間がかかるのかな。



めあて

かまぼこ工場ではたらく人たちは、どのようなことに気を付けているのでしょうか。



<働いている人が気を付けていること 工夫や努力>

・安心してたべてもらうために… ・たくさんの役割で…

まとめ

ささかまぼこをたくさんの人に安心して…

工場にはたくさんの人と仕事の種類があって…

資料の活用の仕方

・本文「原料について」

すけとうならば、北洋の船上ですりみに加工される。ひらめは養殖ひらめを使用し、コストを抑える企業努力をしている。このほかに、真鯛もオーストラリアから空輸されて使われる。使われる魚は、原料費などによって変わることもある。

・図「ささかまぼこができるまで」

手作業で行われる作業と機械で行われる作業があることに気付かせたい。※すり身の状態で仕入れることが多く、身おろしは工場ですべて行われていない。

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

◎工場ではたらく人の様子

工場ではたらく人から、「わたしたちが一番気をつけているのは、えいせい面です。」と聞きました。工場にはそのためのせつびがいろいろあります。



「一番気を付けていること」が衛生面なのはなぜか考えさせたい。写真やイラストの工夫のほかに、温度や湿度の管理、消毒、換気、製品チェックなど様々な配慮がされている。時間をかけてしっかりと服などのほこりをしっかりと落とす。

かまぼこの機械は毎日ていねいに洗浄します。
エアシャワー室では、目に見えないほこりも落とせるんだって。

工場には、かまぼこづくりの他にも仕事をしている人たちがいました。だいちは、どんな仕事をしているのかたずねてみました。



研究室ではたらく人

- ・より多くの人によるこんで食べ
- ・原料が安全に食べられるものか安全に食べられる期間を決める

箱詰め作業をする人

- ・店から受けた注文をまとめて、います。
- ・決められた数のかまぼこが、それぞれの店に時間どおりに運ばれているかを、かくにんしています

かまぼこを作るためには多くの工程があり、工場に働いている人だけでなく、様々な人々が関わっていることを捉える。他の市や町から通勤している人々がいることにも触れる等、他市町との関わりに気付かせたい。



工場では、およそ100人がはたらくしているようだ。



仙台市内だけではなく、他の市や町からもバスや電車を使って通っているようだ。

本時の評価と指導

①知識・技能①

見学カード等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場に働く人の仕事の工夫について理解しているか」を評価する。

②指導のポイント・留意点②

働く人が気を付けていることを話し合う場面では、「衛生面にとっても気を付けていることが分かった。なぜなら、見学するときも、ごみが落ちないように気をつけたし、工場内はどこもとてきれいにしていたからです。」などと見学して分かったことを基に、働く人の工夫について捉えていることを発言や記述から評価する。

学習の流れ（例）

※2時間扱いとした場合

(1) 本時の学習のめあてについて話し合う。**10分**

T これまでかまぼこ工場のことをたくさん調べてきましたが、もっと知りたいことはありますか。

C 完成したかまぼこはどんな所へ運ばれているのでしょうか。

C 工場以外の場所だと、どんなところで売られているのか気になります。

ささかまぼこ私たちの地域のかかりについて考え、これまでの学習をまとめましょう。

(2) 見学したことや調べたことを整理して、学習のまとめを新聞形式で表現する。**60分**

T 写真（仙台駅、国道沿い、仙台空港の売店）からどのようなことに気づきますか。

C 高速道路の近くにあるのは、運びやすいし、県外へ行く人も立ち寄りやすいからでしょうか。

C 仙台市だけでも売っている場所はたくさんありそうです。

T 学習のまとめ新聞ではどのような内容を載せるとよいでしょうか。

C 働く人の工夫や思いを入れたいです。特に安全面を強調したいです。

C 作り方の工夫や働く人の技を伝えて、すごさを伝えたいです。

(3) これまでの学習をもとに、学習問題についての答えを話し合う。**20分**

C たくさんの人たちに安心しておいしく食べてもらえるように、衛生面にとっても気をつけていました。

C かまぼこは県内のいろいろなところで売られていて、地域の人々の生活と関わりが深いことが分かりました。

ねらい（2時間扱い）

ささかまぼこを取り扱う店の数やささかまぼこの消費量などの資料をもとに、地域との関わりについて考え、地域の工場で作られているものがわたしたちの生活に関連していることを捉え、表現する。

✪教科書と合わせた活用のポイント✪

教科書 P.62-65 にリンクした内容となっている。P.62-63 は他地域とのかかわりや販売を通じて福岡市のよさを伝えようとしていることにも触れている。教科書 P.63 「工場の高尾さんからのメール」では、工場や会社の取り組みが、商品や地域の魅力を発信していることに気づかせるような文面になっている。ささかまぼこも仙台の特産品となっていることで、土産物としても著名であり仙台市の魅力を伝えるものの一つとなっていることにも気づかせたい。

どのようなところで売られているのか、調べてみましょう。



◎ささかまぼこのゆくえ

できあがったささかまぼこは工場から店へトラックで運ばれます。

「駅や空港、国道沿いのお店でよく売られているよ。」

「たくはい便で全国に送られることもあるそうです。」

「スーパーで売られているのもよく見るよ。」

「いろいろところで売られているんだね。」



駅の中の店



国道沿いの店



グループで設定したテーマに沿って、児童一人一人が調べたことをカードにまとめさせる。絵や写真などを交えながら、分かりやすくまとめさせたい。

◎調べたことをまとめて発表しよう

ささかまぼこについて、調べてわかってほしい。友達を発表を聞いて、ささかまぼこを早くまとめさせたい。くさん見つけてみましょう。

グループでテーマを決めて、調べたことをもぞう紙にまとめてみよう

①グループでテーマを一つ決める。

〈テーマの例〉

- ・おいしいささかまぼこのつくり方のひみつを調べよう。
- ・ささかまぼこの原料のひみつを調べよう。
- ・安全な商品をとどけるまでのひみつを調べよう。

②テーマにそって一人一人が調べ、わかったことを、絵や写真を交えながらカードにまとめる。



めあて

ささかまぼこと私たちの地域のかかわりについて考え、これまでの学習をまとめましょう。

<私たちのくらしとのかかわりは…>

<新聞に載せたい内容は…>



- ・働く人の工夫や思い…
- ・作り方の工夫や技術…

まとめ

かまぼこ工場で働く人たちは、えいせい面に…
様々な役割を… 県内の様々な場所で売られて…
私たちの生活と関連していて…



2 はたらく人とわたしたちのくらし

①見る人がわかりやすいように工夫しながら、カードをもぞう紙にはってまとめる。

いろいろな工夫
があることがわかり
ました。



絵や写真があっ
て、わかりやすい
ね。共同編集機能
を使って、パソコ
ンでまとめること
もできそうだね。



写真「模造紙を使った発表」
④もぞう紙を使って、グループごとに発表し、気付いたことや**模造紙**を使ってグループごとに発表させ、**気づいたことや感想を話し合わせる。1人1台端末を活用したまとめも考えられる。友達との考えと交流することで、多様な考えに気が付かせる。**

⑤自分の考えをまとめよう

これまでの学習や、グループの発表を聞いて、学習問題に対する自分の考えをまとめよう。
学習問題についてわかったことを、ノートに書いてみよう。

<学習してわかったことや考えたこと>

おいしいささかまぼこをつくるためには、たくさんの工夫がされている。
原料はすけとうだらやひらめなどのいろいろな種類の魚が使われていて、外国からも送られてきている。魚の自身部分を「すりみ」にして、ささかまぼこの形にして焼き上げ、包装して箱詰めして出荷をしている。

工場では、えいせい面に気を付けていて、せいけつな服そうてかまぼこをつくらしている。工場にはかまぼこづくりをする人以外にも研究室ではたらく人や事務室ではたらく人もいて、おいしいささかまぼこをみんなが食べられるようにけんさをしたり、つくるかまぼこの数を決めていたりする。

できあがったささかまぼこは工場から店へトラックなどで運ばれ、わたしたちのもとへとどく。

かまぼこは、工場ではたらく人の工夫でつくられていることがわかった。何気なく食べているものや使っているものに、多くの努力や工夫を感じることができた。



しほさんのノート

資料の活用の仕方

・写真「販売している場所」

どんなところで販売しているのか、写真を通して考えさせるとともに、立地条件についても話し合わせると良い。(左から、仙台駅の店舗、国道沿いの店舗、仙台空港の店舗)

・イラスト「学習問題についてまとめたノート記述」

学習問題は授業の際、常に児童の目に触れる場所に掲示し、課題意識を持って学習に取り組ませるようにする。単元の終末として、これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。1人1台端末を活用して、まとめた内容を交流させることも考えられる。

本時の評価と指導

①知識・技能

ノート等の記述内容から、「必要な情報を集め、読みとり、工場でつくられたかまぼこが県内を中心とした販売店に送られていることを理解しているか」を評価する。

②思考・判断・表現

新聞等にまとめた内容から「工場働く人々の生活との関連について考え、表現しているか」を評価する。

③指導のポイント・留意点

地域との関わりについては「人口が多いところや高速道路の近くに店がある」といった社会的事象の見方・考え方を働かせている様子

<p>小単元名 p. 34～43</p>	<p>② 店ではたらく人</p>	<p>小単元の 目標</p>	<p>地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図にまとめることで販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。</p>
--------------------------	------------------	--------------------	---

つかむ

p. 34～36

◎ 学校のまわりにある店 ◎ 家の人を利用する店

- 買い物について振り返り、紹介し合う。
 - ・ 日頃どんな店を利用しているか、紹介する。
コンビニエンスストア、スーパーマーケット、商店 など
 - ・ 学区内のどこにどんな店があるか地図上で確かめる。

買い物調べの結果をまとめ、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。

買い物調べを表やグラフにすると分かりやすいね！

買い物をする人はいろいろある店をどのように使い分けているのだろう？

学習問題

スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか。

調べる

p. 37～39

◎ スーパーマーケットの見学

- ・ スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まる秘密を調べて、見学カードに記入する。
(品揃え、並べ方、表示、便利さ)

◎ 店ではたらく人の仕事

- ・ 店員さんにインタビューする。
(工夫、気を付けていること、願い)
- ・ お客さんにインタビューする。
(買い物をするときの願い)

※見学カードやインタビューの仕方を確認する。

p. 40

◎ 品物はどこから

- ・ 商品がどこから運ばれてきているのか調べる。

p. 41

◎ お客さんの願い

- ・ お客さんの願いと、お店の工夫が繋がっていることを考える。

p. 42

◎ まちの人とともに

- ・ スーパーマーケットが行っている工夫を話し合い、工夫について考える。

まとめる

p. 43

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・ これまでの学習を踏まえて、店の人のくふうやお客さんの願いとスーパーマーケットの工夫とのつながりについてまとめる。
(新聞、ICT活用)



○ 教科書、副読本の両方の事例を取り上げることで、自分たちの地域のいろいろな店との類似点、相違点を見付けることができる。

○ 「まなび方コーナー」の「見学のしかた」「インタビューのしかた」などを活用し、「社会的事象等について調べ、まとめる技能」を習得する機会とする。

学習の流れ①②(例)

※2時間扱いとした場合

(1) 買い物に行く店について話し合い、本時のめあてをつくる。 **10分**

T 家の人とどのような店に買い物に行っていますか。

C 家の人と車で大きなスーパーマーケットに行きます。

C よく習い事の帰りにコンビニエンスストアに家の人と行きます。

わたしたちは、どのような店でよく買い物をしているのでしょうか。

(2) よく買い物に行く店にはどのような種類があるのか話し合う。

C 近所にスーパーマーケットがあります。通学路にはコンビニエンスストアもあります。

C 駅の近くにはドラッグストアもあります。

(3) よく買い物に行く店について詳しく調べるために家の人に質問することを話し合い、質問カードをつくる。 **40分**

C なぜそのお店に行くのでしょうか。
C どのようなものを買っているのか、どのくらいそのお店に行っているのかも調べたいです。

(3) 質問カードの集計結果を白地図にまとめ、気づいたことを話し合う。

40分

C スーパーマーケットに行く人が多いことがわかりました。

C 近くのスーパーマーケットより、遠くの大きなスーパーマーケットに行く人が多いのはなぜでしょうか。

C 駐車場が広いからでしょうか。

T 次の時間は、スーパーマーケットについてさらに詳しく調べて、学習問題をつくりましょう。

本時のねらい

①よく買い物に行く店について話し合ったことをもとに、家の人にインタビューする計画を立て、地域には様々な種類の店があることを理解する。②調べた結果を白地図にまとめ、目的に応じて買い物に行く店を使い分けられていることを理解する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.66-69 にリンクした内容となっている。教科書 P.66 では、4つの写真からわたしたちが普段どのような場所で買い物をしているかについて話し合うことをきっかけに、よく行くお店について家の人に質問してみようという流れで構成されている。身近な地域にある店の広がりに着目させるために、はじめからスーパーマーケットに絞ろうとするのではなく、様々な種類の店があることに気づかせたい。さらに、ここでも白地図を使って、店の分布を視覚化することで、「社会的事象等について調べまとめる技能」(指導要領解説 P.152) を育てていきたい。小単元の導入であることから、教科書 P.67 「学習のはじめに見てみよう」も必要に応じて活用したい。

2

店ではたらく人

◎学校のまわりにある店

だいちさんたちは、家の人とくらしにひつようなものを買うときに、どこの店に行くか話し合いました。



「休みの日には車で大きなスーパーマーケットに行きま

「近くの商店街に

たことがあり

えてもらいま

「おそい時

ればならない

エンストア

だいちさんたちは

かるように白地図に

図「白地図」

まち探検で作成した地図上に店の場所を示し、学校との位置関係、住宅地や通りとの関係などにも着目させる。スーパーマーケットが1件とは限らず、最近では通信販売を利用することも考えられ、地域によって違いが出ると思われる。それぞれ、その店を利用する理由を確認し、消費者の願いにつなげたい。



めあて

わたしたちは、どのような店でよく買い物をしているのでしょうか。



スーパーマーケット

コンビニエンスストア

商店

- ・家や学校のまわりには…
- ・離れたスーパーマーケットに行く人が多くて…

まとめ

家の人が行くお店にはいろいろあって…スーパーマーケットが一番多く…
その店を使う理由はそれぞれで…

資料の活用の仕方

・本文・写真「買い物調べをしよう」

写真から普段の家庭での買い物を想起させ、興味・関心を高めたい。また、事前に、家庭での「買い物調べ」や取材活動を行わせたい。

・写真「商店等の写真」

まち探検の際に撮影した、それぞれの地域にある商店の写真を授業で提示するなど、身近な消費活動とのつながりを実感させながら学習を進めていく。

2 はたらく人とわたしたちの暮らし



スーパーマーケット

コンビニエンスストア

商店

「いろいろなお店で買い物をしているんだね。」

「遠いお店にも行って、いろいろの」

「みなさんが同じまちで、最近1週間で買い物をしたに、買い物をする店が何店を書き込む。また、その店に行く理由についても具体的に書かせるようにする。ここに書かれていることから、消費者の願いにつなげていく。」

「家族にインタビューする等して、最近1週間で買い物をしたに、買い物をする店が何店を書き込む。また、その店に行く理由についても具体的に書かせるようにする。ここに書かれていることから、消費者の願いにつなげていく。」

「だいちさんたちは、店について調べるために、家の人によく聞いてみることにしました。」

クラスで家の人の買い物について調べることにしました。
次のしつもんにお答えください。

しつもんカード

①くらしにむつようなものを、よく買い物に行くお店はどこのお店ですか。

②なぜそのお店に行きますか。そのお店をえらぶわけを教えてください。

ご協力ありがとうございました。

買い物をする人は、いろいろあるお店で、どんなものを買っているのだろう。



本時の評価と指導

①知識・技能①

①ノート等の記述内容や発言内容から、「地域には様々な種類の店があることを理解しているか」を評価する。②白地図やノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、店によって利用する理由が異なるが、スーパーマーケットをよく利用していることを理解しているか」を評価する。

②指導のポイント・留意点②

家庭の事情で質問カードによる買い物調べが難しい場合は、教師が予備のカードを持っていき、教師に質問させるなどして全員が参加できるように配慮する。

学習の流れ (例)

※2時間扱いとした場合

(1) スーパーマーケットについて、気づいたことや疑問に思ったことを話し合う **10分**

T スーパーマーケットとは改めてどのようなお店ですか。

C 店内には食品以外の商品も売っています。

C いつも店内にはたくさんのお客さんがいます。

(2) たくさんの方がスーパーマーケットに行く理由を話し合い、学習問題を作る。 **35分**

C どうしてたくさんの方がスーパーマーケットに行っているのか気になります。

C たくさんの方が買えるように商品をそろえているのではないのでしょうか。

C たくさんの方が買い物しやすいようにいろいろな工夫をしているのだと思います。その工夫を調べたいです。

(3) 学習問題について予想し、見学したいことについて話し合い、見学の計画を立てる。 **45分**

T みなさんの疑問や気づきから、「スーパーマーケットに、たくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか」という学習問題ができましたね！これを解決するためにどんなことを見学したいですか。

C 実際にスーパーに行って、工夫を見つけたいです。

C 働いている人やできればお客さんにもインタビューをして、たくさんあつまる理由について考えたいです。

C 品物の売り方に工夫があるかもしれないので、売り場をよく観察したいです。

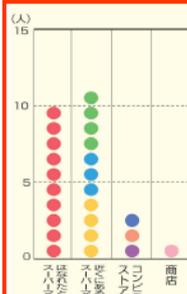
本時のねらい

買い物調べてスーパーマーケットについて、気づいたことや疑問に思ったことをもとに学習問題をつくり、その予想から学習計画を立てる。

✪教科書と合わせた活用のポイント✪

教科書 P.69-75 にリンクした内容となっている。教科書 P.69 には集計結果表に表す活動が例示されている。白地図に表したものと関連付けながら、ここでも視覚的に「スーパーマーケットを利用する人が多い」ということに気付かせていく。それを踏まえて、「どうしてたくさんの方がスーパーマーケットに行っているのか」という問いを引き出したい。児童それぞれの主観で、どこが一番かと考えさせるのではなく、集計結果を踏まえて、教科書 P.75 の児童の対話例のように、立地条件や、品物の種類の多さから学習問題をつくっていくようにする。

家の人が買い物に行った店
(しつもんカードの集計)



◎家の人が利用する店

「スーパーマーケットに多くの方が買い物に行っています。」

「コンビニエート、スーパー、ストア、スーパーマーケット、それぞれで買物をする人もいます。各自が調べてきたことを学級でまとめるとよい。地域の買物の様子が見える。●を使えばあるのかな。●を使ってまとめることで、グラフを読み取る技能の育成にもつながっていく。スーパーマーケットに、こんなにたくさんの方が集まるのか調べてみることにしました。」

学習問題 スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか。

見学カード
(船や写真)

調べたこと(分かったこと)

なまえ

- ### 学習コーナー
- 見学の仕方
- きちんとあいさつをする。
 - 目的を伝える。
 - お客さんのじやまにならないようにする。
 - 分かったことや見つけたことはしっかりメモをとる。

地域によっては個人商店のような店舗がないこともあるので、地域の実態に合わせて行こう。最近は、インターネットで注文したり、自宅まで食材を配達してくれたりするサービスもあり、多様化している家にもあるよ。買ったよ。お買いどころが書いてあるんだって。

お客さんには、インターネットで注文したり、自宅まで食材を配達してくれたりするサービスもあり、多様化している家にもあるよ。買ったよ。お買いどころが書いてあるんだって。

ぼくはお店の中の様子にもひみつがあると思うんだけどなあ…

お店へ見学に行って調べてみたい。

見学に行く前に、どんなことを調べてくるかを、クラスで話し合っておきましょう。

めあて

スーパーマーケットについて、気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくろう。

<気づいたこと>

- ・たくさんの客さんが…
- ・たくさんの人が働いて…
- ・広い駐車場が…

<見学して調べること>

- ・店長さんにインタビュー
- ・売り場の人に…
- ・…

学習問題

スーパーマーケットに、たくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか

<予想>

どんな種類の品物… たくさん的人是はどんな役割で…



資料の活用の仕方

・写真「スーパーマーケットの見学」

見学の際には、商品の並べ方や配置の仕方に工夫があることに気づかせたい。あらかじめ見取り図などのワークシートを準備し、書き込ませるとよい。教科書 P.73-74 の折込イラストも参考にしたい。

・イラスト「キャラクターの吹き出し」

見学を行う前に、「お客さんが集まるわけ」について「気をつけていること」「工夫していること」などの視点を与え、予想を立てる。見学に向けて、意欲づけを図りたい。

2 はたらく人とわたしたちのくらし

◎スーパーマーケットの見学

だいちさんたちは、たくさんのお客さんが集まるひみつを見つけるために、スーパーマーケットにやってきました。

品ぞろえやならべ方のひみつ



商品をとりやすいならべ方



大きさを変えて売られている商品



新鮮な魚がいる

表示のひみつ



大きなかんばん



産地や値段の表示



店の人が書いた説明

べんりさのひみつ



セルフレジ



調理のサービス



広い通路

本時の評価と指導

◎主体的に学習に取り組む態度◎

①②ノート等の記述内容や発言内容から、「スーパーマーケットの仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

学習の見通しをもつことが苦手な児童に対しては、教科書 P.71 の学び方コーナーを示したり、「品物」「品質」「売り場」などの項目に整理したりして、学習計画を立てることができるように支援する。その際に、児童から出た予想を項目ごとにまとめさせたい。そうすることで、調べること（内容）だけでなく、調べ方（方法）とまとめ方（小単元のゴール）を共有でき、見通しを持って追究活動を進めることができる。

学習の流れ (例)

※2時間扱いとした場合

(1) 学習計画をもとにスーパーマーケットを見学し、気づいたことを発表する。 **30分**

T スーパーマーケットを見学して、どのようなことに気づきましたか。

C 野菜、果物、肉、魚、日用品など様々な品物が売られていました。

C どの商品がどのように並んでいるのか分かりやすいように、棚の上に商品の種類ごとの看板がありました。

スーパーマーケットの売り場は、どのようなになっているのでしょうか。

(2) 店の人の仕事について気づいたことを話し合い、まとめる **30分**

T 店の人たちはどのような仕事をしていましたか。

C 総菜をつくり、ワゴンで運んでいました。

C 調理する人は衛生面に気を付けて、マスクや手袋、エプロンや帽子を身に着けていました。

C 野菜や果物、魚や肉も、様々な量や大きさを売っていました。

(3) スーパーマーケットの様子を見て、気づいたことをまとめる。 **30分**

C お年寄りや、親子、車いすに乗る人など、様々な人が買い物に来ている。通路が広いので、ベビーカーを押している人や車椅子に乗る人も安心して買い物ができるようになっています。

C いろいろなところに看板があるので、どこに何が並んでいるのかが分かりやすいです。

C 売り場の外でも、たくさんの方が働いています。

ねらい (2時間扱い)

スーパーマーケットを見学して、売り場や店で働く人の様々な工夫について理解する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.72-75 にリンクした内容となっている。見学前後で教科書 P.73-74 の折込イラストを活用する。イラストには、子供やお年寄り、車椅子を使う人が描かれている。また、リサイクルコーナーやイートインスペース、駐車場も描かれており、見学した店の様子を想起させたい。売り場の工夫と買い手のニーズとのつながりや仕入れ先を予想させることで、次時の学習につなげることが大切である。教科書の折込イラストは見学前に視点をもたせるために見せたり、見学後に確かめたりするために活用する等、学習計画に合わせて効果的に使う工夫をしたい。

◎店ではたらく人の仕事

学び方コーナー

インタビューの仕方

- インタビューをしていいかどうかをたずねる。
- あいさつと自己紹介をする。
- 調べたいことを順序よくたずねる。
- 分かったことをメモする。
- お礼を言う。

だいちさんたちは、店の人はどのようなことに気をつけてはたらいっているのかインタビューしました。

商品をならべる人



朝4時からお店が開くまでに、品物をたなにならべています。品物が見やすいように気をつけています。

品物を注文する人



コンピューターを使うと、売れぐあいがわかります。イベントのある日は、売れそうなものを多く注文しています。

魚をさばく人



お客様のねがいに合わせて、いろいろな大きさに切り分けます。小さいお子さんも安心して食べられるように、ほねをなるべく取りのぞくようにしています。

おそうざいを作る人



できたてのおいしいお弁当やおそうざいを作っています。曜日や時間によって、りょうをかえるくふうをしています。

ネットスーパーの注文を受ける人



インターネットからの注文を受けて、品物をそろえます。食料品などは、なるべく新せんで、品しつ®のよい物をえらぶようにしています。



品しつ®とは食料品をそろえること。お店は、品しつ®のよい品物をそろえています。

店の中だけでなく、普段は見られない店の裏側でも、多くの人たちが働いていることや様々な工夫があることに気付かせたい。

めあて

スーパーマーケットの売り場は、どのようになっているのでしょうか。



<見学して気づいたこと>

- ・様々な品物が…
- ・天井に看板が…

<店の人たちに仕事について>

- ・調理をする人はえいせいに気を付けて…
- ・様々な量や大きさで…

まとめ

スーパーマーケットでは、たくさんの商品が売られていて…
たくさんの人たちがやくわりを分たんして…

2 はたらく人とわたしたちのくらし

 「お店の中を気をつけてかんさつすると、いろいろな人が仕事をしていることがわかりました。」

 「お客さんのねがいに合わせて、お店ではたらく人はたくさんのくふうをしているんだね。」



店長さんの話

うちのスーパーマーケットでは、およそ100人の人がはたらいています。商品をならべる人や品物を注文する人など、さまざまな仕事があります。

お客さんにお店をまんべんなく回ってほしいので、売り場をくふうしています。品物のせいりを毎日おこない、品物が見やすいようなならべ方を考えています。例えば、同じ色の食べ物をたてにならべる「カラーコントロール」などです。また、お店の奥まで店内を見えるために、目玉の商品の置き方もくふうしています。

知ってる?「SDGs」

「SDGs」は、みなさんの世界をよくするものがあります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



今回、調べたお店の工夫や、家での買い物の仕方、「SDGs」につながる工夫がなかったか、ふりかえてみましょう。もったいないをなくすことで、みなさんにもできる「SDGs」がたくさんあります。

お店は、お客さんの願いに合わせて様々な工夫することで、売り上げを高めようとしていることに気付かせる。

資料の活用の仕方

・写真「店ではたらく人の仕事」

ここでは、見学活動を積極的に取り入れたい。見学に際し、前もって店に見学の観点を知らせ、見学内容、経路等を決めておく。

・写真「知ってる?SDGs」

買い物における家庭の工夫や販売店の工夫からSDGsに結びつくものを考えさせる。また、SDGsという用語にふれることで次年度以降の社会科の学習や現代社会における課題に関心を持たせられるようにしたい。

・教科書 P.74 コンテンツ「スーパーマーケットで働く人の仕事を調べよう」

見学先でのメモを十分取れなかったり、情報が整理できていなかったりする児童に対して、見学先の情報を想起させるために必要に応じて活用したい。

本時の評価と指導

① 知識・技能 ①

見学メモやノート等の記述内容から、「情報を集め、読み取り、スーパーマーケットの売り場や店の人の様子について理解しているか」を評価する。

② 指導のポイント・留意点 ②

3年生の児童にとっては、社会科見学は得る情報が過多になることが多いため、見学前に教科書 P.67「学習のはじめに見てみよう」や「スーパーマーケットではたらく人の仕事を調べよう」を活用して、事前に予習することも効果的である。見学時には、個人ごとに店の図面や見学メモを持たせ、どこで何を観察するかを意識させたうえで臨ませたい。

↓ 学習の流れ①②(例)

(1) スーパーマーケットで売られている品物の産地を調べ、他地域や外国とのつながりについて話し合う。**25分**
T スーパーマーケットで売られている品物の値札やシールから、どのようなことがわかりますか。
C どこから来ているのか、値札やシールに地名が書いてあります。
C 前に買ったお肉はアメリカ産と書いてありました。
C わたしたちの市や県以外から運ばれてきているものがあります。

たくさんの品物は、どこから運ばれてくるのでしょうか。

(2) 地図帳の日本地図や外国の地図を使い、産地に印をつける。**30分**
T 品物はどこから運ばれていることがわかりましたか。
C 棚の表示を見ると、バナナはフィリピンから来ていることがわかります。
C パッケージのシールを見ると、私の大好きなステーキはオーストラリア産と書いてあります。

(3) 調べて分かったことを白地図にまとめる **35分**
C わたしたちの市だけでなく、ほかの市や県、もっと遠いところでは外国でつくられたものがたくさんあることがわかりました。
C 外国の国旗の意味を知って、どの国も国旗を大切にしていることがわかりました。
C お客様のほしい物が買えるように、いろいろな地域から品物を集めて売っているということがわかりました。

ねらい(4時間扱い)

①②スーパーマーケットの品物の産地を調べて分かったことをもとに、品物を通したスーパーマーケットと、他地域や外国とのかわりについて理解する。③④働く人の工夫やお客様の願いを理解する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.76-79 にリンクした内容となっている。教科相 P.76-77 では、品物や産地の場所や広がり(市区町村、都道府県、国)に着目させ、様々な場所から届いていることについて考えるような構成になっている。学習指導要領解説 P.40「我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること」とあるように、他地域とのつながりに気づくだけでなく、外国には国旗があり、国旗にはその国の人々の願いや気持ちが込められていることを学ぶ機会であり、丁寧に取り上げたい。

◎品物はどこから

だいちさんたちは、たくさんの品物が、どこから運ばれてくるのか調べることにしました。



「仙台市だけでなく、ほかの市や県などでもつくられたものもあったね。」
「バナナのねふだはフィリピン産と書いてあった。」
「ここでは、品物が他の市や県、外国から運ばれてきていることを白地図にまとめさせたい。その際、日本や外国の国旗についても扱い、国旗を尊重する態度を養う。」



品物とおして、国内のいろいろなところや、外国ともつながっていることがわかったよ。

外国にも日本と同じように大切な国旗があるんだね。その国の国旗を地図帳でたしかめてみよう。

めあて

たくさんの品物は、どこから運ばれてくるのでしょうか。



<どこから?>

・バナナは… ・肉は… たまねぎは…

まとめ

品物は国内だけでなく…

たくさんの地域とかかわりながら…

資料の活用の仕方

・写真「品物の産地」

見学の際に品物の産地についても調べさせておき、お店で売られている品物は、さまざまなどころから運ばれてきていることに気付かせる。

・写真「お客様の願い」

可能であれば、見学の際にお客さんにインタビューすることも考えられる。買い物をするときのお客さんの願いと、お店の工夫の繋がりについて考えさせる。

2 はたらく人とわたしたちのくらし

◎お客様のねがい

だいちさんたちは、お客さんが買い物をするとき、どのようなねがいをもっているのかインタビューしました。

一度にたくさんのお買い物をしたいので、車で行きたいです。

広いゆゆう車場があり、わりょうとめられるサービスもあります。赤と緑のランプで、どこが空いているかわかりやすくなっています。電気自動車を充電する場所もあります。

安くお買い物をしたいです。

ちらしを見ると、安くお買い物できる品物があります。最近では、HP、Webちらしやアプリ、YouTubeなども見られるようになってきました。

解りがおそいときでも、おべんとうやおそうざいを買いたいです。

スーパーマーケットは10時まで営業しているの、仕事帰りにおべんとうやおそうざいなどたくさんのお客さんのニーズにこたえられるように、食料品の大きさをかえたりしています。

安心して食べたいです。

安心しけるので、安心して食べたいです。地域でつくられた商品もありますよ。

本文「店長さんの話」
お店は、お客さんにこたえる工夫をすることで、お店の売り上げに繋がっていることに気付かせる。



店長さんの話

店では、お客さんのねがいにこたえるくふうや努力をしています。たくさんのお客さんに来ていただくことで店の売り上げをあげることにもつながります。たとえば、しゅん※の食べ物や商品を目立つ場所において、きせつ感を大切にしたい売り場になるようにしたり、曜日や時間によって変わるお客さんのニーズにこたえられるように、食料品の大きさをかえたりしています。

※しゅん…食べ物がいちばんおいしく食べられる時期のこと。

地下鉄やバス、車を利用して、となりの町からきているお客さんもいました。



お客さんのねがいとお店のくふうや努力はつながっているんだね。



本時の評価と指導

◎知識・技能◎

①②ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、品物を通したスーパーマーケットと、他地域や外国とのかかわりについて理解している」を評価する。③④見学メモやノート等の記述から「必要な情報を集め、読み取り、スーパーマーケットで働く人は、お客さんの願いにこたえ、店にたくさん来てもらうために様々な工夫をしていることを理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

①②…白地図を活用し、我が国や外国には国旗があること、いずれの国でも国旗を大切にしていること、及び我が国の国旗を尊重するとともに、外国の国旗を尊重することについて触れたい。③④…店の人の工夫とお客さんの願いが繋がっているということに気づかせるようにしたい。

↓ 学習の流れ①②(例)

(1) 見学して見つけてきた店の工夫をもとに、本時のめあてについて話し合う。 **20分**

T 商品の並べ方や売り場以外に工夫していることはありましたか。

C リサイクルコーナーが店の外に置いてありました。

C 「お客様の声」というコーナーがありました。

スーパーマーケットでは、そのほかにどのような工夫をしているのでしょうか。

(2) 品物の並べ方や売り方以外に、行っている店の工夫とその理由について話し合う。 **60分**

T どのような工夫をしているのでしょうか。

C 障害のある方が作ったものを販売するイベントを行って、地域の人々の活躍の場をつくっています。

C お客様からの意見を取り入れて要望のあった商品を並べることもあるそうです。

C 広い駐車場の中には、車いすを使用する人専用の場所もありました。

T なぜこれらの工夫をしているのでしょうか。

C たくさんのお客様に来てもらい、安心して買い物をすることで、店の売り上げを高めることができるからだと思います。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C お客様の願いをかなえることや、地域の人とのつながりを大切にしていることで、たくさんのお客様が集まり、店の売り上げにつながっているということが分かりました。

本時のねらい

①②品物や売り場の工夫のほかに、お客様の願いをかなえるために店が工夫していることを理解する。③④これまで学習したことをもとに、スーパーマーケットで働く人は、多くのお客様に買い物をしてもらうために、どのような工夫をしているのかとめる。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.80-83 にリンクした内容となっている。教科書 P.80-81 では、お客様の願いをかなえることは、お店の売り上げを高めることにつながっていることに気づく児童の対話例が示されている。学習指導要領解説 P.150 「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」において、本単元は「現代社会と人々の生活（経済・産業）」に位置づけられていることから、経済分野の学習であることを意識したい。一見、売り上げにつながらない店の工夫だとしても、どうしてそのようなサービスを行っているのか、理由を考える時間を大切にしたい。

◎まちの人とともに

スーパーマーケットは、品物を売ることのほかにいろいろな取り組みをしていることに気がつき調べてみました。



▲リサイクルコーナー
種類によって分けられた回収ボックスです。



▲ご意見・ご返事公開ボード
お客様からの意見にお店の人が答えます。



▲ふれあい製品販売会
しょうがいのある方がつくったものを販売するイベントをおこなっています。



▲カートコーナー
ベビーカー付きカートもあります。



▲サービスカウンター
商品を包んだり、駐車券を出したりします。



▲黄色いレシート
黄色いレシートを、店内のポストに入れることで寄付することができます。



これなら赤ちゃんといっしょに来た人でも安心だね。



▲お店の人を呼ぶためのインターホン
体の不自由な方が買い物にこまっていますときは、お店の人が手伝います。

店長さんの話

地域の人たちにもけいし板を利用してもらっています。また、使い終わったパックなどを回収し、リサイクルできるように業者さんをお願いするなど、ごみをへらすための取り組みもしています。地域のみなさんが利用しやすいお店づくりをするようにして、**盲導犬マークが介助犬等を含む補助犬マークに変わっている。**

目や耳、体のふじゆうな人の手だすけをする補助犬が、いっしょに入れるというマーク。

ちゅう車場で車いすの人などがゆうせんの利用でできる場所を示すマーク。

めあて

スーパーマーケットでは、そのほかにどのようなくふうをしているのでしょうか。

<お客様のニーズにこたえるために>

- ・ご意見ボードは…
- ・黄色いレシートは…
- ・



まとめ

お客様のニーズには例えば…
それが売り上げを高めることに…

資料の活用の仕方

- ・写真「まちの人々とともに」
- ・本文「店長さんの話」

スーパーマーケットやショッピングセンターなど多くの人たちが利用する店では、様々な人が利用しやすいよう工夫されていることに気づかせたい。また、買う人の思いや考えが、店の工夫に生かされていることに気づかせることも大切である。

- ・写真「まとめて発表しよう」

これまで学習したことを新聞にまとめたり、共同編集機能を用いて端末でまとめたりして発表する。学習内容に応じて、適切な発表方法を教師側が押さえておきたい。分かったことや考えたことが、分かりやすく表現できるように支援する。

本時の評価と指導

①②知識・技能

①②見学メモやノート等の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、お客様の願いをかなえることがスーパーマーケットの売り上げの向上につながることを理解しているか」を評価する。③④まとめの記述内容から、「消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどをもとに、販売の仕事の様子や工夫について考え、表現しているか」を評価する。

③④指導のポイント・留意点

③④…小単元のまとめにあたる本時において重要なのは概念的理解である。これまでの学習で学び得たキーワードを活用して、販売の仕事や工夫について考えたことを表現できるようにしたい。

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

①調べたことをまとめて発表しよう



まとめ方をくふうしていますね。発表するときにはどんなことに気をつければいいのか、クラスで話し合ってみましょう。



お店にはさまざまなサービスがありました。お客様がお気に入りのサービスはどんなものだったかな。



お客様がほしいものをすぐ買えるようにいろいろなくふうをしているんだね。



店のくふうとお客さんの願いには、どのよ

発表例

「食・壁新聞にまとめた発表があったよ。どこで1人1台端末を活用した発表できるね。」

「月に何回かチラシを配って、せんでんをしているそうよ。お買いどくなものがすぐにわかるね。」

「品物がわかりやすくなっていたね。どこに何があるかわかると買い物がしやすいね。」

「大きな看板や広い駐車場があったよ。はじめて来る人も安心だね。」

<p>小元名 p. 44～47</p>	<p>①火事から くらしを守る</p>	<p>小単元の 目標</p>	<p>火事から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学、調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解するとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちができることなどを考えようとする。</p>
-------------------------	-------------------------	--------------------	---

つかむ

p. 44◎火事が起きたら-全焼までの時間

- ・仙台市の火災に関するデータから、仙台市ではどうしてほとんどの火事が全焼する前に消し止められているのかという問いを見だし、予想を立て、小単元の学習への関心を高める。
- ・仙台市の火災件数、主な出火原因のグラフの一部を隠して、クイズ形式で資料を提示する活動も考えられる。

素早く消火するためにどのような工夫があるのかな？

消防署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題
火事が起きたときや火事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調べる

p. 45、46

◎ いざというときのために
-消防署の取組-

◎ 火事が起きたら
-消防指令センターのはたらき

〈消防署の見学〉
どんなことを見たり、聞いたりするか、見学の前に決めておく。

〈事前指導の内容〉
準備物
見学の視点や質問の内容
挨拶や話の聞き方
「見学カード」への記入の仕方
インタビューの仕方

※消防署の見学が実施できない場合は、教科書や副読本、webなどの資料を活用して調べ学習に取り組む。

p. 47

◎ 火事をふせぐためにできること

火事を防ぐために消防署や地域の人々がどんな努力をしているのか調べる。

〈消防団について〉
消防団の取組について説明し、地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。可能であれば、消防団の人を招いて直接話を聞くとよい。

※情報コーナー

仙台市消防局	2 3 4 - 1 1 1 1
青葉消防署	2 3 4 - 1 1 2 1
宮城野消防署	2 8 4 - 9 2 1 1
若林消防署	2 8 2 - 0 1 1 9
泉消防署	3 7 3 - 0 1 1 9
太白消防署	2 4 4 - 1 1 1 9

まとめる

p. 47

標語を考えたりポスターを作ったりする

- ・学習したことをもとに、自分たちができる防火の取組を考え、発表したり、標語やポスターで表現したりする。
- ・防火につながるキーワードを発表させ、それをつなぎ合わせてクラス標語を作る活動なども考えられる。



教科書では、事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせるところが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

↓ 学習の流れ① (例)

(1) 前時の学習を振り返り、本時のめあてを立てる。5分

T 火事が起きた時、どのような人がどのようなことをしていましたか。

C 消防士が消火活動や救助活動をしていました。

C 警察が交通整理をしていました。

しりょうから気づいたことを話し合い学習問題をつくりましょう。

(2) 資料から気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。20分

T グラフ等の資料を見て、分かることや気づいたことを発表しましょう。

C 火事の原因は様々ですが、電気関係が一番多いことが分かります。

C 火災件数に比べて、全焼した件数が少ないのは、なぜでしょうか。

C それだけ、早く対処できているからではないでしょうか

(3) 学習問題について予想し、学習計画を立てる。20分

T みなさんの疑問や気づきから、「火事が起きた時や火事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか」という学習問題ができましたね！これを解決するためにどんなことを見学したいですか。

C 消防士の人はいつも訓練しているから、早く火事の現場に駆けつけたり、安全に消火活動をしたりすることができるのではないのでしょうか。

C 119番の通報があるといろいろなところへ連絡がいくと思います。

C たくさんの人たちが関わっているのではないのでしょうか。消防士の仕事やまちの消防施設、地域の取組について調べ、関係図にまとめたいです。

本時のねらい

①地図やグラフを見て気づいたことを話し合い、火災から地域の安全を守る働きについて学習問題をつくり、その予想をもとに学習計画を立てる。②消防署の見学を通して、消防署の設備や消防署の人たちの仕事の様子、日頃の備えについて理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.90-95 にリンクした内容となっており、教科書 P.88-89 単元のオリエンテーションの学習内容を終えてから、本ページ内容に入ることを想定している。教科書では、消火活動や交通事故が起きた時の様子の写真を手掛かりに、単元のめあて「わたしたちの安全なくらしを守るために、まちでは、どこで、どのような人たちがはたらいているのでしょうか」を設定する流れになっている。教科書 P.89 には「学習のはじめに見てみよう」という動画が用意されており、写真資料から実際の場面を具体的にイメージできるため、実態に応じて活用したい。

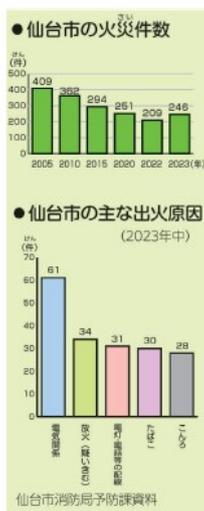
3

くらしを守る

1 火事からくらしを守る

◎火事が起きたら—全焼までの時間

だいちさんたちは、火事の写真や資料を見て話し合っています。「すごい火事だ。」「あつという間に全焼してしまいそうだね。」



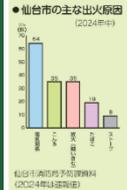
「火事が起きて119番にかけると、消防車がかけつけて消火するんだね。」

「住宅火災の件数資料「仙台市の住宅火災件数」とは少ないようだ。火災に対して全焼の数が少ないことに着目する。だいちさんたちは、この話をあつと、どのようにして消防車がかけつけるのか知りたくなりました。そこで消防署の人たちがどんなことをしているのか調べることにしました。」

学習問題 火事が起きたときや火事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

めあて

しりょうから気づいたことを話し合い学習問題をつくりましょう。



<気づいたこと>

学習問題

火事が起きた時や家事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか

<予想>

- ・ 消防士は訓練で…
- ・ 119番のしくみは…

<学習計画>

- ・ 消防署の見学で…
- ・ 地域を歩いて…



資料の活用の仕方

・ 写真「火災・消火活動」

写真や動画で火事の恐ろしさを捉えさせるとともに、消火活動を行う消防士に着目させることで、消防の仕事について関心を持たせる。

参考資料「防災探検」京都府消防局

参考資料仙台市消防局 公式X

仙台市では青葉消防署に消防情報センター（通信指令室）がある。

仙台市消防局	234-1111
災害案内ダイヤル	234-0119
青葉消防署	234-1121
宮城野消防署	284-9211
若林消防署	282-0119
泉消防署	373-0119
太白消防署	244-1119
宮城消防署	392-8119

3 暮らしを守る

◎いざというときのために——消防署の取り組み

だいちさんたちは、学校の近くの消防署に見学に行きました。

火事になった時のために、消防署で作成した動画でも大事だそうです。ほかにも、いざという人はどんな取り組みをしました。

動画「暮らしを守る」

仙台市青葉消防署で作成した動画が閲覧できる。見学前後に活用し、児童の関心を高めるとともに、消防士の仕事について捉えさせたい。

大交替と点検は、毎日欠かさずやっているんだって。



写真「訓練の様子」

火事が起きたときを想定し、普段から訓練していることに気が付く。 ※消火→濃紺、救急→灰色、救助→橙色と仕事の内容によって制服の色が決まっている。



大交替の様子

消防署員は、朝からいて、次の日の朝に署員と交替します。



ライトやサイレン、タイヤの点検の様子



消防の仕事を紹介するDVD「暮らしを守る」
(仙台市青葉消防署・公益社団法人仙台市防災安全協会青葉地区)

消防士さんの話



火事の通報を受けてから、とにかく一秒でも早く現場に駆けつけるようにしています。また「安全、確実、そしてはやく」消火活動を行うために日々訓練・点検をしています。火事は夜中でも起こりますから、すぐに出動できるようにジャマではなく服を着たまま横になって休んでいます。



はしご車からの放水訓練



救助訓練



消火訓練



救急訓練

本時の評価と指導

◎主体的に学習に取り組む態度◎

①学習計画表の記述内容や発言内容から「火事から地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

◎知識・技能◎

②ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火事が起きた際の消防士の動きや日頃の備えについて理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

学習問題の予想を立てることが難しい場合は、本書 P.45 の写真を一つずつ見ながら、誰がどのようなことをしているのか読み取っていき、役割や働きについて考えられるようにする。

↓ 学習の流れ① (例)

(1) 火事が起きた時、119番に通報するとどこにつながるのか、予想する。5分

C 消防署につながるといいます。
C 仙台の中心部の消防署につながって、それぞれに連絡がいくのではないのでしょうか。

119番に電話をかけると、どこにどのような連絡がいくのでしょうか。

(2) 火事が起きた時の連絡の流れについて話し合う。30分

T P.46の図は、仙台市消防局消防指令センターから様々な機関へ連絡がいく仕組みを示しています。どんなところにつながっていますか。

C 通信指令室につながっています。
C 通信指令室から様々な機関につながっています。電力会社や水道局はどんな関係があるのでしょうか。

C 多くの水を使うから連絡を入れているのではないのでしょうか。

C なるほど！そうするとガス局へ連絡するのは、ガスを止めて爆発を防ぐためではないのでしょうか。

T 通信指令室の人は、通報した人にどのような情報を聞く必要があるのでしょうか

C 火事の大きさや場所、どんな建物か知る必要があると思います。

C けが人がいるなら救急車が必要かどうかとも知りたいですね。

(3)。本時のまとめをする。10分

C 火事が起きると、通信指令室から様々な機関へ連絡がいき、連携して対応していることがわかりました。そのおかげで早く消火できているのだと思います。

ねらい (4時間扱い)

- ①通信指令室の役割や、関係機関との協力体制について理解する。
- ②消防団は地域と協力しながら火事に備えていることを理解する。
- ③火事からくらしを守る人々の働きについて図にまとめることを通して、関係機関の働きや相互の関係、地域の人との協力や自分たちにできることを考える。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.96-103 にリンクした内容となっている。教科書では、①通信指令室の役割と関係機関との協力体制について②消防施設の配置の工夫③消防団の取組について④火事からくらしを守る人々の働きについてのまとめと地域の人との協力や自分たちにできること考える、という流れで構成されている。②については、実際に学校のまわりを歩いて見学するという活動も考えられる。教科書では学校周辺にある消防施設を白地図にまとめる (ICT 端末や地図アプリの使用も想定) 例も示されており、児童が空間的な広がりをつかえながら、火災から人々を守るために計画的に配備されている理由について考えられるようにしたい。

◎火事が起きた時、本文「消防指令センターの人の話」写真「県外での合同訓練の様子」消防指令センターについて説明し、消防の活動は、市内にとどまらず、世界の国々や、他の地域にも及ぶことを確認したい。

仙台市消防局消防指令センター
↑教科書では「通信指令室」と表記されています。仙台市では「消防指令センター」と呼んでいます。

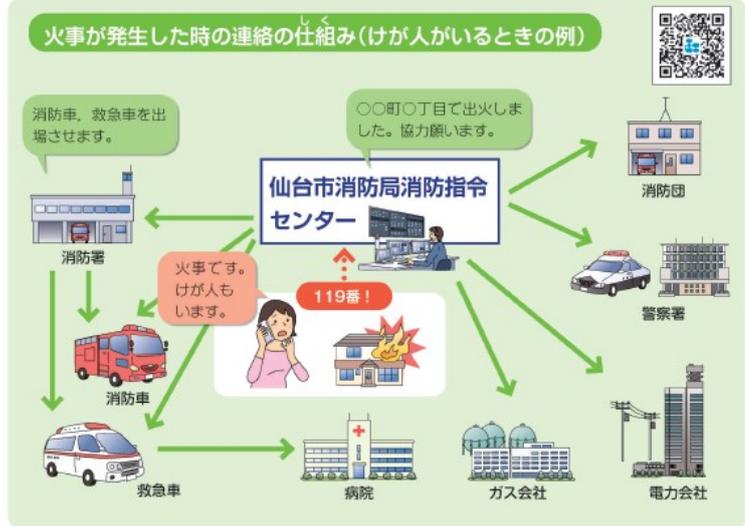


消防の活動は仙台市内だけでなく、世界の国々や日本国内でも起きた大きな地震などの災害にも出場することがあります。※出場とは消防車や救急車、隊員の人などが現場に向かうことです。

本文「消防指令センターの人の話」消防指令センターについて説明し、119番通報があると関連機関と協力して救急体制を取っていることに気づかせる。仙台市だけの活動にとどまらないことに触れる。なお、教科書では「通信指令室」となっているが仙台市消防局では「消防指令センター」と広報しているが役割に違いはない。

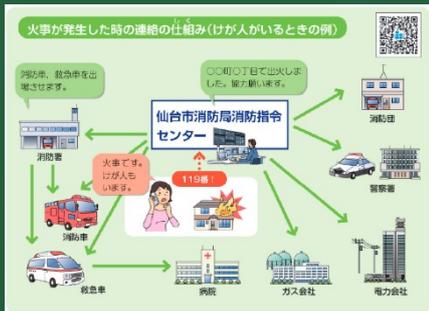


火事や救急の時に119番をかけると、消防指令センターの電話につながります。みなさんから火事や救急の通報を受けた場所にいち早く向かうため、通報のあった場所に一番近い消防車や救急車などを出場させます。また、消防指令センターでは被害の拡大を防ぐため、警察署、病院、電力会社、ガス会社などに連絡します。



めあて

119番に電話をかけると、どこにどのような連絡がいくのでしょうか。



＜どのようにつながっているのか＞

- ・けいさつしょ…
- ・ガス会社と…
- ・病院と…
- ・電力会社と…

＜どんな情報が？＞

まとめ

さまざまな関係機関が… 通信指令室を中心に…
すばやくたいしょできるのは…

資料の活用の仕方

・「消防団について」

普段は別の職業で活躍している人たちが、地域で災害が発生すると消防団員として消火や救助等の活動に当たる仕組みになっている。仙台市の消防団は市内の消防署ごとに設置され、7消防団、56分団、令和6年4月1日現在の消防団員数は、1,786名(女性消防団員141名)であり定員2,344名に対する充足率76.2%となっている。

・資料「仙台Tube」

「教えてセンパイ 消防団」の動画では消防団で働く人の思いを知ることができる。

<https://youtu.be/QDEI NttxhL4>

写真「防災訓練」

各団体に出向き、火災予防に対する指導を行ったり、市民に対する広報活動を充実させたりして、火災を防ぐ取組をしていることを理解する。消防士さんの話を聞いて火災を防ぐ取組についても調べることにしました。

3 暮らしを守る

考えよう

消防署や地域の人は、火災を防ぐためにどんな努力をしているのだろう。



「この前、近所の消防署の回りをしていたよ。」

「他にもどんな活動をして、消防署のほかにも、地

＜住宅用火災警報器について＞

2006年の消防法の改正により、新築住宅への設置が義務付けられた。既存住宅についても、2011年の5月までに設置することが義務付けられている。



消防団の人の話

消防団は、地域に住んでいる人々が中心になってつくられています。普段は自分の仕事をしているのですが、地域のために役に立ちたいという思いで入団しました。

「自分たちのまちは自分で守る」をモットーに、消防署や地域の方々や協力しながら、火災予防を呼びかけたり、消火や応急手当活動、防災などに関する訓練や勉強をしたりしています。

写真「みんなが考えて作った防火ポスター」調べたことや学習したことを基に、自分たちにできる防火の取組を考え発表したり、標語やポスターなどで表現したりする。



本時の評価と指導

知識・技能

- ①ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火災が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」
- ②「消防団の活動の様子について理解しているか」を評価する。

主体的に学習に取り組む態度

- ③ノートや図の記述内容から、「相互の関連や従事する人々の働きや、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために、自分たちにできることなどを考え、表現しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

- ②については、本書P.47の消防団の人の話をもとに、家庭や学校にある消防施設を想起させたりして、安全を守るために地域が連携していることを実感させる。

<p>小单元名 p. 48～51</p>	<p>②事故や事件から くらしを守る</p>	<p>小单元の 目標</p>	<p>事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする。</p>
--------------------------	----------------------------	--------------------	---

つ
か
む

p. 48

◎ 事故や事件から人々を守る。

- ・写真を活用して地域の安全を守るための取組について発表し合い、小单元の学習への関心を高める。
- ・「まもらいだー」の方や地域にある交番の警察官などをゲストティーチャーとして招き、話を聞くという活動も考えられる。

事件や事故が起きてしまったら、どうすればいいのかな？

警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題

事故や事件から私たちの安全を守るために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調
べ
る

p. 49

◎ 事件をふせぐために

- ・事件を防ぐための警察署や地域の人々の取組について調べる。

〈仙台市のあきすの数〉—グラフ—

- ・空き巣の件数が平成27年に比べて減少していることをつかませ、事件を防ぐ取組について調べたり、考えたりする。
- ・自分たちが住んでいる地域にも、「防犯ボランティア」や「こども110番の店」「交通指導隊」など、まちの安全を守るための取組があることを紹介する。

*情報コーナー
宮城県警察本部 221-7171
<http://www.police.pref.miyagi.jp/>

p. 50

◎ 交通事故をふせぐために

〈仙台市の交通事故の数〉—グラフ—

- ・グラフから交通事故の件数やけがなどをした人の数が減ってきていることを読み取りその理由を調べたり、考えたりする。

〈交通管制センターの見学〉

- ・宮城県警察本部内にある施設で、110番を受ける通信司令室に併設しており、併せて見学できるようになっている。

〈交通事故の時の連絡の仕組み〉

- ・前小单元の学習と関連させながら、県警察本部を中心にいろいろな役割を持った人たちが協力して事故を処理していることに気付かせるようにする。

ま
と
め
る

p. 51

◎ 安全に安心してくらしをさせるために

- ・まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを全单元で学習したことを踏まえて考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。



教科書では、事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせるところが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

学習の流れ① (例)

(1) 身近な地域で事故や事件が起こりそうな場所について考え、話し合う

5分

T 学校のまわりや家の近くで、事故や事件が起こりそうだと心配になる場所がありますか。

C 大通りの横断歩道を渡ろうとしたら、車にひかれそうになりました。

C 習い事の帰り道、遅い時間には街灯が少ない所は怖くて通らないようにしています。

事故や事件現場の写真、地域の写真やグラフを見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

(2) 教科書や副読本の写真やグラフを見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 **30分**

C こども 110 番の家は通学路にあります。

C 警察の人はどんな仕事をしているのでしょうか。

C 仙台市のあきすの数は減ってきています。どうして減ってきているのでしょうか。

C 安全を守るために、警察の人が何かをしているのではないのでしょうか。

C 警察の人だけではなく、協力している人が他にもいると思います。

学習問題「事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれがどのような働きをしているのでしょうか。」

(3) 学習計画を立てる。 **10分**

C 警察の人の仕事について詳しく調べていきたいです。

C 消防の仕事や学習した時のようにどこと連携しているか調べたいです。

ねらい (2時間扱い)

①身近な地域の安全について資料を読み取ったり、自分たちの経験をもとに話し合ったりすることを通して、事故や事件から地域の安全を守る働きについて学習問題をつくる。②調べたことをもとに、事件が起きた時に、関係機関がどのように連携しているのかについて理解する。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.104-109 にリンクした内容となっている。教科書では、学習問題をつくる場面で事故現場、事件現場の写真から児童の問いを引き出している。本書 P.48 の地域の写真と関連付けさせながら考えさせたい。また、教科書 P.109 右下二次元バーコードから、「交番のけいさつかんの仕事」という動画にアクセスできる。動画を活用することで、様々な仕事があることやその使命感について考えさせるようにする。また、見学やインタビューが可能な場合でも、調べて分かったことを確認する場面などでも活用した

2 事故や事件からくらしを守る

警察の人は交通整理もしていたよ。



近くてあきすがあった時、警察の人が調べていたよ。



◎事故や事件から人々を守る



写真を基に、自分たちのくらしの周りには、安全を守る人がいることに気がさせる。

「この間、道にまよった時、交番で警察の人に教えてもらったよ。」

「登下校中に、『まもらいだー』の人と会ったよ。」

「コンビニの入口に『子ども 110 番』のかん板があったわ。」

ことねさんたちは、わたしたちのくらしを守るためにたくさんの人がいることに気づきました。

そこでわたしたちのくらしを守るために警察の人たちがどんな仕事をしているのか、調べてみることにしました。

学習問題 事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

めあて

事故や事件現場の写真、地域の写真やグラフを見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

事故現場の
写真
(教科書)

事件現場の
写真
(教科書)

<よそう>

- ・ 交番では…
- ・ 事故や事件の時は…
- ・ 仕事の内容は…

学習問題

事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれがどのような働きをしているのでしょうか。

<学習計画>

- ・ 警察の人の仕事について…
- ・ 地域の人へインタビューを…



資料の活用の仕方

・ グラフ「あきすの数」

空き巣の件数は平成 27 年から、減少傾向にある。事件を防ぐための取組に目を向けさせる

・ 学び方コーナー

算数で学習した棒グラフの読み取りと関連づけて指導する。

宮城県警本部 221-7171

<http://www.police.pref.miyagi.jp/>

泉警察署 375-7171

仙台北警察署 233-7171

仙台中央警察署 222-7171

仙台東警察署 231-7171

仙台南警察署 246-7171

日本道路交通情報センター

050-3369-6666

3 くらしを守る

◎事件を防ぐために

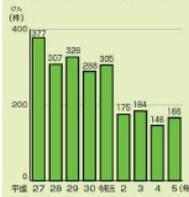
ことねさんたちは、事件が起こらないようにどんな取り組みをしているのか調べました。



グラフ「あきすの数」

空き巣の件数は平成 27 年から、減少傾向にある。事件を防ぐための取組に目を向けさせる。

仙台市のあきすの数



2024(令和6)年宮城県警資料



交番の警察の人の話



まちの人が安心してらせるように、パトロールの時は細かいいところまで気をつけて見えています。それでも事件は起こってしまうのです。ですから少しでも早く現場にかけつけて、解決できるようにみんなで力を合わせていきます。

学び方コーナー

◎ぼうグラフの読み方

(1) 題名を読んで、何のグラフなのかをつかむ。

(2) たてじくよこじ

図「事件の時の連絡の仕組み」

この図を基に、事件に素早く対応するための工夫について気づいたことをまとめます。

事件の時の連絡の仕組み(あきすの例)



本時の評価と指導

① 思考・判断・表現

① ノート等の記述内容や発言内容から、「事故や事件の数の変化やその背景などに着目し、問いをみいだしているか」を評価する。

② 知識・技能

② ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、事件が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。

③ 指導のポイント・留意点

② 実生活の経験の中で、全ての活動(例えば学級活動や児童会活動など)を自分だけでやることの難しさから、協力することのよさや意味を考えられるようにする。

↓ 学習の流れ② (例)

(1) 本時のめあてをつかみ、予想を出し合う。 **5分**

T 学習計画を確認しましょう。
C この時間は地域の人の活動について調べます。

地いきでは、安全を守るために、どのようなことに取り組んでいるのでしょうか。

T 身近な地域の安全を守る施設や人について知っていることを話し合います。

C 登下校の時に、「まもらいだー」の方に出会いました。私たちのことをいつも見守ってくださっています。

C スクールゾーンの標識があったり、道路に線が引いてあったりします。

(2) 地域の安全を守る活動や設備について調べる。 **30分**

T 安全を守るための設備にはどのようなものがありますか。

C 道路標識やガードレール、カーブミラーもその一つだと思います。

C 歩道橋も安全に道路を渡るための設備だと思います。

T 地域の人が安全を守るためにしている活動にはどのようなものがありますか。

C 地域住民同士で情報交換をしています。警察の人だけでなく、お店の人も、地域の人も協力し合っています。

(3) 地域の安全を守るための取り組みについてまとめる **5分**

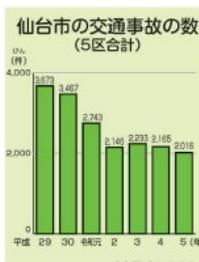
C 安心安全マップをつくるために、地域の方にインタビューをしたことで、こども 110 番の家やお店など、警察と地域の人が協力して安全なまちづくりをしていることが分かりました。

ねらい (3時間扱い)

①調べたことをもとに、事故が起きた時に、関係機関がどのように連携しているかについて理解する。②地域ぐるみで安全なまちづくりに努めていることを理解する。③これまで学習したことをもとに、自分たちのくらしを守るために地域社会の一員として自分たちにできることを考える。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.110-115 にリンクした内容となっている。教科書 P.111 には、「パトロール活動をする堺さんの話」や「けいさつと地いきの人で行う安全会議の様子」の資料が掲載されており、地域の安全を守る人が身近にいることを実感できるような構成となっている。町内会、学校、公共機関、商店街等が互いに協力するしくみをつくっていることに気づけるよう、教科書資料や児童の対話例を参考に、インタビュー活動なども積極的に取り入れたい。

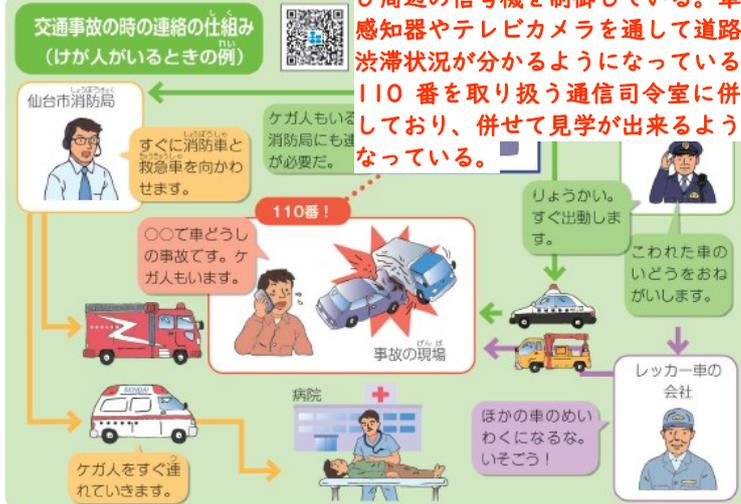


◎交通事故を防ぐために

次にことねさんたちは、事故を防ぐための取り組みを調べることにしました。



そこで宮城県警察交通管制センターを見学し、車がじゅうたいしないように信号の時間を変えることも、事故を防ぐ取組なのだを教えてもらいました。下の図は交通事故が起きた時の連絡の仕組みです。写真「宮城県交通管制センター」宮城県警察本部内にあり、仙台市内及び周辺の信号機を制御している。車両感知器やテレビカメラを通して道路の渋滞状況が分かるようになっている。110番を取り扱う通信司令室に併設しており、併せて見学が出来るようになっている。



めあて

地いきでは、安全を守るために、どのようなことに取り組んでいるのでしょうか。

<知っていること>

- ・まもらいだーの方が…
- ・スクールゾーンでは…
- ・ガードレールが…

<安全マップづくり>

- ・子ども110番の家…
- ・店も安全なまちづくりに…

学区の地図

まとめ

地域の安全を守るために…

子ども110番の家… 店、地域の人とけいさつが…



資料の活用の仕方

・グラフ「交通事故の数」

交通事故の数は減少してきているものの、2000件以上発生していることを読み取り、事故を防ぐ取組が必要なことに気付かせたい。

・図「交通事故の時の連絡の仕組み」

*人身事故のときの対応例

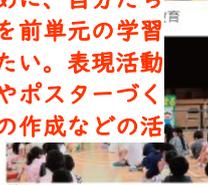
県警察本部を中心とした事故発生時の連絡の仕組み、関係諸機関の協力について図示している。事故に素早く対応するための工夫について気づかせたい。

3 暮らしを守る

◎安全に安心してくらするために

ことねさんたちは、わたしたちが安全に安心してくらする理由を話し合ってみました。

「火事が起きると、消防署の人たちや消防団の人たちが協力して消火活動を」
 「水道局やガス局などとも協力を踏まえて考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの作成などの活動が考えられる。も協力していることを教えてもらったね。」



これからも安全に安心してくらするために自分たちが気をつけること、できることはないか、考えてみましょう。



わたしたちが安全に安心してくらするために、自分たちはどんなことができるかな？

安全安心マップ

安全安心マップのまとめ方

「安全安心マップ」は、実際に学区内を歩いたり、地域の方々にインタビューしたりして、気をつけなければならない場所を調べて、作りました。安全なポイントや危険なポイントに分けてまとめました。



本時の評価と指導

①知識・技能

①ノート等の記述内容や発言内容から、必要な情報を集め、読み取り、「事件が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。②「まちの安全を守る地域の人々の活動について理解しているか」を評価する。

②主体的に学習に取り組む態度

③まとめの記述や発言内容から、「学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。

③指導のポイント・留意点

②…地域に貼られているステッカーを提示し、身近なところにも「子ども110番の家」があることに気づかせたい。

<p>小単元名 p. 52～ 63</p>	<p>市の様子と 人々のくらしの うつりかわり</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。</p>
-------------------------------	-------------------------------------	--------------------	---

つ
か
む

p. 52～53
◎仙台駅前の写真を見比べよう。
◎かわってきた仙台市

- ・仙台駅前の建物や人々の様子について、気付いたことを話し合う。
- ・「戦災復興記念館ガイドボランティアの話」などから昔の様子についてわかったことを話し合う。
- ・昔の仙台市と今の仙台市の広さを見比べ、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。
- ・疑問に思ったことを基にして学習問題をつくり、学習計画を立てる。

事件や事故が起きてしまったら、どうすればいいのかな？

警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題
仙台市の様子は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。

調
べ
る

p. 54～62

- ◎交通のうつりかわり
- ◎土地の使われ方のうつりかわり
- ◎人口のうつりかわり
- ◎公共施設のうつりかわり
- ◎古い道具と今の道具をくらべよう

- ・時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりする。
- ・仙台市や人々の様子を捉え、それらの変化を考え、表現する。

p. 63

◎仙台市のうつりかわりをまとめてみよう

- ・調べたことを時期の区分や時間の経過に沿って一つの年表にまとめる。
- ・まとめた年表を見ながら、調べてきたことを相互に関連付けたり、結びつけたりして都市化や少子高齢化など仙台市全体の時期ごとの変化の傾向を考えさせ、分かったことを話し合う。

ま
と
め
る

p. 51

◎安全に安心してくらするために

- ・まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを全単元で学習したことを踏まえて考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

仙台市のうつりかわり年表の例



- 主体的・対話的な学習を進めるために、教科書に記載されている「まなびのポイント」を活用したい。
- 用語・語句を指導する際、教科書の「ことば」を活用したい。
- 「調べ方」「まとめ方」を活用し、学習の見通しを持たせたい。
- インタビューの仕方、見学の際のルールやマナーを確認させるため、まなび方コーナー「インタビューのしかた」を活用したい。
- 調べたことを年表にまとめる際、まなび方コーナー「年表をつくる」を活用したい。

↓ 学習の流れ① (例)

(1) 仙台駅前の様子について、知っていることを話し合う。 **10分**

T 仙台駅前に出かけたことはありますか。どんな場所ですか。何がありますか。

C 新幹線に乗る時に行ったことがあります。たくさんのお店がありました。
C 私は行ったことはありませんが、テレビで見たことがあります。

駅前のバスプールや大通りはどのように変わってきたのでしょうか。

(2) 仙台駅前のバスプールや大通りの移り変わりについて調べる **25分**

T 3枚の写真を比べて気づいたことを話し合ひましょう。

C 駅の建物の大きさがどんどん大きくなりました。

C 昔は広場だったところが今はバスプールやタクシー乗り場になっています。

T 戦災復興記念館ガイドボランティアさんの話からどのようなことが分かりますか。

C 空襲でまちが焼けてしまいました。
C 人々が市に協力して土地をゆずり、道路を広く整備したそうです。

C 協力して新しいまちづくりをしてきたということが分かります。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 戦争で空襲の被害を受けた1945年から4年後には、仙台駅前は整備されていて、その後もどんどん町の様子が変わってきていることが分かりました。

C 仙台駅のまわり以外はどのように変わってきたのでしょうか。人口や、交通についても調べていきたいです。

ねらい (2時間扱い)

①仙台駅前の様子について、資料をもとに昔と今を比較することで、市の様子や人々の生活の変化を時期による違いに着目して、問いを見いだす。②市の様子の移り変わりについて気づいたことや疑問に思ったことを話し合う活動を通して、学習問題をつくり、学習計画を立てる。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.118-121 にリンクした内容となっており、教科書 P.116-117単元のオリエンテーションの学習内容を終えてから、本ページ内容に入ることを想定している。教科書では、児童がイラストの読み取りを通して市の移り変わりに関心をもっていくことをねらいとしており、市や人々の生活の様子の時期による違いに着目して、単元のめあてである「わたしたちのまちや人々のくらしは、どのようにかわってきたのか調べよう」を設定する流れで構成されている。イラストをじっくり眺めながら、「時間的な見方」を働かせて対話をする時間を大切に位置づけたい。

4 市のうつりかわり

1 市の様子と人々のくらしのうつりかわり



戦争中の仙台空襲で仙台のまちは焼け野原になりました。
まちを復興させようと、道路の近くに住んでいた人々は、市に協力して土地を譲り、道路を広く整備しました。やがて店やビルが建ち、活気が戻りました。仙台が、これからもすてきなまちであるといいと思っています。

p.107の資料編も見てみよう。

仙台駅前のうつりかわり



◎仙台駅前の写真を見くらべよう

ことねさんたちは、仙台駅前の写真を見くらべて、気づいたことを話し合いました。

「時期によって、仙台駅前の様子にちがいがああるね。」
「1学期の単元「市の様子」で学んだことを十分に生かして本単元の学習に「50年つなげたい。1学期に市の様子について見比べ、児童から疑問を引き出して学習問題をつくる。」で仙台駅前の様子について、さんさんがいたよ。」
「仙台駅前はだんだんとにぎやかになってきたのだね。」

ことねさんたちは、1学期にも学んだ仙台市のことについて、もっと深く調べてみることにしました。



戦争後、市のみんなで力を合わせて今のまちができたのね。

めあて

駅前のバスプールや大通りはどのように変わってきたのでしょうか。

<仙台駅前のうつりかわり>



<くらべて気づいたこと>

・道路が… 高い建物が… 昔も今も…

まとめ

仙台市の交通の中心地の近くに仙台市役所があって…
公共しせつはたくさんあり、市民のために…

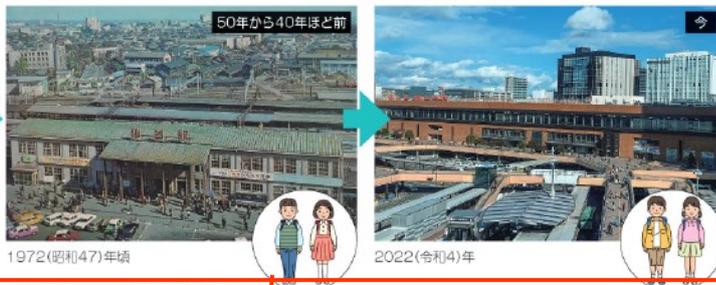
資料の活用の仕方

・「戦災復興記念館ガイドボランティアさんの話」

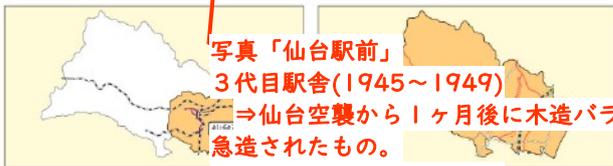
取材日：2019年8月20日

取材に応じてくださった姉妹は、戦争や空襲の恐ろしさ、そして焼け野原になった後の仙台市民のたくましさを語っていた。戦後の人々の協力で、仙台は模範的な戦後復興と言われているとのことであった。

4 市のうつりかわり



◎かわってきた仙台市



「昔の仙台市と、今の仙台市を大時計で親しまれた。」
「市の広がりによって、6代目駅舎(1977～現在)の様子もかわってきたのかな。」
「どんなことに注目したのか。さるといいかな。1学期に市の様子についてまとめた地図を、もう一度見てみよう。」

学習問題
仙台市の様子は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。

ことねさんたちは、これまでに学んだことを生かしながら、仙台市のうつりかわりについて調べることにしました。

調べること

- 交通のうつりかわり
- 土地の使われ方のうつりかわり
- 人口のうつりかわり
- 公共しせつのうつりかわり
- 道具とくらしのうつりかわり

本時の評価と指導

思考・判断・表現

①ノート等の記述内容や発言内容から、「交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見いだしているか」を評する。

主体的に学習に取り組む態度

②学習計画表の記述内容や発言内容方、「市の様子の変り変わりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっていか」を評価する。

指導のポイント・留意点

①について、仙台駅前の移り変わりの様子を、「建物」「道路」「人の数」などの観点を示すことで、まちが移り変わった様子をつかませたい。

↓ 学習の流れ (例)

(1) 資料を比べて、気づいたことを話し合う。15分

T 年代ごとの地図を比べて、どんなことが分かりましたか。

C 仙台駅は 130 年ほど前からあることが分かりました。

C P.115 の年表も見てみると、東北自動車道が仙台まで開通したのは 1975 年ということが分かりました。

市の交通は、時間の流れとともに、どのようにかわってきたのでしょうか。

(2) 道路や鉄道が整備されてくらはどのように変わってきたのか、話し合う。20分

T 時間とともに、交通はどのように変わってきたのでしょうか。

C どんどん新しい道路や鉄道ができて、広がってきました。

C 交通の広がりや仙台市が広がったことと関係があるのではないのでしょうか。

T 道路や鉄道ができたことで、仙台市はどのように変わったのでしょうか。

C 交通の便がよくなって、人が住める場所も増えたのではないのでしょうか。

C 仙台市電は廃止されてしまったけれど、その分車が多くなって新しい道路がどんどんできたから、たくさんの人が行き来できるようになったのではないのでしょうか。

(3) 本時のまとめをする。10分

C 昔から今までに道路や鉄道がたくさんできたことで、人々の生活は変わってきたのだと思います。

C 人口は仙台市の広がりとともに増えてきたのではないのでしょうか。

本時のねらい

地図や写真などの資料を比較して調べ、市の交通の様子は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解する。

✿ 教科書と合わせた活用のポイント ✿

教科書 P.124-125 にリンクした内容となっている。交通網が発達すると生活が便利になることを捉えられるよう、地図資料が年代順に配置されている。教科書では、神戸市や姫路市の位置から、明石市の交通が東西に伸びている理由を考えさせ、空間軸でも比較できるようになっている。また、教科書 P.125 右下二次元バーコードから単元を通して書き足していくことができるワークシートの例にアクセスできる。こちらも参考にしたい。



ヒント

年代や時代区分の表し方

◆年号(元号)
明治、大正、昭和、平成、令和

◆西暦
2022年

◆時代
鎌倉時代、室町時代

仙台市の鉄道や道路

学習指導要領には内容の取り扱いにおいて「時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げること」とある。教科書の「ことば」を活用して学ばせたい。ほぼ前までしてきたもの
東北本線、仙石線、仙山線、市電、市営バス

明治(1868~1912年) 大正(1912~1926年)



◎交通のうつりかわり

「今から 130 年ほど前の 1887(明治 20)年に、仙台駅ができたそうです。」

「鉄道・本文「交通のうつりかわり」
ところ 3つの地図を見比べ、仙台の交通の発展について考えさせる。新しい道路や新幹線、地下鉄などはどのように整備されてきたか調べさせたい。また鉄道という用語については、教科書 P.125 を活用し、内容をおさえた。昭和 1 年半からは、大きな道路がせいびされ始めたんだね。新しい道路や高速道路ができて、車で遠くまで行きやすくなったね。」

「1971 (昭和 46) 年には仙台港が開港しました。大きな船も仙台市へ来られるようになり、ものづくりがよりさかんになっていったそうです。」

大きな道路や鉄道などはいつごろできたか、p.114 の年表で調べてみることにしました。



めあて

市の交通は、時間の流れとともに、どのようにかわってきたのでしょうか。



<気づいたこと>

- ・昔は道路は…
- ・駅数が…
- ・交通の広がりや仙台市の広さ…

まとめ

仙台市の道路や鉄道は計画的に…
人々の生活はそれにもなって…

4 市のうつりかわり



50年から40年ほど前までにできたもの
国道4号バイパス、
仙台港、東北自動車道

40年から30年ほど前までにできたもの
東北新幹線、国道48号、
地下鉄南北線

30年ほど前から今までにできたもの
仙石線あおば通駅、
仙台東部道路・南部道路、
仙台空港アクセス線、地下鉄東西線

本時の評価と指導

知識・技能

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の交通の様子は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

資料を読み取る際に、「鉄道の路線の数はどうなっているか」などの視点を明示することで、資料を比較して読み取ることができるようになる。

「1982（昭和57）年には東北新幹線が開通して、東京などの大きな都市へはやく行けるよう

交通手段が増えたことにより、人々の生活がどのように変化したかを考えさせたい。P57以降で国際化についても扱うので、国外とのつながりについても気づかせたい。そして、交通が便利になった仙台市全体の変化についても意識させ、次の「土地利用の変化」や「人口の変化」へとつなげたい。

「仙台市の暮らしをもっとよくするために、2015（平成27）年には地下鉄東西線もできたんだ。」

「交通が便利になって、田んぼや家の広がりもかわってきたのかな。」



交通手段が増えるにつれて、仙台市はどのようにかわっていったのだろう。



東北新幹線の試乗会の様子(仙台駅)



地下鉄南北線(台原駅)の工事の様子



仙台空港アクセス線



↓ 学習の流れ (例)

(1) 資料を比べて、気づいたことを話し合う。15分

T それぞれの地図からどのようなことが分かりますか。

C 80年から70年ほど前は仙台市の範囲も今ほど広くなく、田や畑が多い様子です。

C 50年から40年ほど前に家や店が増えてきました。

C 道路や鉄道が増えた時期とやはり関連がありそうですね。

市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。

(2) 土地の使われ方の変化によって、生活にどのような影響があったのか、話し合う。20分

T 土地の使われ方で、増えたり減ったりしているものは何ですか。

C 家や店、工場が増えています。

C 田や畑は減っているようですが、仙台市の広さが大きくなり、森林は西の方にたくさん広がっています。

T 土地の使われ方が変わったことで生活はどのように変わったと思いますか。

C 人口が増えたことで、団地が作られました。

C 道路や鉄道ができたからこそ、便利になって多くの人住めるようになったのではないのでしょうか。

(3) 本時のまとめをする 10分

C 仙台市は、昔は田や畑が多かったけど、埋め立て地や団地ができるなど、土地の使われ方は大きく変わってきました。

本時のねらい

地図や写真などの資料を比較して調べ、市の土地の使われ方は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解する

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書 P.126-127 にリンクした内容となっている。教科書では、人口や交通の変化と土地利用を関連して考えるようになっている。「およそ50年前」に着目すると、「人口が20万人をこえる」という事実は「山陽新幹線の開通」そして「明舞団地の建設」とつながっていることに気づくことができるよう構成されている。教科書の紙面構成が、P.120-129まで、上段は同尺の地図が配置されているのも、ページを行ったり来たりしながら児童が比較して考えることができるようになっているためである。



考えよう
昔と今の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのだろう。



岩井区伊在2丁目付近(1955(昭和30)年)。現在は店や住宅前となっている。



開発が始まった泉パークタウン(1969(昭和44)年)



◎土地の使われ方のうつりかわり

「仙台市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのかな。」

「昔の仙台市は、田んぼや畑が多かったんだね。」

「昔にくらべて家や店の多いところが、どんどん広がっているね。」

「50年から40年ほど前に、家や店がふえてきたんだね。」



仙台市役所の人の話

昭和30年代から昭和50年代に、仙台市はたくさんの団地が作られました。田や畑だったところが、今は住たく地になっています。また、1971(昭和46)年には仙台港が開港し、大きな工場や市民が利用する公園ができました。

めあて

市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。



<気づいたこと>

・昔は家や店が… 西の方には森林が… 工場や家や店の…

まとめ

昔は田や畑が… うめたて地や団地が…
土地の使われ方は…

4 市のうつりかわり



「砂浜をほり進んだり、ひがた^{*}をうめ立てたりして、仙台港をつくったんだね。」

「主な道路や高速道路、仙台港の近くに工場が建てられたことも分かります。」

「森林や田畑だったところに、いろいろな建物が建てられたんだね。」

「家や店の多いところが広がったことで、仙台市に住む人もふえていったのかな。」

ことねさんたちは、仙台市の人口がどのようにかわってきたのが調べることにしました。

^{*}ひがた…海の高が引いたときにあらわれる塩水の道



家や店がふえたこと、人口の変化についても調べよう。

交通網の広がりや、工場の立地を関連付けさせたい。仙台港の建設とも関連させ、計画的に土地の使われ方が変わってきたことに気づかせたい。



資料の活用の仕方

・市役所の人の話

昭和30年代から昭和50年代に、たくさんの団地が作られたことと、田や畑が減ったことを関連づけさせたい。また、次時の人口が増えたことにもつなげたい

・地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

昔、中心部以外の山林や農地が多かった場所が、現在は住宅地に変わっていることなど、市全体を見渡して違いを捉えるようにすることも大切である。

・地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

3つの地図を見比べ、土地の使われ方の変化について考えさせる。泉パークタウンなどの住宅開発や、卸町、扇町周辺の工業団地建設など、大きく変わった仙台市の土地利用の様子について調べさせたい。

本時の評価と指導

⑧知識・技能⑧

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の土地の使われ方は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

⑧指導のポイント・留意点⑧

資料を読み取る際に、家や店の広がりや森林の広がりと比較させるなど、視点を明確に示すようにする。

↓ 学習の流れ

(1) 資料を読み取り、気づいたことや疑問に思ったことを話し合う。10分

T「仙台市の人口のうつりかわり」のグラフを見て、どんなことに気づきましたか。また疑問に思ったことはありますか。

C市の人口は仙台市が誕生してから増えてきています。

C人口が大きく増えている時期があるのはどうしてでしょうか。

市の人口は、どのようにかわってきたのでしょうか。

(2) 資料から、人口が増えた理由について考えたことを話し合う。40分

T人口がどのように変わったか、仙台市域の移り変わりの資料と合わせて考えましょう。

C仙台市はまわりの町や村と一つになって市域が広がっていきました。

Cそれにもなって人口も増えているように思います。

C人口の増加と土地の広がりには関係がありそうです。

C最初の仙台市と比べて今の広さは45倍にも広がっているそうです。

T最近の住んでいる人の年齢等について、どんな特徴がありますか。

Cお年寄りの数の割合がどんどん増えていて、外国人の数も増えています。

Cどうして仙台市に住む外国人の数がふえているのでしょうか。

(3) 本時のまとめをする。5分

C交通の発達や土地の広がりとともに、人口が増えてきています。

C最近ではお年寄りの数や、仙台市に住む外国の人が増えている理由についてさらに調べてみたいです。

本時のねらい

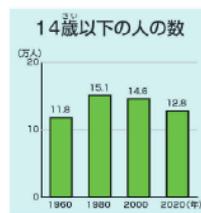
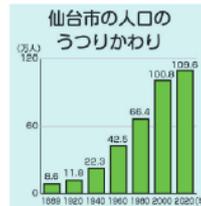
地図やグラフを比較して調べ、市の人口は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解する

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書P.122-123にリンクした内容となっている。教科書では、学習問題を設定した次の時間に、人口の移り変わりについて調べる学習の流れになっているが、本書では、交通の広がりや土地の使われ方の変化を根拠に、人口の増加を捉えられるような構成になっている。これは、本書P.58「仙台市役所の人の話」にあるように、仙台市が誕生した1889年の頃から今の仙台市の形になるまで、市域自体が45倍にも広がっているという事実を踏まえて、①交通の広がり②土地の使われ方③人口の移り変わり、とつながりを踏まえて段階的に理解できるようにしているためである。



考えよう
市の人口は、どのようにかわってきたのだろう。



◎人口のうつりかわり
ことねさん「1956年 生田村を編入
1987年 宮城町(愛子、作並、吉成、見て、話し合 栗生など)を編入
「グラフを」1988年 泉市、秋保町を編入
していることがわかるよ。」
1989年 政令指定都市となり、5つの行政区が設置される。
「1940(昭和15)年~2000(平成12)年の間に、人口が大きくふえているね。どうしてふえたのだろう。」
ことねさんたちは、仙台市の市域の広がりについて調べることにしました。

仙台市役所の人の話
1889(明治22)年に仙台が市になったとき、人口はおよそ8万6千人でした。
今では人口はおよそ13倍になり、109万5千人です。市域は、泉市、宮城町、秋保町など、まわりの町や村といっしょになり、今の仙台市の形になりました。最初の仙台市とくらべると、今の広さはおよそ45倍です。
※令和7年1月1日現在

めあて

市の人口は、どのようにかわってきたのでしょうか。



<気づいたこと>

- ・人口は年々…
- ・仙台市域は…
- ・65歳以上の人は…
- ・外国の人が…

まとめ

仙台市の人口は… 土地の広がり交通の発達と…
最近では…



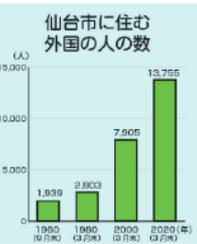
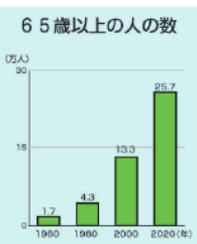
4 市のうっぴりかわり



「仙台市はまわりの町や村と一つになっていったんだね。」
 「家や店がふえたこともあって、人口が大きくなったんだ。」
 「2011(平成23)年に東日本大震災がおこったことで、住む場所をかえた人も多いのかな。」
 「最近、外国の人も仙台市にたくさん住むようになってきたんだね。」
 「お年寄りの数はふえているね。少子高齢化という言葉聞いたことがあるよ。」



みんなが住みやすいまちにするためにつくられている、公共施設について調べてみましょう。



グラフ出典/仙台市統計書より



資料の活用の仕方

・人口のグラフ(仙台市の人口)

人口の時期による違いに着目し、現在に至るまでに変化してきた仙台市の人口について調べさせる。その際、市町村の合併による仙台市の広がりなどにも触れることも大切である。

・人口のグラフ(14歳以下、65歳以上)

棒グラフを活用し、少子化や高齢化が進んでいることにも気づかせたい。

・人口のグラフ(外国人住民の人口)

人口の変化を取り上げる際、外国人居住者が増え、国際化が進んでいることなどにも気づかせたい。

本時の評価と指導

知識・技能

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の人口は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

棒グラフや地図を提示する際、読み取らせたい部分を焦点化して示すなど、丁寧に指導することが大切である。

↓ 学習の流れ

(1) 資料を比べて、気づいたことを話し合う。15分

T それぞれの地図から分かったことは何ですか。

C 昔に比べて学校の数が増えています。

C 図書館や博物館等の公共施設も増えてきていることが分かります。

市の主な公共しせつは、どのようにかわってきたのでしょうか。

(2) 様々な公共施設が、いつごろどのようにできたのか話し合う。20分

T 公共施設はいつごろどのようにつくられたのか調べてみましょう。

C 仙台市民図書館は1962年に西公園に開館したそうです。

C 仙台市域が広がるにつれて、図書館、博物館等様々な施設がつくられてきました。

C 市民センターには、市民が集まる交流の場として役立っているそうです。

C 公共施設は、みんなから集められた税金をもとにつくられています。

(3) 本時のまとめをする 5分

C 私たちが住んでいる仙台市には素敵な場所がたくさんあることが分かりました。工場や畑・田んぼも多いことから、仙台市にはどんな「作る仕事」があるのか調べていきたいです。

(4) これまでの時間で調べてきたことを振り返る 10分

C 1950年時点、1980年時点と時期によってまちの様子が変わってきたことが分かります。

C まちの様子が変わっているということは、くらしの中で使う道具は、どのように変わっているのでしょうか。

本時のねらい

地図や写真などの資料を比較して調べ、市の公共施設は税金をもとに計画的につくられてきたことを理解する。

✿教科書と合わせた活用のポイント✿

教科書P.128-129にリンクした内容となっている。教科書では、人口や交通の変化と公共施設を関連させて考えることができるように、「およそ50年前」に着目し、「人口が20万人をこえる」という事実は、「道路が整備される」こと、そして「小学校が増える」というつながりに気づくことができるよう構成されている。また、「あかし市民図書館の鳥澤さんの話」から、図書館などの市民が使う施設は税金をもとにつくられていることが説明されており、大事なキーワードとしてもしっかりおさえない。



考えよう
公共しせつは、どのようにかわってきたのだろう。

◎公共しせつのうつりかわり
地図・本文「公共しせつのうつりかわり」
「1929(昭和4)年、仙台市役所が新しく建てられたんだね。」
3つの地図を見比べ、公共施設の変化について考える。どのような公られているね。公共施設が建てられてきたか、自分たちの学校や近くの図書館、市民センターなどの公共施設が建設された頃と、現在の仙台市の様子について



仙台調べる。の館長さんの話
仙台市民図書館は1962(昭和37)年、西公園に開館しました。2001(平成13)年に開館した公共施設「せんだいメディアテーク」に移転し、とてもべんりて使いやすくなりました。赤ちゃんからお年寄りまで、全ての市民が、本のある生活を楽しめるように努力しています。調べたいことがあったら、図書館のカウンターで相談できますよ。
図書館など、市民のみなさんが使うしせつは、みなさんから集めた税金をもとにつくられており、市民がより生活しやすくするために利用されています。

めあて

市の主な公共施設は、どのようにかわってきたのでしょうか。



<気づいたこと>

・昔に比べて公共施設は… ・みんなから集めた税金で…

まとめ

公共施設（市立学校や…） 計画的に…
税金を使って…

4 市のうつりかわり



「ほかに、どんなしせつがあるのかな。」

「図書館や市民センターは、人が集まる交流の場として役立っているね。」

「この前、天文台に行ってきたよ。楽しかったな。」

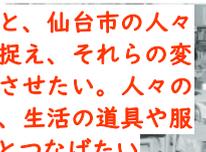
「仙台市の学校の数も昔にくらべて減っているんだね。」

「仙台のまちは発展してきた。」

「ほかに変わったことはあるかな。」

「人々が使っていた道具や生活の様子はどうか変わったのが調べてみよう。」

仙台市のうつりかわりについては、p.114からp.116に年表があります。さらにくわしく調べてみましょう。



仙台市青葉区中央市民センター



資料の活用の仕方

・昔の公共施設の写真

公共施設については、学習指導要領解説 P.46 に「学校、図書館、公民館、資料館などが考えられる」とある。仙台市内の公共施設については、本書 P92～の「仙台市内にあるいろいろな施設」も参照する。

・仙台市民図書館の館長さんの話

学習指導要領解説 P.47 に、「公共施設との関連を図り」とある。実際に市民センターや市役所、図書館へ行って見学したり、職員にインタビューしたりすることなども考えられる。その際、公共施設の建設や運営には市役所が関わってきたことや、その建設や運営には租税が重要な役割を果たしていることにも触れることが大切である。

本時の評価と指導

②知識・技能②

ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の公共施設は時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

②指導のポイント・留意点②

資料を読み取る際に、学校の数はどうなっているか、新たに増えた公共施設はないかなど、視点を明確に示すようにする。

↓ 学習の流れ③④(例)

(1) 学習問題を確認し、本時のめあてを確認する。 **5分**

C 毎時間ワークシートに書き足してきたので、今日は年表にまとめる時間ですね。

市のうつりかわりについて調べてきたことを、年表にまとめましょう。

(2) 学習してきたことをもとに、市の移り変わりを年表にまとめる。 **45分**
T 時期の区分を、「100年から80年ほど前」「60年から40年ほど前」「今」の3つの時期に分けて、調べたことを項目ごとに整理しましょう。

(3) 年表を見ながら、時期ごとの変化についてわかったことを話し合う。

30分

T それぞれの時期に、どのような変化がありましたか。

C 100年から80年ほど前は、田畑が多く、人口も30万人ほどでした。

C 60年から40年ほど前は、大きな道路ができ、人口も増え、学校などの公共施設も増えました。

C 人口が増える時期と交通の発達は関係しています。

C 道具はどんどん便利になってきたことが分かります。

(4) 学習問題に対するまとめを考える。 **10分**

T 話し合ったことをもとに、まとめを書きましょう。

C 市や人々の生活の様子は、交通の発達、公共施設の建設、土地利用と人口の変化、生活で使う道具の改良など、時間の経過にもなって、移り変わってきており、それぞれに関わりがあることが分かりました。

ねらい(4時間扱い)

①②生活の道具について調べたことを年表に書き加えることを通して、道具は時間の経過にもない、移り変わってきており、人々の生活も変化したことを理解する。③④学習したことをもとに、市の移り変わりを年表にまとめ、時期ごとの変化を相互に関連づけたり、市の様子と人々の生活の変化を結びつけたりして、市や人々の様子の変化を考える。

✳教科書と合わせた活用のポイント✳

教科書 P.130-133 にリンクした内容となっている。昔の道具について教科書では、地域の博物館へ見学に行き調べて調べる活動が例示されている。仙台市にも「[仙台市歴史民俗資料館](#)」があるため、学校の実態に応じて活用したい。また、市の移り変わりを年表にまとめたことを話し合う活動では、2時間を想定して授業デザインが例示されている。1時間毎に調べて分かったことを蓄積してきた年表を用いて、時期ごとの変化を相互に関連付けて対話を深める時間を大切に位置付けたい。



考えよう

くらしの中の道具は、どのようにかわってきたのだろう。

◎古い道具と今の道具をくらべてみよう

「くらしの中の道具がどのように変わってきたのかを知るために、仙台市歴史民俗資料館に行ってきました。」



仙台市歴史民俗資料館の館長さんの話

仙台市歴史民俗資料館 大きく三つのテーマ別資料館がある。
・「農村の暮らし」
・「町場の暮らし」
・「旧陸軍歩兵第四連隊コーナー」
他に体験学習室なども常設している。

「体験できるもの」

折り紙、双六、チャカポコ、お手玉、けん玉などの伝承遊び

「事前に連絡しておくことで可能な体験」

・石臼による粉ひき体験 ・行灯(あんどん)

①昔の道具を見る。また、使い方をじっさいに体験する。
②昔の道具が使われていたころの生活の様子を調べる。

仙台市歴史民俗資料館(宮城野区)



仙台市歴史民俗資料館は、木造の洋風建築としては宮城県で一番古い建物^{※1}で、昔は兵舎^{※2}として使われていました。今は昔のくらしや仕事の道具などが展示されています。

※1 1874(明治7)年
※2 兵舎

資料の活用の仕方

・写真・本文「古い道具と今の道具を比べてみよう」

生活の道具については、学習指導要領解説には「炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げること」とある。ここでは、仙台市歴史民俗資料館の館長さんの話から関連付けて、暖を取る道具等を取り上げた。教科書では、「部屋のあかりのうつりかわり」について載っているので参照したい。

めあて

市のうつりかわりについて調べてきたことを、年表にまとめよう。

	100年から80年ほど前	60年から40年ほど前	今
交通	・鉄道が開通した。 ・市電が走った。 ・市営バスが走った。	・大きな道路ができた。 ・高速道路や新幹線が通った。 ・地下鉄ができた。	・大きな道路や鉄道、地下鉄がさらに広がり、便利になった。
土地の使われ方	・田や畑が多かった。	・家や店が多くなった。 ・大きな道路沿いや港に、工場ができた。	・家や店がさらに広がっている。
人口	・人口が30万人をこえた。 ・空しゅうで町がやけ、多くの人がなくなった。	・人口がふえ、50万人をこえた。	・お年寄りの数がふえた。 ・外国の人がたくさん住むようになった。
公共施設	・小学校	・学校がふえた。	・市立病院や天文台などいろいろな公共施設がふえた。
くらしの道具	・手づくりのものが多く、火を使わず、生活に使う道具もかんたんなものが多かった。	・石炭や電氣を使った道具がふえた。	・まわりの町や村がいつしよになって、今の仙台市の形になった。
気が付いたこと	このころに、至る所が田や畑が多かった。	・新鮮な野菜やくだものが出回りやすくなった。 ・公共施設がつくられ、くらしが便利になった。	・まわりの町や村がいつしよになって、今の仙台市の形になった。

<年表から分かったこと>

- ・交通が発達してきたことと人口の増加は…
- ・くらしの道具は…
- ・仙台市域が広がるにつれて…

まとめ

市や人々の生活の様子は…

4 市のうつりかわり

◎仙台市のうつりかわりをまとめてみよう

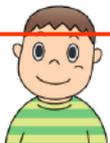
	100年から80年ほど前	60年から40年ほど前	今
交通	・鉄道が開通した。 ・市電が走った。 ・市営バスが走った。	・大きな道路ができた。 ・高速道路や新幹線が通った。 ・地下鉄ができた。	・大きな道路や鉄道、地下鉄がさらに広がり、便利になった。
土地の使われ方	・田や畑が多かった。	・家や店が多くなった。 ・大きな道路沿いや港に、工場ができた。	・家や店がさらに広がっている。
人口	・人口が30万人をこえた。 ・空しゅうで町がやけ、多くの人がなくなった。	・人口がふえ、50万人をこえた。	・お年寄りの数がふえた。 ・外国の人がたくさん住むようになった。
公共施設	・小学校	・学校がふえた。	・市立病院や天文台などいろいろな公共施設がふえた。
気が付いたこと	・田や畑が多く、生活に使う道具もかんたんなものが多かった。	・新鮮な野菜やくだものが出回りやすくなった。 ・公共施設がつくられ、くらしが便利になった。	・まわりの町や村がいつしよになって、今の仙台市の形になった。

表「仙台市のうつりかわりをまとめてみよう」
時期の区分や時間の経過に沿って、調べたことを年表などにまとめる技能を身につけさせたい。そして、出来上がった年表を基に、それぞれの項目を相互に関連づけ、気づいたことや変化の傾向を文章で記述することも考えられる。

◎これからの仙台市について考えてみよう

学習したことを振り返りながら、仙台市がこれからの発展のためにどのような取り組みをしているのか調べてみましょう。

仙台観光国際協会では、留学生や外国人住民が安心して過ごせるように情報を発信したり通訳をはけんしたりしています。



本文「これからの仙台市について考えてみよう」パンフレットなどの資料を基に、これからの仙台市の発展に関心を持たせ、仙台市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには仙台市民としてどのように行動していけばよいかなど、仙台市の将来について考えたり話し合ったりしよう。



本時の評価と指導

◎知識・技能◎

①②ノート等の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生活の道具は時間の経過にともない、移り変わってきており、人々の生活も変化してきたことを理解しているか」を評価する。

◎主体的に学習に取り組む態度◎

③④ノート、年表の記述内容等から、「学習したことをもとに、人口や土地利用、交通や公共施設、生活の道具が変わったことを相互に関連づけたり、市の様子の変化を結びつけたりして、市や人々の様子の変化を考え、表現しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

③④…同時期に起きた出来事の因果関係を考えさせたり、人々のくらしへの影響を考えさせたりすることで、関連づけて考えられるようにする。

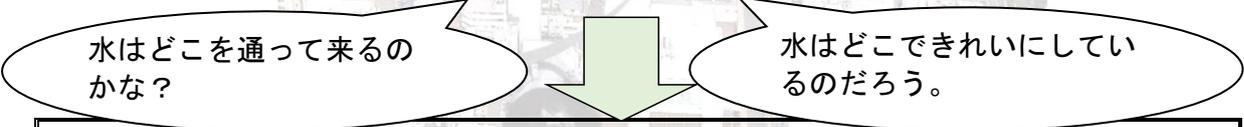
<p>小単元名 p. 64～71</p>	<p>①選択A くらしをささえる 水</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。</p>
--------------------------	--------------------------------	--------------------	---

つかむ

p. 64～65

◎ 生活の中で使われる水 ◎ 水はどこから送られてくるのだろう

- ・「家や学校、町の中ではどこで水を使っているのかな」と問い、身近な生活に目を向けさせる。
- ・蛇口から出てくる水はどこからやってくるのかを考えさせる。
- ・生活の中でいつでも安心して水が使えることに注目させ、わたしたちのもとに届くまでにどんな工夫がされているのか予想させる。



学習問題
わたしたちが使う水は、どこでどのようにきれいにされ、送られてくるのでしょうか。

調べる

p. 66～67

◎ じょう水場の仕組み ◎ 安全できれいな水をつくる

- ・浄水場の仕組みの概要について理解する。
- ・ ※見学に行けない場合は二次元バーコードの動画で見ることができる。
- ・ 安全な水を届けるための人々の努力や工夫を理解する。

p. 68～70

◎ どうして水はなくなるのだろうか ◎ 水源を守るために

- ◎ 水はどのようにじゅんかんしているのだろう
- ・ ダムの役割について理解する。 ※二次元バーコードで水道施設の確認
- ・ 水源涵養林の役割を理解する。

まとめる

p. 71

◎ 水の流れをまとめよう ◎ 水を大切に使うために

- ・ 水はどのように循環しているか、関係図を通して理解する。
- ・ 学習してきたことを関連付け、水の流れを自分の言葉でまとめる。
- ・ 水を大切に使うための取組について調べ、自分の行動に生かせるようにする。

教科書の活用

- 安心して水が使えるようにするための仕組みを調べることで、その大切さや関わっている人々の努力や工夫に気付かせることができる。
- 昔は水をどのように得ていたかなど、水道の歴史を学ぶことができる。
- 事例を通して、水と自分たちとのかかわり方を学ぶことができる。

学習の流れ① (例)

(1) 生活の中で水を使う場面について話し合う **15分**

C プールや使い終わった食器を家で洗う時に使っています。

C 農家や工場でもたくさん使っていました。消防署も火を消す時に使っていました。

T もし水が使えなくなったらどのようなことが起こりますか。

C 毎日当たり前のようにしていることができなくなります。お風呂に入れません。料理もできません。

わたしたちは、毎日どのくらいの水を使っているのでしょうか。

(2) 仙台市の水の使用量や水道検針票から資源としての水の大切さについて考える。 **25分**

T 仙台市で使われる水の割合や家庭で使われる水の割合を示すグラフからどんなことが読み取れますか。

C 一人1日220Lも使っているなんてとても驚きました。

C 仙台市全体でも家庭で使われている水の割合はとても大きいことが分かります。

T いつも使っている水について疑問に思うことはどんなことですか。

C こんなにもたくさんの水はどこから送られてくるのでしょうか。

(3) 本時のまとめと次時の見通しを持つ **10分**

C 水は生活や産業など様々なところで使われている大切な資源だということが分かりました。

T 次の時間は、水がどこからどのように送られてくるのかを考え学習問題をつくりましょう。

ねらい (2時間扱い)

①水は、生活や産業等いろいろな場面で使われている大切な資源であることを理解する。②蛇口から出る水がどこから来るのかを調べることを通して、きれいな水に変わることに関心を持ち、学習問題を作り学習計画を立てる。

教科書活用のポイント

教科書 P.32-33 単元のオリエンテーションを実施した後の、教科書 P.34-37 とリンクした内容になっている。単元のオリエンテーションでは、水道だけでなく、ごみしより、電気、ガス等、住みよいくらしをささえている仕組みや人々の働きについて児童の問いをたくさん引き出したい。その上で単元のめあてを設定する。学習指導要領解説 P.53「安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすること」とあるように、生活を支える事業と自分とのつながりに気付くことができるようにし関心を高めた上で「暮らしを支える水」の学習に入りたい。

5 住みよいくらしをつくる

1 選択A

暮らしをささえる水

考えよう
水は、どのように使われているのだろう。

◎生活の中で使われる水

ことねさんたちは、暮らしの中で水がどのように使われているか、話し合いました。

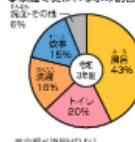


「学校や家、公園などいろいろな場所で使っているね。」
「家や学校、町の中ではどこで水を使っているのかな」と問い、身近な生活との関連に気づけるようにする。水を使っているのかについて、調べました。

計量	区分	標準	検針	検針
0	1234567	000	0000	01

先生の家に届いた検針票(使われた使用水量や水料金等が記載されているお知らせ)

●家庭で使われる水の割合



東京都水道局「水」
【竹尾2号第一家庭用水検針票】
大野田区



「家庭でもさまざまな場面で使っていて、生活にとって欠かせないものだということが分かるね。」
「たくさん水を使ってもなくなるのかな。」
「検針票を見ると、水を使うのにもお金がかかっていることが分かるね。」
「じゃ口から出る水は、どこから来るのか調べたいな。」

めあて

わたしたちは、毎日どのくらいの水を使っているのでしょうか。



- ・学校のプールや手洗いに…
- ・農業や工業で…
- ・消火活動で…

水道と使用料等のお知らせ	
水回し番号	00000001
料金	基本料金 1,000円
使用料	100円
合計	1,100円

まとめ

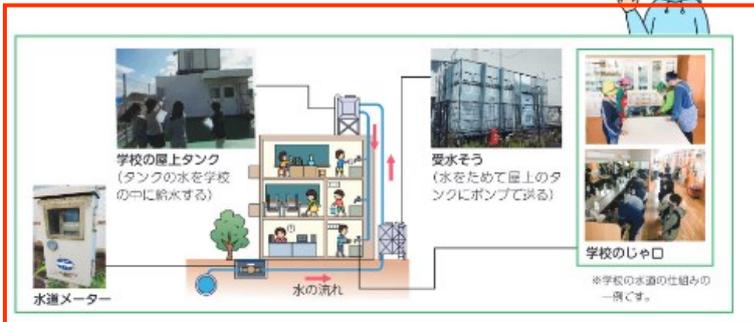
水は、生活や産業のいろいろな場面で…
大切なしげんであり… たくさんの水を…

5 住みよいくらしをつくる

◎水はどこから送られてくるのだろう

ことねさんたちは、水がどこから送られてくるかを調べるために、学校にあるじゃ口から水道管をたどってみました。

じっさいに学校の施設を見よう。



「学校では水道管の水が受水そうにためられて、屋上のタンクからじゃ口へ蛇口からの流れだよ。」
「水道管の水はどこから学校へ送られているか、写真を活用して理解する。蛇口や水道メーター等については、自分の学校の写真を準備したり、実際に見に行く活動をしたりすることで学習の意欲向上につなげるようにしたい。」



学習問題 わたしたちが使う水は、どこでどのようにきれいにされ、送られてくるのでしょうか。

「じょう水場に何かひみつがあると思う。」
「ダムは何のためにあるのか調べたいな。」
ことねさんたちは学習問題について予想を立てて、じょう水場やダムについて調べることになりました。

資料の活用の仕方

・写真資料「先生の家へ届いた検針票」

使用料と使用料金に着目させる。普段はあまり意識せず使用しているが、水の使用にはお金がかかっていることについて改めて知ること、その理由について考えさせたい。

・円グラフ「仙台市で使われる水の割合」

最も使用される量が多いのは家庭での使用であることをおさえ、改めて生活に欠かせないものであることを実感させたい。加えて、これだけのたくさんの量の水をどこからどのように送られているのかについて問いを持たせることで、学習問題へとつなげていきたい。

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

①ノート等の記述内容から、「飲料水の使用と供給の現状について理解しているか」を評価する。

◎主体的に学習に取り組む態度◎

②発言内容や学習計画の記述から、「飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

普段の生活との密接な関連に気づかせるようにし、水の必要性に気づくことが出来るようにする。

水道水の経路や、関わりのある施設・設備、人の働きについて疑問をもてるようにする。

学習の流れ⑤ (例)

(1) 仙台市の水道の移り変わりについて疑問をもち、めあてをつかむ **10分**

T 仙台市で水道の供給が始まったのはいつでしょう。

C 1923年です。

C 今から約100年前です！

じょう水場ができる前は、どのようにして水を手に入っていたのでしょうか。

(2) 「仙台市の水道のあゆみ」や仙台市水道局のHPを調べて、計画的に改善が進められたことについて話し合う。 **25分**

T 年表や写真資料、本文から、仙台市の水道の広がりや歴史を調べ、話し合いましょう。

C 四谷用水から昔は生活用水を取り入れていたことが分かります。

C コレラという病気が流行ったことと水道への要望が高まったこととはどう関係しているのでしょうか。

C 長い年月をかけて水道を作り、維持してきたんですね。

T 水道が整備されたことで、私たちの生活はどのように変わったのでしょうか。

C 今の健康な生活はきれいな水をいつでも飲めることとつながっていると思います。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 浄水場ができる前は、水が足りなくなったり、病気が流行ったりしたということが分かりました。

C 浄水場などの水道施設ができて、私たちは健康な生活が送れるようになったということが分かりました。

ねらい (5時間扱い)

①②浄水場の見学を通して川の水をきれいで安心して飲める水にする浄水場の仕組みや働きを理解する。③④浄水場では安全できれいな水を安定的に供給するためにたくさんの工夫をしていることを理解する。⑤仙台市の水道の歴史的背景や上水道の整備が自分たちの健康な生活の向上に役立っていることを理解する。

教科書活用のポイント

教科書 P.38-43 とリンクした内容になっている。教科書では①浄水場の設備について②浄水場で働く人の工夫や願い③浄水場ができる前はどうか(水道の移り変わり)という流れで構成されている。きれいな水を供給する仕組み、安定供給のための関係機関の努力と連携から「事象や人々の相互関係」に着目し、水道の歴史的背景から「時期や時間の経過」に着目する。社会的事象の見方・考え方を働かせて学習問題について考えていくようにしたい。



◎じょう水場の仕組み



中原じょう水場

図「一般的なじょう水場の仕組み」写真は中原浄水場の写真を掲載。仕組み図に対応した写真を確認しながら、水がきれいになる流れを理解できるようにする。二次元バーコードを読み取ると中原浄水場の様子を動画で見ることができる。



ことねさんたちのグループは、水をきれいにする仕組みを調べるため、じょう水場へ見学に行きました。



めあて

じょう水場ができる前は、どのようにして水を手に入っていたのでしょうか。



四ツ谷用水



給水車が市内を回る

<水道の広がり歴史>

・長い年月をかけて… ・病気の流行が過去には…

まとめ

浄水場が出来る前は…
水道しせつが整ったおかげで…

●仙台市の水道のあゆみ

年	ことば
1600	四ツ谷用水を利用して生活用水をまかなう。
1882	コレラなどの病気の流行で、近代的な水道への要望が高まる。
1889	仙台市ができる。
1913	水道を整える工事が始まる。
1923	水道の供給が始まる。
1934	青下第1・2・3ダムが造られる。
1951	濁水で全市が断水寸前になる。
1978	茂庭じょう水場ができる。
#	宮城県沖地震がおきる。
1989	仙台市が政令指定都市となる。
2000	現在の水道の基盤が完成する。
2011	東日本大震災がおきる。約23万戸が断水。
2023	水道の供給開始から100周年となる。

資料の活用の仕方

・本文「じょう水場の人の話」

浄水場で働く人々が工夫や努力をしていることは何かを考える。私たちの生命に欠かせない水を作る上で、「安全」ということを一番大切に考えていることに気づかせたい。

・年表「仙台市の水道のあゆみ」

仙台市の水道がどのように整備されたのか、歴史の流れを年表で調べる。当たり前にある水道が整備されるまでに長い年月がかかっていることを確認し、人々の苦勞や願いを考えさせたい。

5 住みよいくらしをつくる

◎安全できれいな水をつくる

じょう水場で水の検査をしている人に話を聞いてみました。



じょう水場の人の話

みなさんがふだん飲んでいる水は、ダムや川から取り入れた水を、洗ってろ過でにごりを取り、消毒をして、作られています。じょう水場の機械は休みなく働いているので、わたしたちは夜も交代で仕事をしています。みなさんにいつも安全な水をとどけられるように努めています。

「じょう水場で働く人たちの日々の取り組みがあって、水はきれいにされているんだね。」

「検査を通った水が、わたしたちの学校や家に送られてくるんだ。」

きれいな水ができるまでを知ったことねえんたちは、昔の水はきれいだったのか、いつから水道が整ったのかも、調べることにしました。



四ツ谷用水

江戸時代初期、仙台市域にはじめて使われていた水路。防災消防用水や炊事洗濯など生活用水に使っていた。



給水車が市内を回る

1951年の濁水の時、水不足のため給水車が市内を回って水を運んでくれた。



中央管理室

水をどのくらい作るか、機械が正しく働いているか、監視をするところ。



水質検査センター

ダムの水が安心して使えるのが、じょう水場でつくった水が安全に飲めるか、検査するところ。仙台市では、200箇所以上を検査しています。

●仙台市の水道のあゆみ

年	ことば
1600~	四ツ谷用水を利用して生活用水をまかなう。
1882	コレラなどの病気の流行で、近代的な水道への要望が高まる。
1889	仙台市ができる。
1913	水道を整える工事が始まる。
1923	水道の供給が始まる。
1934	青下第1・2・3ダムが造られる。
1951	濁水で全市が断水寸前になる。
1978	茂庭じょう水場ができる。
#	宮城県沖地震がおきる。
1989	仙台市が政令指定都市となる。
2000	現在の水道の基盤が完成する。
2011	東日本大震災がおきる。約23万戸が断水。
2023	水道の供給開始から100周年となる。

本時の評価と指導

①知識・技能①

ノート等の記述や発言内容から、①②「必要な情報を集め、読み取り、浄水場で水をきれいにするしくみについて理解しているか」③④「自分たちが普段飲んでいる水は、浄水場で働くたくさんの人々の工夫や願いによって守られていることについて理解しているか」⑤「仙台市の水道の歴史的背景や、上水道の整備が自分たちの健康な生活の向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

②指導のポイント・留意点②

⑤…昔と今を比較し、水の供給の仕組みや安全性の違いに気付かせ、現在の自分たちの生活と関連づけて考えさせる。

「年表を見ると、昔の生活用水は、四ツ谷用水から取り入れていたことが分かるよ。」

「コレラなどの病気の流行で生活用水につながりがあるん写真「四谷用水」昔は生活に必要な水を四谷用水から取り入れていたことを写真からつかませる。現在の水道が整備される前のくらしの様子を想像させたい。」

「水道が整って便利になってからつかませる。現在の水道が整備される前のくらしの様子を想像させたい。」

学習の流れ (例)

(1) ダムの様子を調べ、分かったことについて話し合う。 **10分**

T 資料を見て、気づいたことを話し合います。→資料「釜房ダムの場所」

「釜房ダム関連の水道局 YouTube」

C ダムはとっても大きいんですね!

C 釜房ダムは川の上流にあることが分かります。

T ダムにはどのような働きがあるのでしょうか。

C 水不足にならないようにためているのだと思います。上流にあるのは理由がありそうです。

ダムやまわりの森には、どのような働きがあるのでしょうか。

(2) ダムには、どのような働きがあるのか調べ、話し合う。 **15分**

C 川の水量を調節していると思います。

C 水力発電をしています。

T 水不足にならないためにどのような工夫をしているのでしょうか。

C 県と市が協力して、ほかのダムから水もらっています。

(3) 水源の森の働きについて調べ、話し合う。 **15分**

T ダムのまわりの森にはどんな働きがあるのでしょうか。

C 「緑のダム」と呼ばれていて、ダムと同じように水をたくわえています。

C 水源の森を守るために、清掃活動をおこなっているそうです。

(3) 本時のまとめをする。 **5分**

C ダムは水をためて、なくならないように水の量を調整している。

C 森林には水をたくわえる働きがあり、環境を守る取り組みもしている。

本時のねらい

必要な情報を集め、読み取ることを通して、ダムや水源林の働きや水を安定して供給するために県内外の人が協力し合っていることについて理解する。

教科書活用のポイント

教科書 P.44-45 とリンクした内容になっている。教科書では「犀川ダム」を取り上げ、①建設の目的②ダムと水源の森の役割について③県内の人々の協力について考えるように構成されている。また、「③県内のダムと水げんの森」の地図からは、社会的事象の見方・考え方を働かせ、上流部分に住む人々の環境保全への願いと下流域に住む人々の水源確保の願いを関連づけて考える場を設定し、治水と利水、地域同士の協力を捉えさせるようにしている。本書では釜房ダムを取り上げている。「仙台市の水がめ」と呼ばれる所以について、資料から考えさせたい。



釜房ダムの場所

◎ どうして水はなくなるんだろう



釜房ダム



釜房ダムの水は、仙台市の約3人に1人が飲み水として利用しているそうです。



釜房発電所
水力発電で電気をつくる

このねらいを達成するために水がなくなるのかわからないので、水道局公式 YouTube チャンネルが開く。写真だけでは実感できない規模感や地形の特徴を美しい映像で確認することによって理解を深めたい。ダムから送られる水は、飲料水や工業用水、農業用水など、生活の多くの場面で使われています。



仙台市内外の水道施設を、QRコードでみてみましょう。



「ふだん二次元バーコード「仙台市内外の水道施設」が不足しないようにしているんだね。」
二次元バーコードを読み取ることで、仙台市内外の水道施設の位置について確認する。仙台市内外の水道施設と協力することも、安定的な水道水の供給につながっていることを、県内の他の地域と協力して、安定して水が送られるようにしています。

めあて

ダムやまわりの森には、どのような働きがあるのでしょうか。



<ダムの働き>

・水をためて…

水源かんよう林
「緑のダム」の役割



- ①水をたくわえる。
- ②水をきれいにする。
- ③土砂が流れ出るのを防ぐ。

<水げんの森>

・緑のダム…

まとめ

ダムは大量の水を… 水の量を調整して…

森林には水をたくわえる働きが… 水げんの森を守るために…

資料の活用の仕方

・イラスト「ダムの役割」

ダムがどのような働きをしているか、予想をした後に確認する。ダムがあることにより、水不足を防ぐことができ、安定的な水道水の供給につながっていることを理解する。

・写真「水源涵養林」

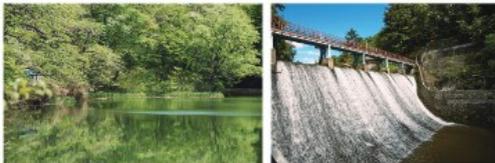
水源涵養林の役割について理解する。緑のダムが、水源の水を保つことに役立っていることを理解する。

・写真「清掃活動の人々」

水源涵養林を保つために、清掃活動を行う人々がいることをつかむ。人々の協力の必要性を考え、自分たちの行動へとつなげられるようにする。

5 住みよいくらしをつくる

◎水源を守るために



青下ダム 水源かんよう林

青下ダム(第一)



YouTube
「青下のプロジェクト」



YouTube
「青下第一ダム」

青下ダムの場所は、p. 68の「仙台市内外の水道施設」のQRコードを読み取って確認してみましょう。



水源かんよう林
「緑のダム」の役割



- ①水をたくわえる。
- ②水をきれいにする。
- ③土砂が流れ出るのを防ぐ。

先生が、青下ダムの写真を見せてくださいました。「青下ダムの上流にはこのような森林がたくさんあるんだよ。森水道局公式YouTubeチャンネルが開く。環境を守るための官民連携や、調べてみると、この森林の役割が分りました。昭和9年に竣工した歴史あるダムについて映像で確認できる。は、この土にたくわえられ時間をかけて地下へと流れていきます。水をたくわえる働きをもつため、こうした森林を「緑のダム」とよんでいます。

森林の清掃活動を行う人々



大切な役割がある水源地は、清掃活動などいろいろな人の取り組みによって守られていることが分りました。

土にしみこむ中で、雨水はろ過され、きれいになるんだね。やわらかい土のおかげで、雨水が一気に川に流れることも防いでいるんだね。



本時の評価と指導

◎知識・技能◎

ノート等の記述や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ダムや水源林の働きや、水を安定して供給するために県内外の人が協力し合っていることについて理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

ノート等にまとめる際には、話し合った内容を再度確認したり、「水をためる、たくわえる」「量を調整」「水源の森を守る取り組み」等のキーワードを示したりして、書かせるようにする。

学習の流れ①②(例)

(1) 学習問題について、これまで調べたことを振り返り、話し合う。**30分**

T 小単元の学習問題と学習のキーワードを振り返りましょう。

C 学習問題は「わたしたちが使う水はどこでどのようにきれいにされ、送られてくるのでしょうか」でした。

C 「浄水場」「水質けんさ」「ダム」などです。

水がどのようにつくられ送られてくるのか話し合い、整理しましょう。

C 浄水場では様々な工夫をして水をきれいにしていました。

C 多くの人たちの働きで、いつでも安全な水を使うことができます。

(2) 学習のキーワードを用いながら、水の経路や施設の働きを図にまとめ、話し合う。**50分**

C 水源の森は雨水をたくわえる働き、ダムは水をたくわえたり川の水を調節したりする働きがあります。

C 浄水場は、川の水をきれいにしたり検査をしたりして、いつでも安全に飲める水にしています。

T 水をつくり、届けてくれる施設の働きと、わたしたちの生活とのつながりについて分かったことを話し合しましょう。

C 水や、浄水場で働く人や、ダムや水道管を管理する人々の努力によって私たちに届けられています。

(3) 本時のまとめをする。**10分**

C 浄水場やダムなどの施設や、多くの人々の働きがあって、私たちはいつでも安全できれいな水を使うことができ、そのおかげで健康な生活に役立っています。

ねらい(3時間扱い)

①②水の流れについてまとめて話し合うことで、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給する仕組みがつくられ、計画的に改善が進められており、地域の人々の健康な生活の維持・向上に役立っていることを理解する。③地域社会の一員としてよりよい生活環境を考えることの重要性を理解するとともに、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりして表現する。

✳教科書活用のポイント✳

教科書 P.46-49 とリンクした内容になっている。教科書では、私たちの手元に水が送られてくるまでを整理した後で、いつでもきれいな水を使えることの大切さについて確認し、限りある水を使い続けるために自分たちにできることについて考える、という構成になっている。教科書 P.49 には「Edu Town SDGs」へのリンクが掲載されており、ウェブサイト内の「目標6」から、世界の水事情や自分たちができることの例などが閲覧できるため、是非とも参考にしたい。少しずつグローバルな視点を持たせていくことも大切である。



◎水はどのようにじゅんかんしているのだろう

ことねさんたちは、使った水のその後について、下の図をもとに話し合いました。



じょう化センターについては、p.82～83にもくわしくのっているのて、確認してみましょう。

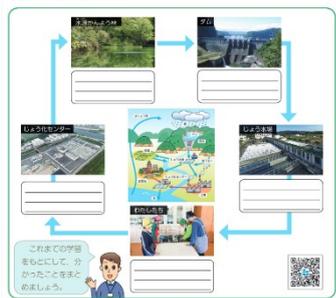


「家庭や工場で使われた水は、じょう化センターに流れていき、きれいな水に変えられ川や海にもどるんだね。」
「その水は、水じょう気とかエア雲になり、ダムや森林、水を再利用している施設、水資源を無駄にしないように取り組んでいる施設として「仙台商みの杜水族館」を取り上げている。身近にある施設でも、資源を大切にしていることをつかませよう。」
「これを、このねらいの学習をもとに振り返り、関係図にまとめました。」

めあて

水がどのようにつくられ送られてくるのか話し合い、整理しましょう。

◎水の流れをまとめよう



＜水をつくり、届けられる施設とわたしたちの生活とのつながり＞

- ・管理する人々の努力が…
- ・いつでも安全に…
- ・大切な水を使い続けていくために…

まとめ

飲料水をつくり、送っている施設の働きは…
健康な生活のために…

資料の活用の仕方

・イラスト「水の循環図」

水がどのように循環しているのか、図を用いて経路をたどるようにする。水はなくなるのではなく、循環していることを理解する

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

①②図の記述内容から、「調べたことをまとめて、水道事業は水を安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

◎主体的に学習に取り組む態度◎

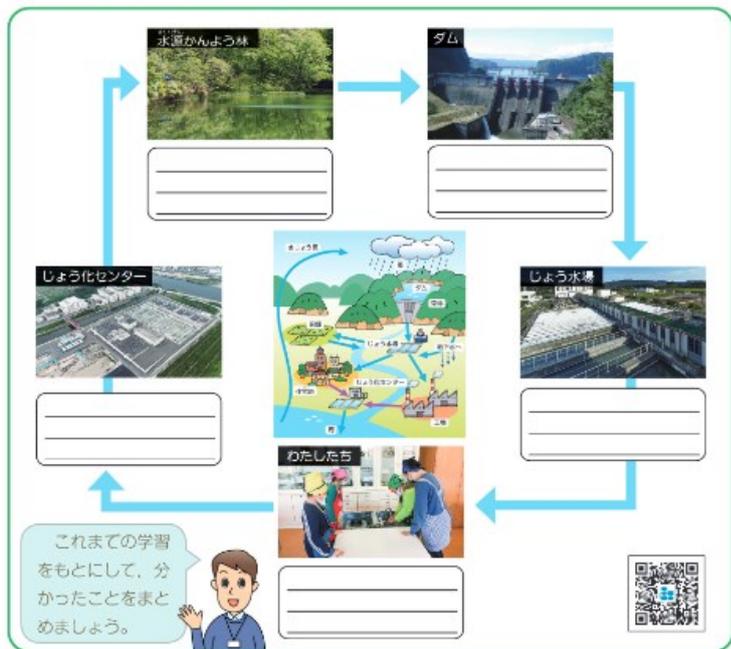
③ノート等の記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、節水や水を大切に使うなど、身のまわりの環境のために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

自分たちにできることについて考える際、まずは、家庭や学校生活など身近な生活場面を想起させることで考えをもちやすくする。また、「水源の森を守ることが安定してきれいな水をつくることにつながるということを学んだので、環境を守る清掃活動に参加したい」など、学習したことをもとに表現できるようにする。

5 住みよいくらしをつくる

◎水の流れをまとめよう



◎水を大切に使うために

「水を飲むことは当たり前のことではないんだね。」

ことねさんたちは、かけがえのない水を大切に使うために、自分にできることを考えてみることにしました。

「歯みがきでは、使う分だけコップに水を入れているよ。」

「シャワーの水を出しっぱなしにしないようにしているよ。」

「節水をみんなに呼びかけてもいいね。」

水の流れをまとめる学習してきたことを関係図にまとめる。書き出しの部分続きを考える。文章でまとめることで、水の循環のイメージを持てるようにする。

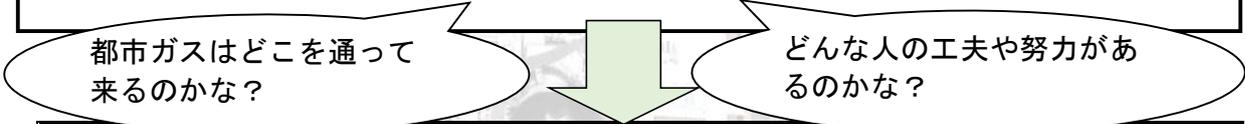
<p>小単元名 p. 72</p>	<p>①選択B くらしをささえる 都市ガス</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>都市ガスを供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、都市ガスの供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、都市ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。</p>
-----------------------	-----------------------------------	--------------------	--

つ
か
む

p. 72

◎都市ガスはどのように送られてくるのだろう

- ・「家や学校、町の中で都市ガスを使っているものにはどんなものがあるかな?」「どのくらい使っているのかな?」など、身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。
- ・都市ガスはどこからやってくるのかを調べさせる。



学習問題

わたしたちが使う都市ガスは、どこでどのようにしてつくり、送られてくるのでしょうか。

調
べ
る

p. 72

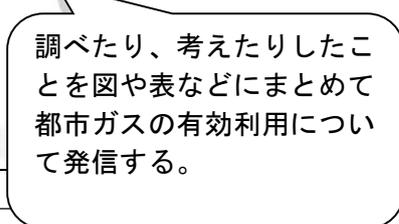
◎都市ガスがとどく仕組み
都市ガスの原料は何だろう

- ・都市ガスのメーターでどのくらい都市ガスを使っているのかを調べる。
- ・都市ガスに関する資料や都市ガス局のホームページを使って調べる。
- ・都市ガス局の方にお話を伺ったり、都市ガスのショールームや都市ガス工場を見学したりする。
- ・都市ガスが作られていく過程にたくさんの人々の工夫や努力があることにも目を向ける。

p. 72

調べて分かったことをまとめ、発表しよう。

- ・図や写真などを活用し、分かりやすく説明できるようにする。
- ・都市ガスを作り出すためには他の県や国の協力が不可欠であることも地図などを活用してまとめる。



ま
と
め
る

p. 72

調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから、都市ガスの利用の仕方について考えよう。

- ・都市ガスを節約することは資源の有効利用にもつながることに気付き、図や表を作る。
- ・都市ガスに関わる人たちの安全に対する思いやシステムについて理解する。
- ・都市ガスの使い方について考える。



○生活にとって欠かせない飲料水、電気、都市ガスから一つを選択して取り上げる単元であることから、各校の実態に応じて適切に活用する。

<p>小単元名 p. 73</p>	<p>①選択C くらしをささえる 電気</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>電気を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、電気の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。</p>
-----------------------	---------------------------------	--------------------	--

つ
か
む

p. 73

生活の中でどんなことに電気を利用しているのかを考え、電気がとどく仕組みを調べよう。

- ・「家や学校、町の中ではどんなことに電気を使っているのかな」など、身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。
- ・スイッチを押したりコンセントに差し込んだりするとつながる電気はどこからやってくるのか考える。
- ・「電気がなかったらどうなるだろう？」など停電の時の思い出す。

電線を伝わってくるのかな？

停電の時大変だったよ！

学習問題

わたしたちが使う電気は、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか。

調
べ
る

p. 73

◎ 電気はどのようにつくられるのだろう。

- ・電気をつくり出すために、いろいろな発電方法があることにも目を向けさせる。
- ・火力発電が最も多いことに気付かせる。

◎ 電気がとどく仕組み

- ・学校の電気メーターや繋がっている電線を実際に見学に行くことよい。
- ・「東北電力でんきアドベンチャー」のホームページで詳しく調べることができる。
- ・定期的に点検され、いつでも安全に利用できていることを捉えさせる。

p. 73

調べて分かったことをまとめて発表しよう。

- ・フロー図を活用したワークシートなどを用意してまとめる。
- ・電気が作られていく過程にたくさんの人々の工夫や努力があることにも目を向ける。
- ・電気に関しては難しい言葉が多く出てくるのでクロームブック等を使い図や写真を活用し、分かりやすく説明できるようにする。

調べたり、考えたりしたことを図や表などにまとめて電気の有効利用について発信する。

ま
と
め
る

p. 73

調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから電気の利用の仕方について考えよう。

- ・近年では、省エネを心掛け、人々が節電の努力をしていることに気付く。
- ・節電をすることは限りのある資源の有効利用にもつながることに気づき、節電を呼びかけるポスターを描いたり、自分にできることを考えたりする。

教科書の
活用

○生活にとって欠かせない飲料水、電気、ガスから一つを選択して取り上げる単元であることから、各校の実態に応じて適切に活用する。

↓ 学習の流れ C (例)

(1) 自分たちの生活と電気との関わりについて話し合う。

T 1日の生活で電気を使ったものを挙げてみましょう。

C テレビ、冷蔵庫、ゲーム機などです。

C まちには電車、信号機もあります。工場や会社、学校でも使っています。

T もし、電気が使えなくなったらどうなるでしょうか。

C 冷蔵庫が使えないと、食べ物が腐ってしまいます。

わたしたちの暮らしを支えている電機は、どこから、どのように送られてくるのでしょうか。

(2) 発電のしくみや発電経路について調べる。

T 発電にはどんな種類がありますか。

C 火力、水力、原子力があり、特に火力が多いようです。

T どうやって届けられるのでしょうか。

C 発電所、送電線、変電所を経て、私たちのところに届けられます。

T 資料をもとに、それぞれの発電方法の特徴と課題について調べましょう。

C 火力発電は、燃料を外国に頼っていて多くの二酸化炭素を出すことがわかりました。

(3) 再生可能エネルギーについて調べる。

C 自然をエネルギーにしている、二酸化炭素を出さないという利点があります。

(4) 電力の安定供給と持続可能な電力の在り方について考える。

C 再生可能エネルギーがさらに増えるとよいと思いますが、まずは、省エネを心がけることも大事だと思います。

本時のねらい

選択 B：自分たちの生活とガスの関わりについて考え、安全で安定的にガスを供給する事業の役割について理解する。

選択 C：自分たちの生活と電気の関わりについて考え、安全で安定的に供給する事業の役割について理解する。

✿教科書活用のポイント✿

教科書 P.50-53 とリンクした内容になっている。学習指導要領解説 P.57「内容の取り扱い」に「飲料水、電気、ガスの中から選択して取り上げること」とあるように、事例について選択することとなっている。本書では教科書同様、水道事業を取り上げた場合の事例を詳しく挙げているが、電気・ガスについても事例として取り上げることができるため、参考にしたい。

1 選択 B
くらしを
ささえる
都市ガス

◎都市ガスはどのように送られてくるのだろう

「都市ガスは、天然ガスを原料にしているそうだよ。」

「原料の天然ガスは、燃えた時に二酸化炭素の発生が少なく、環境にやさしいんだね。」



都市ガスをつくる工場の人話
LNG (液化天然ガス)®は主に外国から輸入しています。工場では、安全な都市ガスをつくるためにいろいろな工夫がされています。たとえば、天然ガスは、無色無臭なので、安全のために、においをつけています。
®LNGは、気体の天然ガスを-162℃に冷却して液体にしたものです。

わたしたちが使う都市ガスは、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか。
天然都市ガスは燃えたときの二酸化炭素発生量が石炭、石油に比べて少ないことに気がさせるようにする。

いつも同じ品質の都市ガスが安全につくられるように、24時間管理しています。

土の中に埋められた管の中を都市ガスが通って、家や学校に届けられます。

都市ガスが送られてくる仕組み

ガスコンロ ← ガスバルブ ← ガスメーター

コンピュータによって24時間管理されていることを写真により確かめる。「都市ガスはどこを通過するの」「天か」について考える際に、写真を活用したい。地中にある都市ガス管を通り、都市ガスが運ばれていることを捉える。コンクリート管にはケーブルがあり、どのように使っていけばいいか、考えてみましょう。

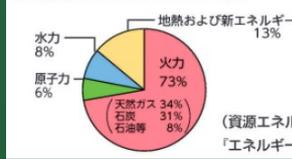
めあて

わたしたちの暮らしを支えている電機は、どこから、どのように送られてくるのでしょうか。

◎電気がとどく仕組み



電源別発電電力量(2022年度)



<発電のしくみや発電経路について> <発電の課題について>

まとめ

発電所でつくられた電機は… 発電所 送電線 変電所…
しょうらいを考えて、再生可能エネルギーについて…

資料の活用の仕方

参考資料

・L P都市ガス

日本L P都市ガス協会のホームページに資料があるので参考にしたい。<http://www.j-lpgas.gr.jp/>

・東北電力「てんきアドベンチャー」

<https://www.tohoku-epco.co.jp/kids/>

電気の作り方や送られてくる仕組みを調べることができる。

・その他

※新仙台火力発電所

022-366-1331

※三居沢電気百年館

022-261-5935

※女川原子力PRセンター

0225-53-3410

5 住みよいくらしをつくる

選択C

くらしを
ささえる電気

◎電気はどのようにつくられるのだろう

発電所の種類や仕組みについて調べてみました。

写真「再生可能エネルギー」再生可能エネルギーについて意味を調べる。校舎に太陽光パネルが設置されている場合は見学することも考えられる。

図「電気がとどくしくみ」例としてテレビを取り上げる。各家庭のコンセントまで、電気がどのように流れて来るかを図から読み取ったり、地域に変電所や送電線がないか調べたりする。

◎電気がとどく仕組み



電力会社の人の話

電気を安定供給するために定期的

「このごうきんがふやうに理解する。また、写真から、作業には危険が伴うことに気づき、生活を守るための人々の努力についても考え大切だね。」

グラフ「電源別発電電力量」

日本の発電電の中でも火力発電が最も多いことに気づかせ、新仙台火力発電所の場所を巻末の地図資料「仙台のようす」で確認する。



！ヒント

「東北電力 てんきアドベンチャー」で「検索」してみてください。

電力会社の人の話

みなさんがよく目にする電柱や電線は、電気が止まらないように定期的に点検しています。また、台風や雷などで停電しても、元通りに使えるように24時間体制で備えています。



本時の評価と指導

◎知識・技能◎

選択 B：発言内容やノート等の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ガス供給の方法や、それぞれの課題について理解しているか」を評価する。

選択 C：発言内容やノート等の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、電力供給の方法や、それぞれの課題について理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

B…生活とガスとの関わりを考える際、生活のどのような場面で使っているかを想起させ、実生活との密接な関連を実感させる。

C…火力発電と原子力発電の課題を踏まえて、再生可能エネルギーの特徴を見いだすようにする。

<p>小単元名 p. 74~83</p>	<p>②選択A ごみと住みよいくらし</p>	<p>小単元 の目標</p>	<p>廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする。</p>
--------------------------	----------------------------	--------------------	--

つかむ

p. 74~p. 75

◎ ごみについて調べてみよう。

・家庭や学校から出たごみを調べ、ごみの種類の違いやごみの量の多さに注目させる。

◎ 集積所の様子を調べよう。

・家庭で使用するごみ袋や集積所の様子からごみの収集の仕方に興味・関心を持たせる。

なぜ、ごみの種類ごとに集める日を決めているのかな？

集めたごみは、どこへ行くのだろうか？

学習問題

わたしたちの生活から出たごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。

調べる

p. 76~77

◎ 家庭ごみのゆくえをさぐろう。

・清掃工場を見学する計画を立てる。
・清掃工場における処理の仕方、環境への配慮、再利用について、他地域とのつながり、働く人の様子を調べる。

◎ 家庭でいらなくなった資源物のゆくえをさぐろう。

・資源化センターにおける、リサイクルの仕方やどんなものになるのかを調べる。

p. 78

◎ ごみの問題について考えよう。

・「仙台市の1人1日あたりの家庭ごみの排出量と人口の変化」のグラフから、人口は増加しているがごみの量は少しずつ減ってきていたことを読み取る。
・2011年にごみの量が増えた理由を考える（東日本大震災があったため）。
・仙台市のごみを減らす取組について知る。

※見学活動後は、調べて分かったことをノートや新聞にまとめることが考えられる。その際に「清掃工場の仕組み」「ごみを処理する際に出る熱の再利用について」「他地域とのつながり（最後に残った灰は、埋め立て処分場へ運ばれることなど）」についてまとめる。

まとめる

p. 79

◎ 自分たちにできることを考えよう。

・これまでの自分の経験やごみを減らす3つのポイント（リデュース・リユース・リサイクル：3R）を視点としてごみの量を減らすために自分ができることを話し合う。
・自分たちが考えたごみを減らす工夫について紹介し、ごみを減らすためにできることを話し合う。

(例) ・プリントの再利用をする。

・再生品を積極的に使う。 ・ポスターで呼び掛ける。
・ごみの量を減らすために、自分のできることをノートに文章で表現する。

ごみの処理についての工夫や協力が、自分たちの健康的な生活や住みよい環境の維持に役立っていることを理解する。

教科書の活用

○生活にとって欠かせない飲料水、電気、ガスから一つを選択して取り上げる単元であることから、各校の実態に応じて適切に活用する。

学習の流れ② (例)

(1) ごみの収集の様子や収集車、ごみの行き先の写真などを見て調べ、ごみのゆくえについて問いを見だし、学習問題をつくる。 **15分**

わたしたちが出したごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

T「家庭ごみ収集作業の様子」の写真を見て分かることや、疑問に思うことはありますか。

C 市で決められた袋に入ったごみを集めています。

C トラックはどこに向かうのでしょうか。運ばれた後はどうなるのかな。

(2) 学習問題の予想を立て、話し合う。 **30分**

T みなさんの疑問をまとめて「わたしたちの生活から出たごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。」という学習問題ができました。予想を立て、話し合いましょう。

C 燃えるごみは一気に集めてから燃やしているのではないのでしょうか。

C 分別しているから、運ばれた後でごみを処理する方法が違うのだと思います。

(3) 学習計画を立てる。 **10分**

T 学習問題を解決するために、何をどのようにして調べたりまとめたりしていきますか。

C ごみの種類による処理のしかたや工夫について、清掃工場やリサイクルプラザに実際に見学に行き調べたいです。

C 工場の方にインタビューをして、ごみの処理の仕方や工夫について詳しく調べたいです。

ねらい (2時間扱い)

①分別表やごみの量、ごみ置き場の写真を見て、出し方のきまりや現状について理解する。②ごみのゆくえを考えることを通して、学習問題をつくり、予想して学習計画を立てる。

教科書活用のポイント

教科書 P.54-57 とリンクした内容になっている。教科書では、まず岡山市の分別表や岡山市のごみの量、地域にあるごみ置き場の写真を見て、出し方のきまりや現状について理解する。その後で、ごみのゆくえについて考えることを通して学習問題をつくる、という構成になっている。教科書 P.55 右下二次元バーコードから「学習のはじめに見てみよう (動画)」「ごみ調べカード、市のごみの量 (ワークシート)」が用意されているので、実態に合わせて使用したい。分別の必要性を考えるようにすることで、目的に応じた効率的な処理のしかたに目を向け、追究していくようにする。

2 選択 A
ごみと住みよいくらし

◎ごみについて調べてみよう

ことねさんたちは、身の回りでごみについて調べてみました。

「今朝、ごみ置き場にごみを出してから学校に来たよ。」

「学校のごみ置き場にもごみがあるね。」

「どんなごみが出ているかな。」

わたしたちは、生活の中で、どんなごみをどれだけ出しているのかな？



日常生活の中で、いつどんな時にごみを出したか思い出したり、実際に出したごみを確かめたりして話し合う。



「たくさんのごみが出ていることが分かりました。ごみを入れる袋は別々になっていました。」

「わたしの家では、ごみの分別をしています。」
「ごみを出す日が決まっていて、出し方もちがうよ。」

「なぜ、ごみを分別しているのだろう。」

学び方コーナー

- 家庭や学校でどんな種類のごみが出ているかを調べましょう。
- 調べて気付いたことについて話し合いましょう。



「家庭ごみ」を出すとき(緑色)と「プラスチック資源」を出すとき(赤色)に使う仙台市が指定している袋



仙台市生活ごみ分別事典

資料の活用の仕方

・学び方コーナー

家庭や学校からでるごみの種類や量について調べ、表などにまとめる。調べる際には、個人のプライバシーに十分に配慮をする。

・写真「収集日を知らせるステッカー」

学校、家庭、地域のごみ集積所と、調べる範囲を広げ、この先はどうなっているのかという課題につなげていく。集積所の看板などから、地域やごみの種類によって、収集日や出し方に違いがあることを捉える。

めあて

わたしたちが出したごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくりましょう。



収集作業の様子からわかること・疑問

- ・決まった日に…
- ・指定の袋で…
- ・どこに運ばれてどうやって…

学習問題

わたしたちの生活から出たごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。

<学習計画>

- ・清掃工場に見学に…
- ・ごみの種類と処理の仕方は…

5 住みよいくらしをつくる

① 集積所の様子を調べよう



家庭ごみの収集作業の様子

資源物・家庭ごみの収集日を知らせるステッカー
(収集日は住んでいる地区によってちがいます。)

ことねさんたちは、ごみの集積所の様子を見学しました。



「曜日が書かれたステッカーがはってあるね。何が書いてあるのかな。」



「きまりを作って、ごみを集めているのだね。」



「集積所は主に町内会が運営しているそうだよ。」

ごみ収集車が来て、ごみを運んでいきました。



「収集されたごみは、どこへ運ばれるのだろう。」



「どうして種類^{※1}ごとに集める日を決めているんだろう。」



「ごみは運ばれたあと、どうなるのかな。」



わたしたちの生活から出たごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。

※1 仙台市は次の4つの種類に分けて収集しています。また、家庭ごみとプラスチック資源の袋の代金には処理費用の一部がふくまれています。

- ・家庭ごみ(有料)
- ・プラスチック資源(有料)
- ・資源物
- ・紙類

調べたい。その後、学習問題に対する予想を立てることで清掃工場の見学に意欲を持たせる。

本時の評価と指導

① 知識・技能

① ノート等の記述内容や発言内容から、「家庭から出されるごみに着目し、ごみは決められた日に分別して集められていることを理解しているか」を評価する。

② 主体的に学習に取り組む態度

② ノート等の記述内容や発言内容から、「ごみ処理のしかたに疑問をもち、問いを見いだしているか」を評価する。

③ 指導のポイント・留意点

全て一か所でまとめて処理するのではなく、ごみの種類によって、それぞれ行き先が違うことに着目し、ごみのゆくえについて疑問をもてるようにする。

学習の流れ①②(例)

(1) 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 **5分**

T 集められたごみはどこへ運ばれてどうなるのでしょうか。

C 清掃工場で燃やされていると思う。

せいそう工場では、ごみをどのようにもやしているのでしょうか。

(2) 清掃工場で見学してくることを見学のしおりやノート等に整理する。

15分

(3) 清掃工場を見学してわかったことを整理する。 **55分**

T 見学をしてどのようなことが分かりましたか。

C ごみピットに落としたごみを。クレーンで運び焼却炉に入れていました。

C 燃やす時に出る余熱は、温水プール施設で利用されていました。

T 見学をして、新たに疑問に思ったことはありますか。

C 燃やした後に出る不燃物や灰はどうなるのでしょうか。

(4) ごみを燃やして処理する理由を考え、話し合う。 **10分**

T どうして燃やして処理をするのでしょうか。

C かさが小さくなるので、場所が節約できるからだと思います。

C においや病気の原因を取り除くことができ衛生的だからだと思います。

(5) 本時の内容を振り返り、まとめ。 **5分**

C コンピュータを使って、環境に配慮しながらごみを燃やしていることが分かりました。C 燃やすのは、かさを減らすだけでなく、衛生的に処理していることが分かりました。

ねらい(4時間扱い)

①②清掃工場の見学を通して、ごみを処理する仕組みがあることについて理解する。③④資源化物や粗大ごみなどのリサイクルについて調べることを通して、ごみの再生・再利用の取り組みについて理解する。

教科書活用のポイント

教科書 P.58-63 とリンクした内容になっている。教科書では、①清掃工場でどのようにごみを燃やしているのか②燃やす時や燃やした後どのような工夫をしているのか③粗大ごみや資源化物はどう処理しているのか、という流れで構成されている。教科書 P.58 には見学メモの例、P.59 右下二次元バーコードには、「見学カード」のワークシートが示されている。見学して分かったこと、考えたことと資料を対応させることができるように、「まず、どこからごみが入ってくるのかな。」「次はどこに送られていくのかな」などの声掛けをして、理解を深めていきたい。

1 家庭ごみのゆくえをさぐる

家庭ごみは、ごみ処理工場でどのように処理されているのだろうか。

葛岡工場働く人の話
周辺の住民や環境に配慮した燃やし方、ごみを燃やした熱を発電やプールなどに利用していることなどを捉える。蒸気タービン発電機で作られた蒸気は1基あたり、最大4、500kW発電する。



葛岡工場働く人の話

仙台市には、三つのごみ処理工場*があります。三つの工場を合わせて1日に、ごみ収集車約480台分のごみを休みなく燃やし続けています。ごみを燃やすときは、人や環境の害になる物を少なくするために、高い温度で燃やすなどいろいろな工夫をしています。また、その熱で発電し、工場や、となりの温水プールなどで利用しています。



家庭ごみの処理の仕組み



資料 ごみ処理施設のあるところ



めあて

せいそう工場では、ごみをどのようにもやしているのでしょうか。

<見学してくること>

- ・しゅう集者の数
- ・しよりのしかた
- ・機械が…
- ・働いている人が…



<分かったこと>

まとめ

コンピューターを使い… かんきょうに気を付けながら…
なぜもやすのかというと… もやした時の熱を使って…

資料の活用の仕方

・図「家庭ごみの処理の仕組み」

見学の際には、実際に集められたごみの量や種類の多さを、実感できるようにする。処理に当たっては、コンピュータで集中管理しているなど、安全に配慮していることを理解する。

・絵地図「ごみしよりしせつのあるところ」

自分たちの地域のごみは、どここの処理施設に運ばれるのかを確かめる。現在、埋立処分場は富谷市の石積（いしづもり）にある。

5 住みよいくらしをつくる

2 家庭でいらなくなった資源物のゆくえをさぐる

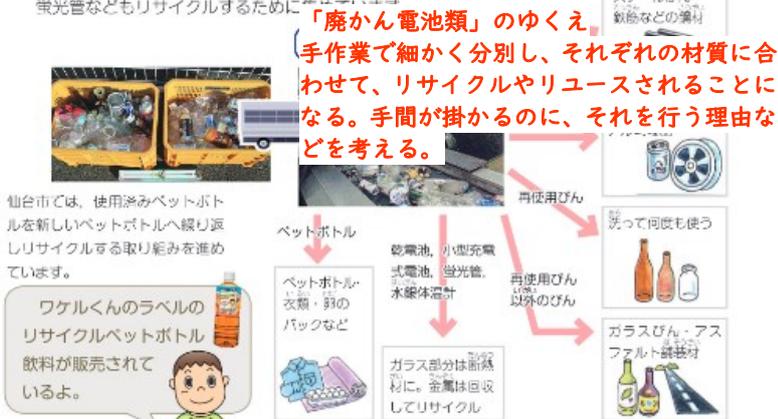
(1)「プラスチック資源」のゆくえ

プラスチックをリサイクルするために、分けて集めています。



(2)「かん、びん、ペットボトル、廃乾電池類」のゆくえ

かん、びん、ペットボトルのほか、乾電池や小型充電式電池、蛍光灯などもリサイクルするために



(3)「紙類」のゆくえ

紙類は、リサイクルするため、平成 20 年 10 月 1 日から市内全域で月 2 回の無料回収が始まった。それまでは、家庭ごみとして捨てられることが多かったことをおさえる。



本時の評価と指導

知識・技能

①②見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、清掃工場の燃えるごみを処理するしくみや工夫について理解しているか」を評価する。③④見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、粗大ごみや資源化物を再利用するしくみや人々の協力の大切さなどについて理解しているか」を評価する。

指導のポイント・留意点

地域の身近な資源回収を行っている場所の写真を示す等することで、リサイクルが自分たちの生活に根差しており、より身近なこととして捉えることができるようにする。

学習の流れ①②(例)

(1) ごみ処理の移り変わりについて
気づいたことを話し合う。 **5分**

T ごみ処理の仕方が、教科書 P.64 のように、70 年ほど前と同じだと困ることがあるのでしょうか。

C 一度に集めたら処理しきれないのではないでしょうか。

ごみしよりはどのようにうつり変わり、新たにどのような課題が生まれているのでしょうか。

(2) ごみ処理の移り変わりについて調べ、話し合う。 **40分**

T 2011 年は東日本大震災があり、その影響でたくさんのごみが出ました。

C 震災の影響を受けた後も、ごみ減量に向けて、努力してきたから排出量が減ってきたのでしょうか。

C ルールを守って出すことはとても大事だけれど、家庭ごみの中にはまだ資源になるものも含まれていることが分かります。

C 「食品ロス」ということも問題視されていることを知りました。

(3) ごみの処理が抱える新しい問題について調べ、話し合う **35分**

C ごみの処理には費用がかかるし、仙台市のごみを埋め立てる場所が富谷市にしかないということは大きな問題だと思います。

C スマートフォンなど、処理の難しいごみが増えているそうです。また、外国の人にも分かるよう、ごみの出し方を知らせる取り組みもあるそうです。

(4) 本時のまとめをする。 **10分**

C ごみ処理の方法が変化して、今はとても衛生的になりました。ごみ処理の課題は生活と深く関係しています。

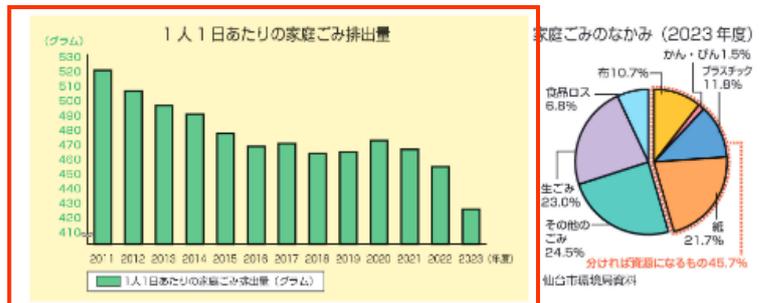
ねらい (4 時間扱い)

①②ごみの処理方法の変化により公衆衛生が改善してきたことやごみ処理にかかる新たな課題について理解する。③学習してきたことを図にまとめることを通して、ごみ処理の事業が生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。④地域社会の一員として、ごみの処理に関して自分たちにできることを考え、ごみの減量や資源の再利用などの取り組みに協力しようとする。

✳教科書活用のポイント✳

教科書 P.64-69 とリンクした内容になっている。教科書では、①ごみ処理の移り変わりと課題について考え、②ごみ処理の流れについて図にまとめ、③自分たちにできることを考え、話し合う、という構成になっている。教科書 P.64 では、昔と今のごみの集め方と処理の仕方を比べることで、衛生的になったことに気づかせる資料があるため、活用したい。また、教科書 P.67 には「まとめるワークシート」が用意されている。ごみ処理や資源化物の流れに沿って図にまとめることで、多くの人の協力によって、今の生活が成り立っていること捉えさせたい。

◎ごみの問題について考えよう



わたしたちが毎日出しているごみの量は、**しほさんたちは上のグラフを見て、仙台市のグラフ「1人1日あたりの家庭ごみ排出量と人口の変化」**のように変わってきたかについて話し合いました。

2000年から始まった「仙台市ごみ減量大作戦」により、**2010年まではごみの量は順調に減ってきた。しかし、東日本大震災で、ごみの量が増加した。**なかみは、紙や生ごみが多いごみの減量を目指すために、**市民一人一す。**人が自分のできることに取り組むことやプラスチックなどの資源物も**が大切であることに気づき、次ページの学習につなげるようにする。**



ワケルくん
仙台市ごみ減量・リサイクル推進キャラクター

燃やされているごみの中には資源物がいっぱい

こんにちは。仙台市のごみ減量・リサイクル推進キャラクターのワケルです。上のグラフでは、私たち一人ひとりが出すごみの量は少しずつ減っています。

それでも家庭ごみの中には、紙やプラスチックなど、分けて出せば資源になるものがまだまだたくさん入っています。また、まだ食べられるのに捨てられている「食品ロス」も多く含まれています。どうしたら、ごみを少なくできるのかを一人ひとりが考えて行動することが大切です。

これが、仙台市のごみを減らすための目標です。

市民1人が1日に出すごみの量

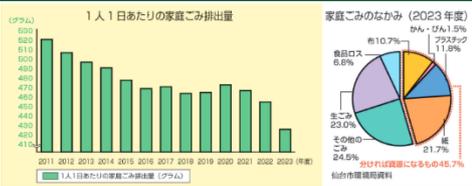
2019年度	463g	→	2030年度	400g
--------	------	---	--------	------

家庭ごみに占める資源物の割合

2019年度	42.5%	→	2030年度	30%
--------	-------	---	--------	-----

めあて

ごみしよりはどのようにうつり変わり、新たにどのような課題が生まれているのでしょうか。



<ごみ処理の課題>

- ・ルールを守らない人が...
- ・新しい処分場は...
- ・処理がむずかしいごみ...

<ごみしよりのうつり変わり>

- ・分別をしたりリサイクルしたりして...

まとめ

現在は衛生的に処理され... 一方で課題としては...
さらにごみを減らすために市では...

資料の活用の仕方

・仙台市ごみ減量リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」

<http://www.gomi100.com/>

・仙台市ホームページ「くらしのガイドーごみの出し方」

<https://www.city.sendai.jp/kurashi/machi/genryo/gomi/index.html>

・見学できるごみ処理施設

今泉工場 (022-289-4671)

葛岡工場 (022-277-5399)

松森工場 (022-373-5399)

葛岡資源化センター

(022-277-8310)

松森資源化センター

(022-374-8853)

5 住みよいくらしをつくる

◎自分たちができることを考えよう

まさきさんたちは、もっとごみを減らすために、自分たちにどんなことができるのかを考えてみました。



「スーパーマーケットのリサイクルボックスを使っているよ。」

「ごみを出すときには自分でも分別をして捨てるようにしよう。」

「買い物をするときはマイバッグを使います。」

「着なくなった服や文房具が...」

「シャープ...」

ごみの量を減らすために、自分たちが協力できることはなにか、考えてみましょう。みなさんの住んでいる地域でしている工夫にはどんなものがあるのか調べてみるといいですね。



いろいろな取り組みをさがしてみよう



「ワケルネット」で「検索」してみよう

ポイント ごみを減らす3つのポイント「3R」

- リデュース (REDUCE) ごみを減らすこと (買い物をするときに店の袋をもらわないなど)
- リユース (REUSE) くりかえし何度も使うこと (シャンプーなど詰めかえができる商品を選び、容器をくり返し使う)
- リサイクル (RECYCLE) 資源にして、ふたたび活用すること (かん、びん、ペットボトル、紙類など)

本時の評価と指導

① 知識・技能

①②ノート等の記述等から「必要な情報を読み取り、ごみの処理について現在にいたるまでに衛生的に処理する仕組みがつくられ、計画的に改善されてきたことやごみ処理にかかる新たな課題について理解しているか」を評価する。

③作成した図等から「衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、それらは地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

④「ごみを減らすために様々な人々が協力していることをふまえ、自分もごみ減量のためにできることを考えようとしているか」を評価する。

② 指導のポイント・留意点

ごみを分別することにより、資源化物が増え、ごみの減量や衛生的な処理につながることに気づかせたい。また、生活スタイルの変化により、新しい課題も起きていることにも気づかせたい。

学習の流れ (例)

(1) 家庭や学校で水を使用する場面を想起し、使われた水のゆくえについて疑問を發表し、学習問題をつくる。

15分

わたしたちが使った水のゆくえについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

C お風呂やトイレ、洗濯などで毎日たくさんの水を使っています。

C 家庭で使われる水はお風呂が一番多いことがグラフから分かります。

C 排水管を通して流れていく水は汚れているけど、どこに流れていくのでしょうか。

(2) 学習問題の予想を立て、話し合う。20分

T みなさんの疑問をまとめて「わたしたちの生活から出るたくさんの下水は、どのようにしよりにされているのでしょうか。」という学習問題ができました。予想を立て、話し合いましょう。

C 下水道というのを聞いたことがあります。マンホールは下水道管につながっています。

C 浄化センターというところにつながっているということが分かりました。薬を使ってきれいにしているのでしょうか。

(3) 学習計画を立てる。10分

T 学習問題を解決するために、何をどのようにして調べたりまとめたりしていきますか。

C 南蒲生浄化センターに行って、汚水を処理するしくみについて調べたり、工場で働く人にインタビューしたりしたいです。

本時のねらい

使われた水のゆくえについて考えることを通して、学習問題をつくり、予想して学習計画を立てる。

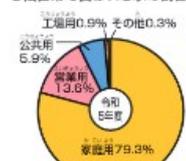
教科書活用のポイント

教科書 P.70 とリンクした内容になっている。学習指導要領解説 P.57「内容の取り扱い」に「ごみ、下水のいずれかを選択して取り上げる」とあるように、事例について選択することとなっている。本書では教科書同様、廃棄物を処理する事業のうち、ごみの処理を取り上げた場合の事例を詳しく挙げているが、下水についても事例として取り上げることができるため、参考にしたい。教科書 P.70 に写真「下水道管の中の様子」「葛西水再生センター」が掲載されているが、仙台市には、「[仙台南蒲生浄化センター](#)」があり、仙台市内の汚水の約 70%をきれいにして海に放流している。見学プランも用意されているため、実態に応じて活用したい。

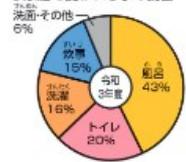
2 選択B

使われた水のゆくえ

●仙台市で使われる水の割合



●家庭で使われる水の割合



東京都水道局HPより
(令和3年度一般家庭水使用月別別実態調査)



家や学校のまわりにあるマンホールは、どんな役があるのだろうか。調べてみましょう。



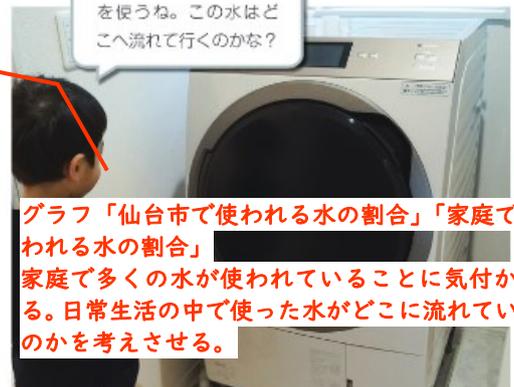
◎使った水はどこへ流れていくのだろう

わたしたちは家庭や学校でたくさんの水を使っています。

「お風呂やトイレ、洗濯などで水を使っているね。」

「わたしたちが使った水はどこに流れていくのかな。」

洗濯ってたくさん水を使うね。この水はどこへ流れて行くのかな?



グラフ「仙台市で使われる水の割合」「家庭で使われる水の割合」
家庭で多くの水が使われていることに気付かせる。日常生活の中で使った水がどこに流れていくのかを考えさせる。

※平成12年度「仙台市下水道基本計画」に基づき下水道の改善が進められている。平成16年度からは、全戸水洗化を進めており、平成25年度末の普及率は99.5%となっている。現在、下水道の処理区域内でも約0.3% (約2,000世帯) が未水洗となっている。(令和4年4月1日時点)
「使った水のゆくえについて、調べる前に予想をしてみよう。」

学習問題

わたしたちの生活から出るたくさんの下水は、どのように処理されているのでしょうか。

めあて

わたしたちが使った水のゆくえについて話し合い、学習問題をつくりましょう。

<使った水はどこへ行くのだろうか>

- ・下水管を通して…

学習問題

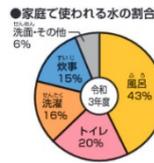
わたしたちの生活から出るたくさんの下水は、どのようにしよりにされているのでしょうか。

<予想>

- ・浄化センターで…
- ・薬を使って…?

<学習計画>

- ・南蒲生浄化センターへ見学に…
- ・工場で働く人に…



資料の活用の仕方

・グラフ「仙台市で使われる水の割合」「家庭で使われる水の割合」

家庭で多くの水が使われていることに気づかせる。日常生活の中で使った水がどこに流れていくのかを考えさせる。

・写真「洗濯の様子」

児童にとって身近な場面として例示している。このほかにもたくさん考えられるので、児童が話し合うきっかけとして活用する。

・写真「汚水マンホールのふた」

たくさんの汚水が地上にあふれることなく流れていく理由を考える。写真のような大きなポンプ場のほかに、マンホールポンプ場という小さなものが多数ある。

5 住みよいくらしをつくる

◎下水道の仕組みを調べてみよう

わたしたちが学校や家庭で使った水は、下水道管に流れていきます。



「マンホールは下水道管につながっているんだね。」



「下水道管には汚水管、雨水管の二つがあるんだね。」



「わたしたちが生活で使った水は、汚水管に流れているそうだよ。」

汚水管は、浄化センターへ、雨水管は川や海へつながっています。

集められた汚水は、下水道管を通して浄化センターへと送られます。

浄化センターを見学する計画をたててみましょう。



汚水マンホールのふた



雨水マンホールのふた



※仙台市の下水道は、藩政時代、城下町の中を巡らせた「四谷用水」に始まる。近代的下水道は、明治32年、ヨーロッパの下水道施設に学び建設が始まった。東京・大阪に次いで全国3番目。しかし、当時はまだ、広瀬川・梅田川に直接流こからしていたため、水質汚濁が進んだ出されます。(郡山ポンプ場/太白区)

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

ノート等の記述や発言内容から、「使われた水のゆくえについて疑問をもち、問いを見いだしているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

「南蒲生浄化センターパンフレット」には、南蒲生浄化センターの施設概要の詳細だけでなく、微生物のはたらきによって水がきれいになっていく様子なども掲載されている。見学前後に有効に活用することで、児童の関心を高めるようにしたい。



↓ 学習の流れ (例)

(1) 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 **5分**

T 使われた水はどこへ運ばれてどうなるのでしょうか。

C 浄化センターできれいにしているのだと思います。

使われた水はどのようにしゅりされるのでしょうか。

(2) 浄化センターで見学してくることを見学のしおりやノート等に整理する。 **15分**

(3) 浄化センターを見学してわかったことを整理する。 **55分**

T 見学をしてどのようなことが分かりましたか。

C 微生物の力を借りて、水をきれいにしていることがわかりました。

C 地下鉄東西線が入るくらいの下水道があることがわかりました。

C 仙台市の下水道管を1本につなげると約5000kmもあるそうです。

T 見学をして、新たに疑問に思ったことはありますか。

C 下水道管が壊れてしまったら、どうやって直すのでしょうか。

(4) 学習したことを踏まえて、自分たちにできることについて考える。 **15分**

C 下水が浄化センターに着いてからきれいになるまでには長い時間がかかるため、一度に多くの汚れた水を出さないように気をつけたいです。

C 下水道管が詰まってしまうと、汚水が流れなくなってしまう、まちの衛生環境を保てなくなるので、台所から生ごみや油を直接流さないようにします。

本時のねらい(2時間扱い)

下水の処理や再利用の仕組みについて、資料から調べ、仙台市では下水を安全かつ衛生的に処理したり再利用したりして、地域の人々の生活の環境の維持と向上に役立てていることを理解する。

✿教科書活用のポイント✿

教科書P.71とリンクした内容になっている。「東京都下水道局の北村さんの話」では、大量の使用された水を24時間365日交代で働きながら、休みなくセンターを動かして汚れた水をきれいにし、川や海が汚れないようにしていることについて伝えている。仙台市では、本書P.83に掲載のとおり、「くらしと下水道」というパンフレットが毎年4学年児童に配付され、下水道のはたらきについて詳しく学ぶことができる。仙台市HP内の「[下水道ポータルページ](#)」も参照し、児童の関心を高めながら学習を進めていけるよう効果的に各種資料を活用したい。

◎じょう化センターの仕組み

わたしたちは広瀬川じょう化センターを見学に来ました。

「水をきれいにするための設備がたくさんあるね。」

「生物処理槽で水がきれいになるのは、微生物の働きのためなんだ。」

「自然の力を上手に利用しているんだね。」

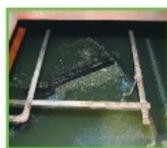
どのようにして汚水をきれいにしているのかな？



広瀬川じょう化センター



処理場ごとに水をきれいにする仕組みは少しずつがうそうです。



最初沈でん池



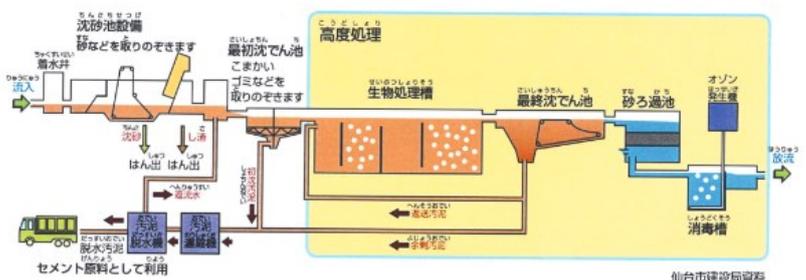
生物処理槽



最終沈でん池



放流口(川へ流されます)

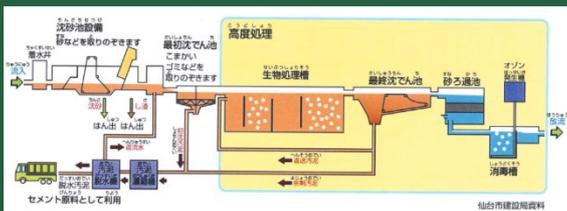


めあて

使われた水はどのようにしよりにされるのでしょうか。

<しよりの仕組み>

・微生物の力で…



<働く人の努力や工夫>

・24時間体制で…

<わたしたちにできること>

・汚れた水を…

まとめ

汚れた水は微生物に力で… まちのえいせいを…

排水する川や海を守りながら…

資料の活用の仕方

・写真「浄化センターの様子」

浄化する工程のうち、代表的な工程を示してある。施設全体の写真と、下の絵図を照らし合わせながら仕組みについて考えるとよい。

・広瀬川浄化センター

(〒青葉区折立 3-20-2)

仙台市では広瀬川の環境を守るために、「広瀬川の清流を守る条例」により汚染された排水の広瀬川への放流を禁止している。広瀬川浄化センターは、条例を守る性能を備えて、平成5年に供用を開始した。

5 住みよいくらしをつくる

じょう化センターの人の話

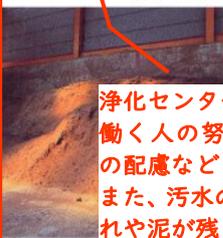
広瀬川じょう化センターは、4万人の汚水をきれいにしています。
じょう化センターは、広瀬川の水源を守るために高度な処理法を取り入れています。環境を守るために毎日がんばっています。



小学校4年生に配布される冊子



きれいにした水の品質検査も行われています。



浄化センターの人の話
働く人の努力や環境への配慮などをとらえる。また、汚水の処理後、汚れや泥が残ることから、それらも埋め立てる必要があることを理解する。

フレットに書いてあるホームページから検索してみよう。



「写真「水質検査」は、川に放流する前には、水質検査を行い、環境への配慮をしてね。」



「住んでいることをしっかりと捉えさせる。守るために大きな役割をはたしているんだね。」



「油や野菜くずは、下水道管が詰まる原因になるそうだよ。」



「家では、キッチンの排水口で水切りごみ袋を使って、野菜くずが流れていかないように気をつけているよ。」



水をよこさないために、これから自分は何ができるのかを書いてみましょう。



本時の評価と指導

① 知識・技能

発言内容やノート等の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、仙台市では下水を安全かつ衛生的に処理したり、再利用したりして地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

② 指導のポイント・留意点

各種資料を関連付けて調べることが難しい児童に対しては、下水の処理の流れを図に矢印を書き込むなどして、その仕組みの概要を捉えられるようにする。

パンフレット「くらしと下水道」はデジタルでも閲覧できる。

<p>小単元名 p. 84～91</p>	<p>自然災害からくらしを守る ～地震からくらしを守る～</p>	<p>小単元の 目標</p>	<p>自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解できるようにするとともに主体的に学習問題を解決しようとし、日頃から必要な備えをするなど、自分たちでできることを考えようとする。</p>
--------------------------	--------------------------------------	--------------------	--

つ
か
む

p. 84、85

◎ 仙台市で今までに起きた自然災害 ◎ 東日本大震災の発生

◎ 地震とわたしたちのくらし

- ・写真や新聞記事を活用し、過去に市内で発生した地震や大雨の恐ろしさに目を向け、小単元の学習への関心を高める。
- ・東日本大震災によってどんな被害を受けたか、人々の生活にどんな影響があったかなどを、話し合う方法も考えられるが、現在も心のケアが必要な児童がいることを考え、十分に配慮して授業を行う。

仙台市内では、今までにも大きな地震や大雨で大きな被害を受けたんだね。

地震や津波に備えてどんな準備をすればいいのかな？

学習問題

地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

調
べ
る

p. 87

◎ 家庭や学校・通学路でそなえていること

非常持ち出し袋や家具の転倒防止のためのつっぱり棒など、家庭で備えていることを調べる。また、防災備蓄倉庫を見学し、学校が避難所になった場合を考えて、準備していることを捉える。

p. 88

◎ 仙台市の取り組み

仙台市では東日本大震災を受けて、津波への対策を進めている。いくつかの対策を組み合わせる多重防御を行っている理由を考えると、安全にくらせるまちづくりを進めていることを理解する。

p. 89

◎ 関係の協力、救助・救援活動

仙台市役所を中心とした地震や津波が起きた時の連絡の仕組みを図にまとめている。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉える。

地震の発生後には、自衛隊員や消防署員、水道局・ガス局の人など、たくさんの人たちが救助や救援、復旧工事に取り組んだことを理解する。

p. 90

◎ 地域の協力の様子について調べよう

連合町内会長さんの話を読み、地域での活動の様子を読み取る。また、東日本大震災の際には日本各地、世界各地から救援の手が差し伸べられたことを理解する。

p. 91

◎ トピックス
「むかしからの言い伝え」
地域にある災害の歴史を知る。

※仙台市役所のホームページ→市政情報→ともに、前へ→全国の皆様→フォトアーカイブのページに東日本大震災関連の写真が保存されている。復興の様子についての写真もあるので、ぜひ活用したい。

ま
と
め

p. 91

◎ 地震の被害を少なくするために、どんなことができるだろう

各校にある防災備蓄倉庫や地域ごとの防災訓練を想起させ、自分たちでできることを話し合う。

学習の流れ (例)

(1) 県副読本「わたしたちの宮城県」
P.7を見て、地形を確かめ、気づいた
ことを話し合う **10分**

T 宮城県はどのような地形の特徴がある
県ですか。

C 三陸海岸は複雑な形をしています。

C 仙台湾は太平洋に面しています。

私たちが住んでいる市・県では、これ
までにどのような自然災害が起きて
きたのでしょうか。

(2) 市内・県内各地の自然災害の写
真や年表を見て、気づいたことや考え
たことを話し合う。 **25分**

T 仙台市・宮城県ではどのような自然
災害が起きたのでしょうか。年表から
どんなことがわかりますか。

C 昔から地震の被害があり、繰り返し
起きていることがわかります。

C 地震だけでなく、洪水の被害もあつ
たようです。

T 写真資料や新聞記事からはどんなこ
とができますか。また、そこからど
んなことを考えましたか。

C 緑色っぽい服で、ヘルメットをかぶ
っている人たちは行方不明者を探し
ています。自衛隊の人じゃないかな。

(県副読本 P.8)

C こんなに大量のがれきをどうやっ
て片づけるのでしょうか。

C たくさんの大切な命が失われてし
まった東日本大震災は地震だけでな
く、津波による被害も大きかったこ
とができます。どうやって避難したの
でしょうか。

(3) まとめ・振り返り **10分**

T 今日の学習を振り返り、単元のめあ
てについて考えましょう。

本時のねらい

仙台市だけでなく、宮城県で起こった様々な自然災害や風水害に
ついて関心を持ち、学習の見通しを持つ。

教科書、県副読本「わたしたちの宮城県」と合わせた活用のポイント

教科書 P.72-73、県副読本 P.7-8 とリンクした内容になっている。
第4学年では、自分たちの「県」について学んでいく。本市
は仙台市に焦点を当てた内容であるため、県副読本をベースにし
ながら、比較する際の資料として活用していく。指導要領解説社
会編 P.60「過去に県内で発生したものを選択して取り上げるこ
と」とあり、本書では、地震、津波、風水害と関連する災害を複
数取り上げることができ、歴史的な大災害であった「東日本大震
災」を事例として取り上げている。

6 自然災害からくらしを守る

1 市内で 今までに起きた 自然災害

●仙台市の災害年表

年	できごと
1933	昭和三陸地震
1936	大地震(宮城県沖)
1947	カスリン台風
1948	アイオン台風
1950	台風による大洪水
1978	宮城県沖地震
1986	台風10号による大雨 (8.5豪雨)
2003	大地震(宮城県沖)
2005	大地震(宮城県沖)
2011	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)
2015	関東・東北豪雨
2019	令和元年東日本台風

写真 消防教育副読本より一部抜粋

1978年の宮城県沖地震や
2019年の土砂災害等を写真
で掲載した。仙台市は東日本
大震災以外にも、度々大きな
災害に見舞われていることを
確認する。

◎仙台市で今までに起きた自然災害

仙台市では、今までどのような自然
災害におそわれてきたのでしょうか。

「大きな地震が何回も起きている
んだね。」

「地震だけでなく、大雨による災害
も起きているんだね。」

「1978(昭和53)年の宮城県沖地震
では、建物がつぶれたり、ブロック塀
が倒れたりして仙台市内で16人の人
が亡くなったそうだよ。」

「2019(令和元)年の台風19号では、
がけくずれや洪水などの大きな被害が
出たそうです。」



1978(昭和53)年、宮城県沖地震でく
づれたブロック塀(仙台市)



宮城県沖地震におけ
るガスの復旧工事の
記事(市政だより)



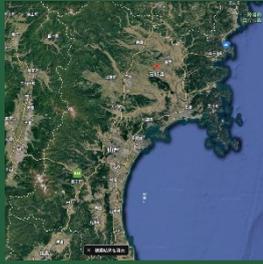
(昭和61)年、8.5豪雨災害による
洪水(宮城県宮城県提供)



2019(令和元)年、東日本台風による土
砂くずれ(青葉区 仙台市提供)

めあて

私たちが住んでいる市・県では、これまでにどのような自然災害が起きてきたのでしょうか。



自然災害の様子が
分かる写真

災害年表
(市・県)

単元のめあて

自然災害から人々を守る活動について調べてみましょう。

6 自然災害からくらしを守る

◎東日本大震災の発生

2011(平成23)年3月11日(金)午後2時46分、わたしたちのすむまちを、巨大地震が襲いました。今まで誰も経験したことのない強い揺れは、みんなとても恐ろしい思いをしました。

仙台市の震度は、最大で震度6強(宮城野区)でした。そればかりではなく、大きな津波が発生し、海岸から5km以上の内陸まで押しよせ、被害を大きくしてしまいました。

巨大地震(東北地方太平洋沖地震)の概況

- 発生日時 平成23年3月11日 14:46
- 震央地名 三陸沖
- 規模 マグニチュード 9.0(暫定値)の建物にも大きな被害が山寄せした。
- 市内震度
 - 震度6強(宮城野区)
 - 震度6弱(青葉区、若林区、泉区)
 - 震度5強(太白区)
- 津波

太平洋岸に大津波警報発令
津波の高さ7.1m(推定)
※詳細は仙台市発表資料を参照

仙台市では、過去に何度も大きな地震や洪水などの災害が起き、被害が出ました。
『仙台版防災教育副読本』の自然災害年表でもっと詳しく調べてみましょう。



東日本大震災では、特に大きな被害が出たんだね。そのときの様子を詳しく調べてみたいな。



宮城野区で津波に流された車。後の仙台港ではコンテナが燃えています。(2011年3月撮影、河北新報社写真提供)



津波によって、家を流されたり、田畑が使えなくなったりしてしまっただけではありません。(若林区)



市内西部の団地では、地割れや屋根の被害もありました。(青葉区)(2011年4月撮影、河北新報社写真提供)



資料の活用の仕方

・年表「仙台市の災害年表」

→これからも災害が起こる可能性があることを捉え、災害への備えがどのように行われているかについて関心を高める。身近に起きた地震を想起させ、被害の状況などを確認する。

写真「市内西部の団地」(青葉区)
→丘陵地域の宅地で、崩落・地滑り等が発生した。※昭和30年代後半～40年代に造成

・新聞「震災1ヵ月死者1万3013人」新聞社では災害時などを想定し、緊急時新聞相互支援協定を締結している。河北新報社も震災当日、紙面制作システムが動かさないう事態となり、新潟日報社に号外と翌日の朝刊の紙面制作を依頼し、新聞の発行を続けた。

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

ノート等の記述内容や発言内容から、「県内で過去に起こった様々な自然災害を概観し、自然災害から人々を守る活動について関心を高めているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

県内の様々な自然災害について箇条書きで列記させた上で、誰がどのような被害を受けたのか、それを誰がどのように復旧したのかについて考えさせる。災害からくらしを守るための備えと対処をしている人に着目させたい。

なお、現在も心のケアが必要な児童・保護者がいることを考慮し、十分に配慮して授業を行う。

学習の流れ① (例)

(1) 市内で起きた地震災害、津波災害の写真から、災害が自分たちのくらしに与える影響について話し合う。**10分**

T 写真を見て、災害が私たちのくらしにどのような影響を与えるか考えましょう。

C 仙台駅は毎日多くの新幹線が走り、県外へ移動する人もたくさんいるので、これだけ壊れたら仕事ができない人がたくさんいると思います。

地震、津波災害からくらしを守る人々の働きについて考え、学習問題をつくりましょう。

(2) 教科書の救助活動の写真や会議の写真、市役所の人のお話等から、気づいたことについて話し合い、学習問題をつくる。**25分**

T 教科書の資料や県副読本の資料から気づいたことを話し合いましょう。

C 消防や警察、自衛隊が協力して救助しています。

C 災害対策のための会議が市役所で開かれています。

C それぞれの機関は協力し合っているようです。

学習問題：地震からわたしたちのくらしを守るために、誰がどのようなことをしているのでしょうか。

(3) 地震、津波災害への備えと対処を誰がどのようにしているのか予想し、学習計画を立てる。**10分**

T 学習問題を解決するために、どんなことを調べていく必要がありますか。

C まずは、自分の家でどんな備えをしているか、学校や家庭でどんな備えをしているか調べていきたいです。

ねらい (2時間を想定)

①自然災害からくらしを守る人々の働きについて調べて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。②家庭や学校では災害に備えてどのような取組をしているのか、自助の現状から問題意識をもつ。

★教科書、県副読本「わたしたちの宮城県」と合わせた活用のポイント★

教科書 P.74-75、P.84-85、県副読本 P.7-9 とリンクした内容になっている。教科書では「風水害」を取り上げているが、救助活動や復旧を行っている人に着目し、具体的にどのような人々がどのように災害に対処したかという問いを見いだす流れは同じである。また、教科書では学習問題設定後に、①過去に国や県、市、人々がそれぞれどの立場でどのように対処したか②今の県の備え(公助)③今の市の備え(公助)④地域の備え(共助)⑤家庭での備え(自助)という流れになっているが、本書では、自助から考えていく構成になっている。学校や児童の実態に応じて単元をデザインしていきたい。

2

地震からくらしを守る

大きな地震が起きると、わたしたちのくらしはどうなるのでしょうか。



3人のキャラクターの吹き出し学習問題「だれがどのようなことを」に対応した言葉。調べ学習の手掛かりとして活用する。

◎地震とわたしたちのくらし



天井が落ちた仙台駅新幹線ホーム(2011年3月撮影)



校舎の一部が壊れたため、体育館で学習していた小学校。その後、工事が終わるまでは、プレハブの校舎で過ごした。(2011年5月撮影)



橋次地区(石林区)(2011年3月撮影)



津波の直撃を受けた南郷生じょう化センター(2011年3月撮影)



「仙台駅の天井が落ちているね。新幹線は、しばらく走れなかったんだって。」



「津波の被害で、がれきがいっぱいだね。家がなくなった人も多くいたそうだよ。」



「学校の校舎がこわれて、体育館で勉強したところもあったそうだよ。」



地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

家庭や学校、通学路では?



消防や警察の人が何かしているのかな?



市役所や県、国では?



めあて

- ① 地震災害、津波災害からくらしを守る人々の働きについて考え、学習問題をつくろう。
- ② 家庭や学校では災害に備えてどのような取組をしているのか。(次時)

市内で起きた最大の様子が分かる写真

救助活動の写真

会議をしている写真

<資料から気づいたこと>

学習問題

地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

資料の活用の仕方

・写真「地震とわたしたちのくらし」

被害の大きさを知るとともに、災害が自分たちのくらしに大きな影響を与えたことを理解する。ここでは学習問題を立てる場面であることから、教科書の資料、県副読本「わたしたちの宮城県」の資料も活用し、「自分たちがどう備えているか」だけでなく、県や市、地域がどう備えているか、さらには県や市がどう対処しているかという点にも問いを持たせるようにしたい。

・写真「家庭や学校・通学路でそなえていること」

[リンク 仙台版防災教育副読本](#) (P.40～) も積極的に活用する。

6 自然災害からくらしを守る

◎家庭や学校・通学路でそなえていること



非常用持ち出し袋



家具転倒防止の棒

「非常用持ち出し袋って聞いたことがあるけれど、何を入れるといいのかな。」

「どんなものを入れておいたらいいかな。」

「家具が倒れないようにしたい。」

「ほかにはどんなことをおうちで調べてみよう。」

防災副読本「3.11から未来へ」
この单元では、**防災副読本を活用し、この他の取組についても調べることができる。**

学校や家庭でそなえていることを調べましょう。



非常用持ち出し袋については「仙台版防災教育副読本」を見てみましょう。



災害時給水栓



避難場所をしめすひょうしき



防災倉庫

「このひょうしき、学校に来るとちゅうの公園で見たことがあるよ。」

「災害があったときに公園に避難するためなんじゃないかな。」

「公園の中には、防災副読本や、避難してきた人のためのパンフレットが入っている。」

「学校にも同じようなものがあるよ。」

学校などに設置されている災害時給水栓を見てみよう。自分たちで給水ができるように確認しよう。



評価と指導

◎主体的に学習に取り組む態度◎

発言内容や白地図の記述内容から①「地震、津波被害からくらしを守る人々の働きに着目して、問いを見いだしているか」②「自助の取組の現状から課題に気づき、学習の見直しをもっているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

地震の影響で、校舎が使えず、当たり前のように教室で学習をすることさえできなかった状況を知り、自然災害の問題を自分事として捉えさせたい。

自助の取組を確認する際に、不十分なことに気づいた際には、単に批判するのではなく、これからどうすべきか、自分たちに何ができるか前向きな視点で話し合えるようにする。

↓ 学習の流れ

(1) 宮城県と仙台市の取り組みに違いがあるか予想し、話し合う。 **5分**

T 前の時間には県の取り組みを調べましたが、市の取り組みとは違いがあるのでしょうか。

C 仙台市は市民のために食料などを備蓄していると思います。

C 市内にある避難施設は仙台市が整備しているのだと思います。

仙台市では、地震災害、津波災害にそなえて、どのような取組をしているのでしょうか。

(2) 仙台市の取り組みを調べ、分かったことを話し合う。 **25分**

T 仙台市の取り組みについて、副読本や(リンク)「防災環境都市仙台」のWeb ページから分かったことを伝え合いましょう。

C 津波に対する避難施設がたくさん作られています。

C 仙台市役所は宮城県庁だけでなく、様々な機関と連携して災害にすぐに対応できるように準備をしています。

C なんだか、3年生の時に学習した「くらしを守る」に似ていますね。

T なぜ、連携することが必要なのでしょうか。

C それぞれの機関にできることが限られているからではないでしょうか。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 仙台市では防災計画をつくり、災害が起きる前に、どのように行動、連携すればよいかを示して準備している。

T 避難施設はたくさんあります。運営は市だけでできるのでしょうか。

C 市だけでなく地域の人も協力していると思います。

本時のねらい

仙台市では、地震災害、津波災害から市民を守るためにどのような取組をしているのか調べて話し合い、理解する。

✳️教科書、県副読本「わたしたちの宮城県」と合わせた活用のポイント✳️

教科書 P.80-81、県副読本 P.10 とリンクした内容になっている。教科書 P.80 の「市役所の久保さんの話」と県副読本「県庁の方の話」、さらには本書 P.89 の「市役所の人のお話」、に共通する、「備えのための防災計画」「対処のための各機関との連携」→公助についてしっかりと読み取らせたい。また、本書 P.88 で取り上げている地図は震災遺構仙台市立荒浜小学校がある場所である。2011年3月11日に発生した東日本大震災において、校舎2階まで津波が押し寄せ、大きな被害を受けた。震災当日、児童や教職員、住民ら 320 人が避難したその校舎を震災遺構として公開し、東日本大震災の教訓と地域の記憶を、後世へ伝えている意味についても触れたい。

仙台市では、どのような取組をしているか調べてみましょう。



海岸堤防(若林区)(2021年9月撮影)



かさ上げ道路(宮城區)(2021年9月撮影)



避難の丘(若林区)



津波避難施設(宮城區)



◎仙台市の取り組み



「東日本大震災では、津波で大きな被害が出たので、津波に対していろいろな取組をしているそうです。」



「海岸堤防は、津波の力を弱めるためにつくったそうだよ。」



「津波が海岸堤防を越えても、かさ上げ道路が堤防のような役割をして、人が住んでいるところには、大きな被害が出ないようにしているそうです。」



「避難の丘や津波避難施設があることで、多くの人が安全に避難できようになっています。」



東日本大震災以降の津波対策の概要がまとめてある。



「津波避難は、海に近いところに28か所あるそうです。」



地震の後の津波にそなえて、いろいろな施設をつくっているんだね。



津波の被害を防ぐための施設の場所

めあて

仙台市では、地震災害、津波災害にそなえて、どのような取組をしているのでしょうか。

<仙台市の取組>

- ◎県と共通のこと
- 県と違うこと



まとめ

仙台市では地域防災計画をつくり・・・
関係機関と協力して・・・

資料の活用の仕方

・写真「仙台市の取組み」

東日本大震災以降の津波対策の概要がまとめてある。図や写真を読み取ることで多重防御と呼ばれる取組を行っている理由を考え、津波の被害を少なくするための工夫について理解する。

(リンク) [震災遺構仙台市立荒浜小学校](#)の資料も効果的に活用したい。

・写真「復旧、救援活動」

震災時には、多くの関係機関から救助の手が差し伸べられた。仙台市の災害対策本部からの連絡などがあり、これらの機関が協力して取り組んでいることを理解する。

・図「関係機関の協力」

仙台市（市役所）を中心とした取組を調べる。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを理解する。

6 自然災害からくらしを守る

◎関係機関の協力

大きな地震が起きたときにすぐに対応できるように、宮城県や仙台市では、いろいろな準備をしていました。



市役所の人の話

県庁や市役所では、災害が起こる前に救助の方法や避難計画、避難所運営の仕方など、いろいろな計画をまとめた防災計画をつくっています。

大きな地震が起きた後に、中心となって活動しているのが、県庁や市役所です。県庁や市役所に警察や消防、市民からの情報が集められ、図にあるような関係機関と連絡を取り合い、力を合わせて、助けが必要な人々のために活動しています。時には、国の機関である自衛隊や海上保安庁にも協力を頼み、一人でも多くの命を救えるようにしています。

仙台市では、どんな活動をしているのかな？



本時の評価と指導

🎧 知識・技能 🎧

ノート等の記述内容や発言内容から、「市が風水害に備えて計画的に取り組んでいることや関係機関と協力していること、市民の防災意識をさらに高めるための取り組みをしていることについて理解しているか」を評価する。

🎧 指導のポイント・留意点 🎧

市の取組についてだけでなく、県の取組との共通点や相違点について考えさせるなどの手立てが考えられる。

学習の流れ① (例)

(1) 地域の人々の取り組みについて
予想する **5分**

T 前時では、市の取り組みを調べました。地域の人々はどのような取り組みをしているのでしょうか。

C 市が避難所を開くときに協力していると思います。

C 地域の防災訓練では町内会の人々が中心になっていたと思います。

地域の人々は、災害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

(2) 連合町内会長さんのお話や写真資料等から避難所の運営について調べ、地域の人々の取り組みについて話し合う。 **30分**

T 避難所のリーダーとして連合町内会長さんはどんな役割をしていましたか。

C 発電機を計画的に購入したり、防災訓練を行ったりしていました。

C 備えていたおかげで、大きな地震の時にすぐに避難所を開設したり、炊き出しもスムーズにできたりしました。T どうして地域の役員ではない人もみんな協力できたのでしょうか。

C 公助だけでは足りないからだと思います。

C 自分たちのまちを大切に思っているからだと思います。

(3) 本時のまとめをする。 **10分**

C 市と協力して避難所運営をしているということが分かりました。

C 食料や生活用品、発電機などの避難所運営に必要なものを備蓄して、地域で助け合っているということが分かりました。

ねらい (2時間扱い)

①地域の人々は、災害に備えてどのような取組をしているのか調べて話し合い、理解する。②地域の関係諸機関や人々が災害に対する様々な備えと対処をしてきたことを理解し、災害からくらしを守るために自分たちにできることについて考える。

★教科書、県副読本「わたしたちの宮城県」と合わせた活用のポイント★

教科書 P.82-83、86-89、県副読本 P.11-12 とリンクした内容になっている。教科書 P.83 の「ひなん所運えい委員会の三村さんの話」と県副読本「地いきに住む方の話」、さらには本書 P.90 の「連合町内会長さんの話」、に共通する共助についてしっかりと読み取らせたい。市と協力して地域防災訓練を通して情報発信をしたり、食料の備蓄をしたりしている意味について考えさせたい。また教科書 P.87 には自助・共助・公助がそれぞれ関わり合っていることを示す図がある。これまで学習してきたことをこれら三つの役割に整理しながら、学んできたことを基に、私たちに何ができるかについて考えさせたい。

◎地域の協力の様子について調べよう

災害が起きたとき、大きな力となるのは、わたしたちがくらししている地域の人たちの協力です。今回、避難所のリーダーとなった連合町内会長さんにお話を聞きました。



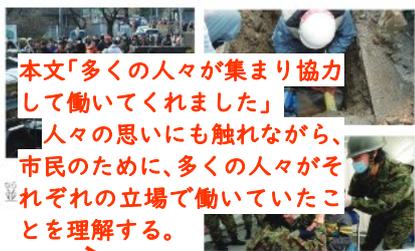
連合町内会長さんの話

災害が起きたときに備えて、発電機などを計画的に購入したり、防災訓練を行ったりしていました。また、避難所となる学校とは定期的に連絡を取り合い、万が一の時の心構えをしてきました。

3月11日の地震が起きたとき、わたしたちは真っ先に一人暮らしのお年寄りの家を訪問しました。そのあと学校に駆けつけ、避難所を開設しました。普段の訓練の成果で、明かりの準備や炊き出しなどもスムーズにできました。避難所には、先生方だけでなく、区役所の職員の方も来ていただき、仙台市との連絡をしてもらいました。地域の役員ではないのに、炊き出しを手伝ってくれる方がいたり、荷物運びを手伝ってくれる中学生や小学生がいたり、地域のみんなで協力できたことがとても良かったと思います。

みなさんの地域でも、防災訓練が行われているはずですよ。ぜひ、参加してみましょう。

災害時に備え、町内会では防災組織を作り、物資の備蓄や訓練などを行っていることを理解する。また、災害発生時には地域の協力が不可欠であることに気づき、自分たちにもできる活動はないか考える。



本文「多くの人々が集まり協力して働いてくれました」
人々の思いにも触れながら、市民のために、多くの人々がそれぞれの立場で働いていたことを理解する。

ガスの曜日作業を行いました。

テントを立てて、臨時の病院をつくりました(宮城野区)。

電気・ガス・水道が全て止まり、不自由な生活が続きました。仙台市や宮城県の機関だけでなく、日本全国、また世界中の多くの国からわたしたちの生活を助けてくれるために、多くの人々が集まり協力して働いてくれました。みなさんの協力のおかげで、少しずついつもの生活に戻ることができました。

めあて

地域の人々は、災害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

連合町内会長さんの話
 災害が起きたときに備えて、非常食などを計画的に購入したり、防災訓練を行ったりしていました。また、避難所となる学校とは定期的に連絡を取り合い、万が一の時の心算をしておきました。
 3月11日の地震が起きたとき、わたしたちは真っ先に一人暮らしのお年寄りの家を訪問しました。そのあと学校に駆けつけ、避難所を開設しました。直後の訓練の成果で、明かりの準備や炊き出しなどもスムーズにできました。避難所には、先生方だけでなく、区役所の職員の方も来ていただき、組合の手助けしてもらいました。情報の発信はいいのに、炊き出しを手伝ってくれる方がいたり、避難所を手伝ってくれる中学生や小学生がいたり、地域のみならず協力できたことがとても良かったと思います。



<地域の取り組み>

まとめ

市と協力して・・・ 地域の人へ情報を発信して・・・
食料や生活用品等を備蓄して・・・ 地域で助け合いながら・・・

6 自然災害からくらしを守る

◎地震の被害を少なくするために、どんなことができるだろう

仙台市では、東日本大震災での経験を生かして、地震などの災害が起きたときのために、「仙台市地域防災計画」を改定しました。防災計画には、市民がどのように避難するかや、災害に備えた日ごろからの取り組みなどが定められています。

学校には、食料や毛布などを保管している部屋や倉庫があります。また、地域ごとの防災訓練も行われています。

わたしたちの地域では、大人と一緒に、小中学生も防災訓練に参加しています。自分たちができることを話し合ってみよう。



トピックス

むかしからの言い伝え

地域には、歴史を今に伝えるものが残されています。

浪分神社は慶長三陸津波(1611年)の時、この地域に押し寄せた大津波が2つに分かれた場所に建てられたと言われています。神社は海岸から約5.5km離れています。津波は仙台東部道路がせき止めたので、神社の手前約2kmで止まりました。

蛸薬師には、洪水(津波)のあとに蛸に吸い付かれた薬師像が流れ着いたのを見つけ、堂を建ててまつたという言い伝えがあります。

昔の人たちも津波のことを伝えてくれていたようですね。



自分たちの住む地域のハザードマップを確認し、自分事として捉えさせたい。



仙台市役所のホームページには、「ハザードマップ」という、どこでどのような被害が発生するかを予想している地図があります。「仙台市ハザードマップ」で検索してみてください。

資料の活用の仕方

・写真「関係諸機関の働き」

給水車の出動、自衛隊による病院の開設、ガスの復旧工事など、震災後の様子を振り返る際の参考にします。

・本文「仙台市地域防災計画」

仙台市では、東日本大震災での経験を生かし、災害のために仙台市地域防災計画を改定した。繰り返される災害への対策をしていることを理解する。

・県副読本 P.12 右下二次元バーコード「調べてみよう 仙台市防災減サイドバイザー室」

仙台市防災・減災アドバイザーが家庭や地域でできる取り組みを楽しく、親しみやすく紹介している。必要に応じて活用したい。

本時の評価と指導

◎知識・技能◎

ノート等の記述や発言内容から、「地域の人々が風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練などの取り組みを進めていることや、食料や生活用品などを備蓄していること、地域の人が災害に備えられるように情報発信をしていることなどについて理解しているか」を評価する。

◎指導のポイント・留意点◎

自分たちで地域を守る共助と、前時で学んだ公助とのかかわりについても考えさせることで、それぞれに役割があるとともに、どちらも自助を引き出す支援になっていることに気づかせたい。

p. 92、93	大単元名	3年 わたしのまちみんなのまち	小単元名	市の様子
----------	------	-----------------	------	------

【指導に当たって】

仙台市内の主な公共施設について取り上げており、知っている施設を確認することや施設の紹介など校外学習の事前指導の資料としても活用できる。

八木山動物公園フジサキの杜
1936年に日本で11番目の動物園として仙台市花壇に開園した。1965年に現在の八木山に新築移転した。

弘進ゴムアスリートパーク仙台（仙台市陸上競技場）
2009年に宮城県から仙台市に譲渡される。2011年にはトラックの大規模修理が行われた。

仙台市天文台
1955年に西公園内の仙台市公会堂跡地に開台。2008年に現在の青葉区錦ヶ丘に移転した。

せんだいメディアテーク
2001年に開館。仙台市民図書館、ギャラリー、イベントスペース、ミニシアターなどからなる。全面ガラス張りの建築は建築家伊藤豊雄の代表作と言われる。写真右は併設されている仙台市民図書館

スリーエム仙台市科学館
昭和43年に仙台市中心部に開館。平成2年に現在の台原森林



仙台文学館
郷土ゆかりの文学に関する資料を収集保存するとともに、地域の文学活動の拠点となることをコンセプトに平成11年に開館

震災遺構仙台市立荒浜小学校
被災した校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示により、津波の威力や脅威を実感してもらうことを目的として、平成29年4月に公開が始まった。

仙台うみの杜水族館
「復興を象徴する水族館」として、2015年に開館。80年の歴史を閉じたマリンピア松島水族館の一部を引き継ぎ、さらにスケールの大きな展示やイベント等を展開する。

p. 94、95	大単元名	5年 わたしたちの生活と工業生産	小単元名	くらしを支える工業生産
----------	------	------------------	------	-------------

【指導に当たって】

地域の工場を取り上げる場合、工場見学を学習計画に取り入れることが考えられる。また、工業製品と自分たちの暮らしの結びつきにも気付かせたい。

仙台味噌
仙台藩では、城下に御塩噌蔵（おえんそぐら）を作らせ、ここで味噌の醸造や貯蔵をさせた。また、江戸にあった仙台藩の屋敷では、江戸にいる藩士のために味噌を作っていた。これを近所の住人の求めに応じて分け与えたところ、江戸中の評判になったという。

「輪転機」
最大40ページ、24個面カラー印刷が可能な高速タワー型オフセット輪転機（17万部/時）を4セット備えている。

おけがえ
「桶替え」と書き、樽に入っている味噌をスコップですくい、別の樽へと味噌を移す作業のこと。多くの空気と触れさせることで味噌のおいしさが増す。



環境に優しい取組
インキのVOC (Volatile Organic Compounds = 揮発性有機化合物) を低減するために使用する溶剤の一部を大豆油に置き換えたSoy Ink (大豆油インキ) を使用している。

仙台みそをつくる工場
仙台市内に残る伝統的な味噌作りの様子を学習する手がかりとなる。昔ながらの道具に加え近代的な道具も使って仕事が進められている。

新聞工場見学の申込先
河北新報印刷センター
TEL/022-777-3880 FAX/022-777-3890

p. 96、97	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち 5年情報化した社会と産業の発展	小単元名	谷に囲まれた台地に水を引く 情報産業とわたしたちの暮らし
----------	------	--------------------------------------	------	---------------------------------

【指導に当たって】

河北新報の創設に関わった一力健治郎についての資料として活用できる。
NHK仙台放送局を例に、ニュース番組が放送されるまでの流れをつかませることができる。

河北新報社の設立

「東北振興」等の言葉から、設立時の一力健治郎の思いをつかませたい。また、こうした考えが現在にも引き継がれていることにも気づかせたい。

NHK 仙台放送局

放送局では学校の見学受付を行っている。
住所/青葉区本町2丁目20-1
TEL/022-211-1001(見学の受付)

一力健治郎

1863年、仙台市の大町に生まれる。20歳を過ぎ、東華学校(仙台第一高等学校)、旧制第二高等学校(東北大学)、東京の学校にも進学。市会議員や県会議員を務めた後、新聞を東北地方の文化と産業の発展に役立てようと、河北新報社を設立。1897年、33歳で河北新報を創刊。当時は新聞をとる人が少なく苦しい経営だったが、様々な努力を重ねた。



河北新聞の昔と今の紙面を比較できる。
昔の紙面: 明治40年6月22日発行
今の紙面: 令和4年8月22日発行

ニュース番組が放送されるまで

ニュース番組が放送されるまでの流れをつかむことができる。
放送局の見学を取り入れる場合は、放送の仕方や放送局の様子を見学するとともに、放送に携わる人々がどのようなことに配慮しているのかについて調べるようにする。

p. 98	大単元名	5年 情報化した社会と産業の発展	小単元名	情報を生かす産業
-------	------	------------------	------	----------

【指導に当たって】

「仙台市交通局」の取組を例に、運輸業(バス、地下鉄)の利用サービスに、情報が生かされていることを示す資料として活用できる。こうした取組が市民の暮らしにどのように役立つのかを考えさせたい。

仙台市交通局では、パソコンやスマートフォンを使ってバスや地下鉄の運行状況や時刻表などを手軽に検索することができる情報サービスを展開している。実際に検索をして、利用者がどのような情報を調べることができるのかを確認できる。



「どこバス仙台」(バス接近情報)
指定した乗車停留所(出発)と降車停留所(到着)のバス接近情報を検索することができる。

「せんだい市バス・地下鉄ナビ」
「経路・運賃を調べる」「時刻表を調べる」「定期券を調べる」の3つの項目から、利用者が用途に合わせて選択し、検索することができる。

スマートフォンなどを使わない人のために、「表示器」などを使った情報の「見える化」が進められることにも触れ、多くの人にとって便利で使いやすいサービスを展開していることを理解する。

参考
仙台市交通局 ホームページ <https://www.kotsu.city.sendai.jp/>

p. 99、100	大単元名	6年 わたしたちの生活と政治	小単元名	わたしたちのくらしと日本国憲法 国の政治のしくみと選挙
-----------	------	----------------	------	--------------------------------

【指導に当たって】

図から市民、市役所、市議会の関係をつかませ、市民の願いを実現するための政治の役割に気付かせたい。また、税金の使われ方から、市民の生活を支えるための税金の役割にも気付かせたい。

豊かなくらしを実現するために、日本国憲法がどのような働きをしているか考えさせたい。ここでは、「基本的人権の尊重」と子育てが安心してできるまちやユニバーサルデザインとの関わり、「国民主権」と裁判所の関わりについて取り上げている。

市民の願い、市役所、市議会

図から、市民の願いが政治によってどのように実現されるかを理解する。市役所、市議会のそれぞれの役割を調べ、それぞれどのような関わりがあるか考える。



みんなが暮らしやすいまちに

誰でも安心して暮らすことができるまちづくりにはどのようなことが必要か、福祉の視点から考える。

仙台高等裁判所

高等裁判所は、主に第二審を担当し、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡に置かれる。仙台高等裁判所では、小・中学生を対象とした見学を受け付けている。

住所/青葉区片平1丁目6-1
TEL/022-745-6194、6195
(見学の受付)

税金の働き

税金が様々なことに使われていることについて、具体的な例を挙げて話し合う。

p. 101	大単元名	3年 わたしたちのまちみんなのまち	小単元名	市の様子
		6年 日本の歴史		縄文のむらから古墳のくにへ

【指導に当たって】

歴史の学習の入り口として、仙台市内にある遺跡や施設の見学を取り入れたい。地底の森ミュージアム、縄文の森広場では、見学のワークシートや体験メニューを用意している。

仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム

富沢遺跡は仙台市の東南部に広がる面積が約90haという広大な遺跡。昭和57年(1982)から発掘調査が行われ、弥生時代から明治時代にかけての大規模な水田遺跡として知られるようになる。その後の調査で下層から縄文時代の層が確認され、昭和63年(1988)に初めて旧石器時代のたき火跡が見つかったことから、富沢の歴史が2万年前の氷河期までさかのぼることが明らかになった。



仙台市縄文の森広場

昭和55年(1980)に発掘調査が行われる。縄文時代のムラ全体の様子が分かる遺跡として保存される。「上ノ台」という地名が表すように、標高55mの見晴らしのよい高台に位置する。太古には南側を流れている名取川の河原だったために、ほぼ平らな土地になっている。縄文のムラがあった頃は今よりも近くを名取川が流れ、台地のまわりには豊かな森が広がっていたと考えられる。

仙台市の遺跡

市内には多数の遺跡があるが、代表的な遺跡として遠見塚古墳を紹介している。市内の遺跡については、文化財課のホームページからも調べることができる。

【指導に当たって】
 仙台藩 62 万石の基礎を築いた伊達政宗の生涯について紹介している。全国統一を進めた 3 人の戦国武将（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）と関連付けた学習の展開も考えられる。

仙台市博物館
 博物館では伊達政宗や仙台藩の様子について学ぶことができる。施設を利用し、実物資料を見ながらの学習を展開したい。
 住所/青葉区川内 26 番地
 TEL/022-225-3074（見学の受付）

政宗の持ち物
 政宗のよろいかぶとから戦国時代の戦の様子について想像する。陣羽織やブローチから、当時南蛮文化が伝来し、政宗が目を向けていたことについて理解する。

「伊達政宗画像」
 両目が描かれていることなどに着目させ、後に独眼竜と言われた政宗のエピソードに興味を持たせたい。左上は、政宗が晩年、自分の気持ちを詠んだと言われる漢詩。



伊達政宗年表
 戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した政宗の生涯について理解する。

伊達 政宗
 永禄 10 年 (1567)、米沢 (山形県米沢市) に生まれる。父は輝宗、母は山形城主最上義光の妹にあたる義姫。幼少期に右目を失明し、後に「独眼竜」と呼ばれる。18 歳で家督を継いだ政宗は、翌年の父輝宗の非業の死を乗り越え、蘆名、相馬、大崎、最上など、近隣の戦国大名らと戦う日々を送る。しかし、この頃豊臣秀吉による天下統一が推し進められ、豊臣政権下の大名へと転身することになる。豊臣と徳川の対立による動乱の後、徳川幕府が成立し、江戸時代を迎える。政宗はこうした動乱の時代を乗り越え、東北の雄から全国有数の大名へと成長をとげる。仙台城の築城、城下町の整備、新田の開発、寺社の造営・再興、北上川の河川工事等、仙台藩 62 万石の礎を築いた。

【指導に当たって】
 慶長遣欧使節と支倉常長については、江戸幕府によるキリスト教の禁止と関連付けて学習を展開することが考えられる。また、慶長遣欧使節がユネスコの世界記憶遺産に登録されていることについても触れたい。実物の資料については、仙台市博物館で見学できる。また、貸出教材（写真パネル、画像データ）として授業で活用することもできる。
 林子平については、江戸時代の後期に外国船が日本に開国を求め接近したことや、幕府を批判する学者などが現れたことと関連付けて、学習を展開することも考えられる。

支倉常長像
 ロザリオを持つ支倉常長が、キリストに祈りを捧げている。絵を折り曲げたような跡がある点に着目し、当時の日本ではキリスト教が禁止されていたことと関連があることに気付かせたい。



林 子平
 1738 年、江戸に生まれる。兄が藩医となった縁で、家族と共に仙台に移り住む。子平は江戸や長崎など全国を遊歴し、ロシアの南下政策や欧米の植民地政策など外国の形勢を見聞した。「世界之図」は、子平が長崎で通訳の松村元綱が持っていた「世界之図」を模写したもの。「海国兵談」は子平の代表的著作。青葉区子平町の龍雲院に子平の墓がある。

慶長遣欧使節
 サン・ファン・パウティスタ号に、総勢 180 人を乗せての船出であった。一行には宣教師のルイス・ソテロが同行し、通訳として活躍する。ソテロは政宗にローマに使節を送ることを熱心に勧めていた。

ローマ市民権証書・パウロ五世像
 ローマ市議会が常長にローマ市の市民権を与え、貴族に列する旨を認めた証書。パウロ五世像は、常長らがローマで謁見した、ローマ教皇パウロ五世の肖像画。

p. 106、107	大単元名	3年 わたしのまち みんなのまち	小単元名	市の様子
		3年 市のうつりかわり		市の様子と人々のくらしの うつりかわり
		6年 日本の歴史		長く続いた戦争と人々のくらし

【指導に当たって】

地域の歴史を知る手がかりになる施設、様々な遺跡や辻標、神社、寺などを取り上げている。遺跡や文化財に携わる人、博物館、公民館、地域の人に話を聞くなどしながら、学習を展開したい。また、教師が地域の歴史について調べる際、「仙台市史」等の自治体史も活用したい。

仙台市戦災復興記念館では、戦時中の人々の暮らしや、仙台空襲の様子から街の復興までの様子について学ぶことができる。学習計画の中にぜひ施設の見学を位置付けたい。

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設/仙台城見聞館

どちらも文化財課管轄の施設であり、観覧無料で見学することができる。国分寺跡～見聞館など地下鉄東西線を利用した校外学習でも活用可能。ガイダンスの対応も行っている。(事前予約必要)

歴史を知る手がかり

遺跡や神社、寺、道しるべ石等から、地域の歴史に触れることができる。機会があれば、地域に残る歴史の跡を是非訪ねてみたい。



仙台市戦災復興記念館

昭和 20 年(1945)7 月 10 日未明、午前 0 時 3 分、仙台市中心部に 12、960 発の爆弾が落され、約 500ha を焼失。身元が判明した方だけで、1064 名もの人命が失われた。戦災復興記念館は、未来への記憶として、世代を超えて語り継ぐために、昭和 56 年(1981)に、戦災復興事業の締めくくりとして開館した。

仙台空襲を体験した方の話 (元東二番丁小ゲストティーチャー 今井さん)

戦時中の仙台、空襲の様子を伝える資料。戦災復興記念館では学習教材用 DVD 資料を貸出す他、戦争の語り部の紹介、職員による館外での出前授業を受け付けている。授業に合わせて活用したい。

p. 108、109	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち	資料	仙台市名誉市民
------------	------	-------------------	----	---------

【指導に当たって】

仙台市の発展に尽くした、仙台市名誉市民について取り上げている。地域の発展につくした人々について調べ、その業績や苦心を知ることで、地域に対する誇りと愛情を育てたい。

本文「仙台市名誉市民」

仙台市では、これまで 22 名の方々に、名誉市民の称号を送っている。ここではそれぞれの功績について紹介している。

「仙台市名誉市民について」

仙台市役所 1 階「市民ギャラリー」や仙台市のホームページで参照することができる。また、仙台市史通史編「現代 2」にも名誉市民の業績がまとめられている。

※平成元年までの表彰者



《表彰年一覧》

- S 2 4 本多光太郎・志賀潔・土井林吉(晩翠)
- S 3 1 熊谷岱蔵・榎有恒
- S 3 4 村上武次郎・阿部次郎・増本量・野副鉄男
- S 3 6 内ヶ崎賛五郎
- S 3 9 一力次郎・黒川利雄
- S 4 4 千嘉代子
- S 5 2 菊地養之輔・加藤多喜雄
- S 5 9 西澤潤一
- H 元 石田名香雄
- H 8 加藤陸奥雄・杉村惇
- H 1 6 小田滋 一力一夫
- H 2 6 岩崎俊一

【指導に当たって】

鉄の神様と言われた「本多光太郎」の業績を取り上げている。東北大学金属材料研究所本多記念館では、KS磁石鋼、新KS磁石鋼を始め、本多の業績がわかる様々な資料が展示されている。

写真「本多光太郎」
KS磁石鋼の写真や、切手から本多の業績に関心を高める。

本文
光太郎は「産業は学問の道場」という言葉を残し、産学共同を重視、博士の尽力により、多くの新しい企業が仙台に誕生した。

「本多光太郎の年譜」
光太郎に関する「出来事」や「業績」について、年代を追って記載した。少年期や青年期の様子については、本文から読み取る。

光太郎の少年時代
小学生時代は、「鼻たらしの光さん」と呼ばれ、特に暗記が苦手だった。そのためにしばしば学校へは行かずに魚とりなどをして過ごしていた。」と伝えられている。



「KS磁石鋼」
鉄及び鉄合金の研究に励み、強力な磁石鋼であるKS磁石鋼を、さらにその4倍近い保磁力を持つ新KS磁石鋼を発明し、文化勲章を受章した。

説明「寺田先生の言葉」
光太郎の才能を見出した寺田先生の言葉が、学問の道を強く志すきっかけとなった。

「東北大学金属材料研究所本多記念館」
本多光太郎に関する資料が保管されている。
住所/青葉区片平2-1
TEL/022-215-2181

【指導に当たって】

「荒城の月」でも知られる詩人「土井晩翠」の業績を取り上げている。土井の業績については、立町小学校土井晩翠校歌資料室（主に校歌を中心に）、仙台文学館、晩翠草堂等で調べることができる。

写真「土井晩翠」
「荒城の月」や晩翠が作った数々の校歌から晩翠の業績に関心を高める。

土井晩翠が作詞した学校の校歌
全国の学校と海外の日本人学校なども含めると195校もの校歌の作詞を手掛けている。

「土井晩翠の年譜」
晩翠に関する「出来事」や「職業」について、年代を追って記載した。少年期や青年期の様子について、本文から読み取る。

「晩翠の少年時代」
「小さいころからお話を聞いたり本を読んだりするのが大好きな子供だったそうです。字の読めないうちは、和歌や俳句に親しんでいた父親や祖母に昔話をよくねだっていました。小学校に通うようになると、中国の歴史物語を夢中で読んでいました。「その熱心さには、担任の先生も感心するほどだった。」と伝えられている。



情報コーナー「仙台文学館」
晩翠については仙台文学館の常設展示で紹介している。また、館内見学の際の展示解説や、学校への出前授業も受け付けている。
仙台文学館
住所/青葉区北根2-7-1
TEL/022-271-3020

写真「土井晩翠校歌資料室」
立町小学校の中に晩翠が残した、たくさんの資料が展示されている。
立町小/青葉区立町8-1

「市民合唱」
「荒城の月」が発表されてから120年目を記念して、「荒城の月市民大合唱」の動画が公開された。(企画制作: 仙台市、仙台文学館)
動画は下記のサイトで視聴することができる。
せんだい tube【仙台市公式動画チャンネル】
>2ch せんだいの魅力>せんだいの魅力単独動画
>うちでうたおう 杜の都にひびけ「荒城の月 市民大合唱」
<http://www.youtube.com/watch?v=A5kyJCNWQUg>

折込 ページ	大単元名	4年 わたしたちの県	小単元名	県の広がり
		5年 わたしたちの国土		世界の中の国土

【指導に当たって】

仙台市の国際姉妹・友好都市について取り上げている。宮城県と他地域、外国との結びつきについて調べる学習の資料として活用することができる。

世界地図・説明

各国際姉妹・友好都市の場所と挨拶を紹介し、様々な国の言葉に触れさせたい。

説明

各国際姉妹・友好都市名と、締結年が紹介されている。それぞれの都市との提携動機等の詳細については、仙台市のホームページを参照することができる。他に、交流促進協定締結都市・台南市(台湾)、産業振興に関する協定締結都市・オウル市(フィンランド共和国)がある。



写真

各都市の様子を知る手掛かりとして、各国際姉妹・友好都市の特徴的な建物や祭りの様子、町並みなどを紹介しており、地図帳を使って、国や都市の位置を確かめることができる。

仙台市の国内姉妹都市

音楽姉妹都市：竹田市（大分県）、中野市（長野県）
観光姉妹都市：徳島市（徳島県）
歴史姉妹都市：宇和島市（愛媛県）、白老町（北海道）

<国際姉妹・友好都市>

○リバサイド市(アメリカ合衆国)～風光明媚な南カリフォルニアの中心にあるリバサイド郡の郡都で、郡の西部に位置し、ロサンゼルスから車で一時間程度のところにある。かつて柑橘産業が盛んだったため、その時代の遺産が随所に見られる歴史の街。現在は小売業とエンターテイメント産業において継続的に発展しており、南カリフォルニア第三の郊外小売業中心都市である。また、教育水準も高く、数多くの研究機関が集積している。人口約32万人。

○レンヌ市(フランス共和国)～ブルターニュ州の州都であり、政治・経済・文化の中心地。中世以来の伝統的な建築と近代的な建築とが調和した落ち着いた落ち着きのあるまち。多くの高等教育機関や研究機関があり、ブルターニュの学術研究の中心的役割を果たしている。また、農林漁業の中心地で畜産、酪農等が盛んであり、バイオ・テクノロジーを利用した食品加工業も盛んになってきている。通信光学関係の研究も盛んで産・学・官共同のプロジェクトであるレンヌ・アタラントを中心に日本企業の進出も進んでいる。人口約22万人。

○ミンスク市(ベラルーシ共和国)～古くからの歴史と伝統を持つ都市で現在ベラルーシ共和国の首都。姉妹都市提携当時は、旧ソ連邦の白ロシア共和国だったが、1991年に独立し、国名をベラルーシ共和国と改め、現在にいたっている。第2次世界大戦による戦災で古い街並みは失われたが、戦後著しい復興を遂げ、自動車やトラクターなどの生産が盛んな工業都市として生まれ変わった。また、ベラルーシ国立大学をはじめとする大学や研究機関、オペラ、バレエ劇場や博物館、美術館などの文化施設が数多く立地する学術・文化都市でもある。人口約202万人。

○アカプルコ市(メキシコ合衆国)～メキシコ合衆国太平洋岸ゲレーロ州最大の都市。首都メキシコシティから約400kmの地点に位置し、太平洋岸でも最も古く、また、美しい港のひとつであるアカプルコ港を有する。美しい砂浜と変化に富んだ海岸線で知られる国際的な観光保養都市であり、主な産業は観光業である。1614年(慶長19年)の慶長遣欧使節支倉常長アカプルコ上陸を縁として、姉妹都市提携がなされた。人口約78万人。

○長春市(中華人民共和国)～吉林省の省都で、肥沃な土壌をベースに農業が発達しており、「東北食糧庫」と称されている。工業では「長春第一自動車グループ」等を中心とする交通運輸設備製造業が主体であるほか、電子・光学・食品・軽紡化学・建材等の産業が発達しており、また映画産業も盛んである。また、吉林大学など40以上の大学をはじめ、数多くの高等教育機関や研究所があり、教育の中心地でもある。総人口約907万人。

○ダラス市(アメリカ合衆国)～商業、流通、金融、製造業が盛んなアメリカ合衆国中南部の拠点都市。全米最大規模のダラス・フォートワース国際空港や世界最大の卸売展示場であるダラス・マーケットセンターなどの施設があり、全米有数のコンベンション都市である。プロスポーツの盛んな都市としても有名で、アメリカンフットボール、バスケットボール、野球、サッカー、アイスホッケーなどのプロチームが本拠地としている。人口約135万人。

○光州広域市(大韓民国)～首都ソウルから南へ約330km、飛行機で約40分のところに位置する大韓民国南西部の政治・経済・文化・教育の中心地。韓国南西地域を代表する芸術の都と言われ、パンソリ(物語を歌唱化した民族芸能)の発祥地であり、墨の香りが漂う南宗画(韓国画)もさかんである。また、1995年(平成7年)から世界美術博覧会「光州ビエンナーレ」を創設し、韓国の文化芸術を世界に広めることを目指している。他にも、先端産業団地の整備や科学技術院の設置などを行い、先端技術産業の育成・誘致にも力を注いでいる。人口約145万人。

～仙台市ホームページより